

## XI 参考資料

- 1 国立博物館における中国・韓国国際交流事例  
平成 18 年度(2006)～平成 15 年度(2003)
- 2 中国事情
  - (1) 博物館ブーム・博物館学・博物館文化  
- 博物館発展のキーワードは博物館人 -
  - (2) 博物館史研究：中国 30 年来の進展
  - (3) 中国の博物館はどこに向かっているのか
  - (4) 博物館教育機能の最適化分析
  - (5) 全国博物館評価方法（試行） 博物館評価基準点数表（修訂）
- 3 ICOM 関係機関一覧
- 4 ICOM アジア太平洋委員会（ICOM-ASPAC）国内委員会一覧
- 5 アジア太平洋地域 博物館協会一覧

## XI 参考資料

### 1 国立博物館における中国・韓国国際交流事例 平成 18 年度 (2006)

#### ■東京国立博物館

##### 「悠久の美 中国国家博物館名品展」(共催展)

##### ○方針

日中国交回復 35 周年、日本中国文化交流協会創立 50 周年を記念し、中国を代表する博物館の一つである中国国家博物館の収蔵品の中から、新石器時代から五代に焦点を絞り、数多くの著名な作品を含む考古遺物の優品を一堂に展覧する。

##### 展覧会の内容

中国国家博物館は、中国歴史博物館と中国革命博物館が 2003 年に統合して生まれた文字通り中国を代表する博物館であり、中国の歴史と美術を内外の観覧者に紹介している。

本展は中国国家博物館の収蔵品の中から、特に美術的価値の高い名品 61 件を厳選したものである。新石器時代中期から五代まで(紀元前 4000 年頃から 10 世紀まで)、出土地は 16 の省・市にまたがる。5000 年にわたる悠久の時間の中で培われた、広大な中国各地の様々な文化財を紹介した。

- 1) 開催期間 平成 19 年 1 月 2 日～2 月 25 日
- 2) 会場 平成館 特別展示室第 3 室～4 室
- 3) 主催 東京国立博物館・日本中国文化交流協会・朝日新聞社・中国国家博物館
- 4) 陳列品総件数 61 件
- 5) 入館者数 98,133 人(目標 80,000 人)
- 6) 入場料 一般 1,300 円 大学生 800 円  
高校生 700 円 中学生以下無料
- 7) 担当 谷豊信列課長、ほか 3 人
- 8) アンケート結果 満足度 77.3%

##### ○自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある点】

- ・中国国家博物館の収蔵品のなかからよりすぐりの名品を、じっくりと鑑賞していただくことができた。
- ・作品の鑑賞環境を重視したディスプレイが行われ、作品の魅力を引き出すうえで効果があった。
- ・中国側との協力態勢により、図録や会場の解説パネルについても入念な準備ができ、観覧者へ適切な情報を提供することができた。

### 【見直し又は改善を要する点】

- ・ 展示作品の質が高かったにもかかわらず、観覧者数があまり増えなかった。展覧会の魅力をわかりやすく効果的に伝えるという点で課題を残した。
- ・ 出品作品件数が少ないという声も少なからず寄せられた。少数精鋭による名品をゆつたりと鑑賞していただくという主催者側の意図に対する説明に不十分な点があったと考えられる。展覧会の趣旨説明のあり方を検討する必要がある。
- ・ 中国国内での作品の輸送について、日本側の目が十分に行き届かないところもあり、作品の保全の観点から不安が残った。今後は作品の保全について、より一層緊密な協力態勢を構築できるよう、中国側の共催者と事前に十分な協議を行う必要がある。

### 「中日書法珍品展」(海外交流展)

#### ○方針

日本と中国の歴代の書の名品を一堂に会し、中国の書の影響を受けながらも独自の展開を示す日本の書との関係などを対比的に捉え、芸術的な価値を展開する。

#### 展覧会の内容

中国の書と、その影響を受けながら独自の世界を築いてきた日本の書を対比的に展示し、書の歴史や展開を概観するとともに、両国の書の名品を通じて、書芸術の素晴らしさを広く紹介した。

- 1) 開催期間 平成 18 年 3 月 13 日～4 月 23 日 (42 日間)
- 2) 会場 上海博物館 (中国)
- 3) 主催 上海博物館、東京国立博物館、朝日新聞社
- 4) 陳列品総件数 103 件 (うち国宝 18 件、重要文化財 10 件)
- 5) 入館者数 146,252 人
- 6) 入場料金 大人 : 20 元
- 7) 担当 島谷弘幸展示課長ほか 1 人

#### ○自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある点】

「喪乱帖」が 1300 年ぶりに里帰りを果たすと同時に、日本の書が本格的に中国で紹介された画期的な展覧会であった。中国内で大きな反響を呼び、多くの来館者に日中両国の書のすばらしさ素晴らしさを紹介することができた。また、展覧会に関連して国際シンポジウムが開催され、日本側からは名和 陽明文庫長、島谷展示課長ほかが発表を行い、また、富田列品室長、鍋島書道博物館研究員が『上海文博』誌上に研究成果を発表した。展覧会の内容についても、こうした外部機関の研究者と密接な連携・協力を行うことにより、質的にも高い水準のものを実現することができた。

【見直し又は改善を要する点】

上海博物館の展示会場において、巻物を逆方向から見ざるを得ない箇所が生じ、鑑賞に支障をきたしたところがあった。海外展における会場のレイアウトについては、事前に一層綿密な検討を行なうようにしたい。また、撤収作業時に作品の後補部分の一部が破損する事故が起きた。諸条件の異なる海外での展示・撤収作業にあたっては、より一層の注意を払い、万全を期すようにしたい。

収蔵品の貸与

○方針

- ・海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ約 250 件を貸与する。(海外交流展出品作品を含む)
- ・韓国国立中央博物館の平常展示のための 95 件を長期貸与する。

○実績

- ・海外の美術館・博物館等で開催する展覧会（海外交流展を含む）及び平常展示に 359 件を貸与した。
- ・韓国国立中央博物館の平常展示のため 95 件を長期貸与中である。

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

国内外に多数の収蔵品を貸与し、先方の平常展・特別展を充実させることができた。考古資料相互貸借事業は、対象地域を一定の地区に限定した結果、双方ともにまとまった内容の展示を行うことができただけでなく、輸送費も抑えることができた。

海外研究者招聘・受入実績

国名	職名	氏名	用務	機関
中国	杭州市文物管理所所長	杜 正賢	当館蔵の中国青磁作品調査および最新発掘成果の情報提供	平成 18 年 10 月 21 日 ～10 月 28 日

国名	所属機関・職名	氏名	用務	機関
韓国	中央博物館美術教育部 バリアフリー担当	張 真雅	日韓国際学術交流協定事業 日本の中世水墨画および朝鮮絵画の調査	平成 18 年 11 月 26 日 ～12 月 9 日
韓国	国立中央博物館総館長	金 紅男	当館との今後の連携事業などについての打合せ・意見交換（文化庁外国人芸術家・文化財専門家招聘事業により招聘）	平成 19 年 2 月 26 日 ～3 月 2 日

## ■京都国立博物館

### 海外研究者の招聘

#### ○方針

海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。

#### ○実績

##### 1) 海外研究者招聘

9人（国際シンポジウムでの招聘 2人）（目標 5人）

##### 2) 当館研究員の海外派遣

延べ14人（目標 1～2人）

##### 3) 国際会議への参加

9月7日～11日国際学術検討会（中国 南教師範代学）

#### ○自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある点】

1)、2) 特別展覧会「京焼—みやこの意匠と技—」関連で5人の研究者を海外から招聘し、また当館研究員も作品調査のため海外へ渡航した。

東アジアにおける紙文化財修復について、文化庁、法人本部、当館による招聘事業において中国専門家を招聘し、今後計画されている事業の基盤を作ることができた。

### 収蔵品の貸与

#### ○方針

収蔵品の活用を図ることについては、展覧会等での展示以外にも保存状況を勘案しながら国内外の博物館、美術館等への貸与を推進する。

#### ○実績

収蔵品貸与 232件（うち海外への貸与 8件）（目標 200件）

特別観覧件数 841件

#### ○自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある点】

・公立博物館・美術館の要請により、当館の展示計画との調整を行ったうえで、積極的に収蔵品の貸与を行い、各博物館、美術館の展示の充実に寄与した。

### 海外研究者招聘・受入実績

国名	職名	氏名	用務	機関
中国	文化部国家文物局博物館司長	宋 新潮	東アジア紙文化財の保存と修復の技術交流	平成19年3月12日～3月17日

中国	文化部国家文物局博物館司科技情報処長	羅 静	東アジア紙文化財の保存と修復の技術交流	平成19年3月12日～3月17日
中国	ユネスコ北京事務所文化遺産保護専門員	杜 曉帆	東アジア紙文化財の保存と修復の技術交流	平成19年3月12日～3月17日

## ■奈良国立博物館

### 海外研究者の招聘

#### ○方針

国際交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館との交流を活発に行う。

#### ○実績

海外の美術館・博物館等からの研究員招聘 10名（目標6名）

海外の美術館・博物館等への研究員派遣 16名（目標6名）※延べ人数

- 1) 国際交流協定を結んでいる4機関と研究員の招聘及び派遣により、文化財の調査研究を行った。

協定機関 中国・上海博物館、中国国家博物館、中国・河南博物院、韓国国立慶州博物館  
 ・上海博物館から研究員3名を招聘し、当館及び国内の博物館美術館を視察し、意見交換を行った。当館からは3名を派遣し、上海博物館及び中国国内の仏教遺跡の調査研究を行った。

- ・韓国国立慶州博物館から研究員2名をそれぞれ1ヶ月招聘し、当館及び国内の博物館美術館を視察し意見交換を行った。当館からは1名を派遣し、韓国国立慶州博物館の所蔵品調査を行った。

- ・中国国家博物館へ1名を1ヶ月間派遣し、中国国家博物館及び中国国内の博物館等を視察し調査研究を行った。

#### 2) その他

- ・韓国国立中央博物館から研究員1名を約1年間受入れ、当館収蔵品の調査や国内の博物館美術館における調査に協力した。

- ・正倉院学術シンポジウム開催にあたり、中国・陝西歴史博物館から1名、韓国・弘益大学から1名招聘し、正倉院宝物が形成された8世紀における両国の文化財に関する研究成果を得た。

#### ○自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある点】

- 1) 上海博物館及び韓国国立慶州博物館と研究員交流を実施した。派遣機関で所蔵文化財調査を実施し、仏教美術に関する調査及び将来の作品貸借へとつながる調査ができた。
- 2) 韓国国立中央博物館研究員を約1年間受入れ、研究交流のみだけでなく、韓国内の博物館等との連絡調整等に寄与し、相互理解を図ることができた。

## 海外研究者招聘・受入実績

国名	職名	氏名	用務	機関
中国	上海博物館物業管理部門主任	張 財生	上海博物館と奈良国立博物館との学術交流	平成18年8月28日～9月6日
中国	上海博物館開放部副主任	李 華	上海博物館と奈良国立博物館との学術交流	平成18年8月28日～9月6日
中国	上海博物館辦公室副主任	陳 勇	上海博物館と奈良国立博物館との学術交流	平成18年8月28日～9月6日
中国	陝西歴史博物館研究員	晏 新志	奈良国立博物館主催の「正倉院学術シンポジウム」出席	平成18年10月27日～10月30日
中国	法門寺博物館 前館長	韓 金科	外国人芸術家・文化財専門家招聘事業（文化庁）による招聘	平成19年3月8日～3月17日

国名	職名	氏名	用務	機関
韓国	韓国国立中央博物館学芸研究官	崔 善柱	財団法人日韓文化交流基金招聘フェローシップ	平成18年4月1日～2月28日
韓国	韓国国立慶州博物館学芸研究士	柳 泰坤	韓国国立慶州博物館と奈良国立博物館との学術交流	平成18年8月15日～9月14日
韓国	弘益大学校教授	金 理那	奈良国立博物館主催の「正倉院学術シンポジウム」出席	平成18年10月27日～10月30日
韓国	韓国国立慶州博物館学芸研究士	林 宰完	韓国国立慶州博物館と奈良国立博物館との学術交流	平成19年1月15日～2月14日

## その他招聘

国名	職名	氏名	用務	機関
韓国	韓国国立慶州博物館館長	金 誠龜	奈良国立博物館主催の特別展「正倉院展」開会式に出席	平成18年10月22日～10月24日
韓国	韓国国立慶州博物館事務員	金 京東	奈良国立博物館主催の特別展「正倉院展」開会式に出席	平成18年10月22日～10月24日

## ■九州国立博物館

### 我が国における博物館のナショナルセンターとしての機能の強化

#### 調査研究の成果の発信

##### ○方針

九州に根ざした国立博物館としての特性を活かした保存修復活動やシンポジウム・セミナーを展開し、ナショナルセンターとしての役割を果たす。

##### ○実績

- ・アジアとの文化交流を、文化財の保存修復を通して進める事業として保存修復に関わるシンポジウム「東アジア文化財保存サミット」を開催した。
- ・国際シンポジウム「博物館教育の活性化へ向けて」10月29日  
ミュージアムホール 参加者230名  
独立行政法人国立博物館・福岡県との主催で博物館教育に携わる研究者等（イギリス、

韓国、シンガポール、台湾、タイ、日本)による講演、報告、討論を実施した。

- ・国際シンポジウム「漢字文化のひろがり」9月17日

ミュージアムホール 参加者 260名

日本・韓国出土の木簡を中心に漢字文化の広がりについて研究者等(韓国、日本)による講演、報告、討論を実施した。

#### ○自己点検評価

##### 【見直したまたは改善を要する点】

- ・来年度は、東アジアの紙文化財保存修復に関する日中韓三国のシンポジウムを開催し、文化財保存修復を通して実践するアジアとの交流や貢献をより積極的に推進する。
- ・国際シンポジウム開催内容や時期等を事前に十分検討しておく必要がある。

### 海外研究者の招聘

#### ○方針

- 1) 海外の博物館・美術館等との研究者の招聘及び当館職員の海外博物館等への派遣を通して、海外博物館等との学术交流の推進に努める。
- 2) 国際シンポジウムを開催し、調査研究の充実を図る。

#### ○実績

##### 1) 研究交流の推進

- ・海外研究者の招聘 17人(目標1人程度)(当館招聘12人、文化庁招聘事業5人)
- ・海外への研究員派遣 32人(目標1人程度)
- ・文化庁主催のアジア諸国博物館・美術館研究協力事業により、中国文物研究所、韓国国立扶餘博物館、韓国国立公州博物館、ベトナム考古学院の研究員を招聘した。
- ・韓国国立扶餘博物館、韓国国立公州博物館と学術文化交流協定を締結した。
- ・南京博物館との学術文化交流協定締結に向けた事前協議のため、南京博物館院長を招聘し、その後締結した。

##### 2) 国際シンポジウムの開催

- ・「漢字文化のひろがりー日本・韓国出土の木簡を中心にー」(9月17日)
- ・「東アジア文化財保存サミット」(9月30日)
- ・「寧波の美術から海域交流を考える」(12月16日～17日)

#### ○自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある点】

- 1) 文化庁招聘事業により5名受け入れたほか、学術文化交流協定を締結する等、海外博物館等の学术交流を推進することができた。
- 2) 3回の国際シンポジウムの開催により、専門的な意見交換を行い、調査研究の充実を図ることができた。



【見直しまたは改善を要する点】

外国人研究者招聘について、今後とも外部資金等も活用して、計画的に進めたい。

海外研究者招聘・受入実績

国名	職名	氏名	用務	機関
中国	南京博物院長	■ 良	学術文化交流協定締結に係る事前協議	平成 18 年 6 月 20 日 ～6 月 30 日
中国	南京博物院 展示芸術 研究所長	陳 江	学術文化交流協定締結に係る事前協議	平成 18 年 6 月 20 日 ～6 月 30 日
中国	南京博物院長 文物保護研究所副所長	張 金萍	住友財団海外文化財維持・修復事業（泗水王陵出土西漢文物の保存）による研究打合せ及び研究発表	平成 18 年 6 月 1 日 ～6 月 20 日
中国	南京博物院長 文物保護研究所研究員	周 健林	住友財団海外文化財維持・修復事業（泗水王陵出土西漢文物の保存）による研究打合せ及び研究発表	平成 18 年 6 月 5 日 ～6 月 16 日
中国	四川省文物考古研究所 元所長	馬 家郁	国際シンポジウム「東アジア文化財保存サミット」	平成 18 年 9 月 22 日 ～10 月 1 日
中国	南京博物院長 文物保護研究所副所長	張 金萍	国際シンポジウム「東アジア文化財保存サミット」	平成 18 年 9 月 22 日 ～10 月 1 日
中国	中国文物研究所 研究員	陳 青	平成 18 年度アジア諸国博物館・美術館研究協力事業（文化庁）による招聘	平成 18 年 9 月 22 日 ～10 月 2 日
中国	中国紫壇博物館技術人員	丁 亜軍	寄託品組立作業による招聘	平成 19 年 1 月 29 日 ～1 月 31 日
中国	中国紫壇博物館技術人員	薰 玉柱	寄託品組立作業による招聘	平成 19 年 1 月 29 日 ～1 月 31 日
中国	中国紫壇博物館館長	陳 麗華	寄託品贈呈式出席による招聘	平成 19 年 1 月 31 日 ～2 月 1 日
中国	中国紫壇博物館副館長	遲 重瑞	寄託品贈呈式出席による招聘	平成 19 年 1 月 31 日 ～2 月 1 日

国名	職名	氏名	用務	機関
韓国	国立韓国伝統文化大学 校教授	姜 大一	国際シンポジウム「東アジア文化財保存サミット」	平成 18 年 9 月 22 日 ～10 月 1 日
韓国	国立扶餘博物館 学芸 研究士	申 紹然	平成 18 年度アジア諸国博物館・美術館研究協力事業（文化庁）による招聘	平成 18 年 10 月 11 日 ～10 月 20 日
韓国	国立公州博物館 学芸研究士	李 炳鎬	平成 18 年度アジア諸国博物館・美術館研究協力事業（文化庁）による招聘	平成 18 年 11 月 9 日 ～11 月 18 日
韓国	大韓民国国立中央博物 館館長	金 紅男	韓国国立中央博物館と九州国立博物館との国際交流事業に関する意見交換による招聘	平成 19 年 2 月 27 日 ～2 月 28 日

出典：『平成 18 年度独立行政法人国立博物館年報』編集・発行 独立行政法人国立博物館

## 2 国立博物館における中国、韓国との交流事例 平成 17 年度 (2005)

### ■事業実績報告

#### ○学術文化交流

海外の博物館等との研究交流の推進

- ・国際シンポジウム「世界の現場から 今、博物館教育を問う一家族・学校・地域にむけての取り組み」の開催

海外から博物館の教育関係研究員を招聘し、博物館教育についての国際交流を深めた。

(東京国立博物館大講堂、18年2月4日、参加者数 205人)

#### <東京国立博物館>

- ・韓国・国立中央博物館との学術・文化交流協定に従った、収蔵品の貸与(貸与件数 98件(重文5件、重美2件)うち長期貸与(19年9月まで)95件(重文3件、重美2件))

#### <京都国立博物館>

- ・国際シンポジウム

「仏教美術にとっての東アジア往還 ～渡海僧たちがもたらしたもの～」

(国立京都国際会議場 11月22日 参加者数 261人)

#### <奈良国立博物館>

- ・国際シンポジウム

「新羅と古代日本瓦」「金工技術から見た古代日韓関係」「新羅のガラス」

(18年2月25日 参加者数 50人)

- ・韓国・国立慶州博物館、中国・上海博物館、中国国家博物館との間で研究員の相互派遣を実施

#### <九州国立博物館>

- ・「国際博物館シンポジウム」(10月18日 参加者数 250人)
- ・「高句麗シンポジウム」(11月5日 参加者数 300人)
- ・韓国国立文化財研究所との共催による国際シンポジウム「日韓の古代山城を掘る」(18年3月11日 参加者数 300人)
- ・中国南京博物院と「泗水王陵出土木質文物」の保存に関する合作研究の実施
- ・中国内蒙古自治区文物考古研究所との企画展示および保存に関する合作研究

### ■東京国立博物館

#### 「書の至宝—日本と中国」(共催展)

#### ○方針

日本と中国の歴代の書の名品を一堂に会し、書の本場・中国の書の特徴と日本の書との関係などを対比的に捉え、それらの芸術的な価値をじっくり鑑賞する機会とする。

- 1) 開会期間 平成 18 年 1 月 11 日～2 月 19 日
- 2) 会 場 平成館 特別展示室第 1 室～4 室
- 3) 主 催 東京国立博物館・朝日新聞社・テレビ朝日・上海博物館
- 4) 陳列品総件数 189 件（中国 106 件、日本 83 件、うち国宝 33 件、重要文化財 20 件）
- 5) 入館者数 185,334 人（目標 90,000 人）
- 6) 入場料金 大人 1,400 円 大学生 1000 円  
高校生 900 円 小・中学生以下無料
- 7) 担 当 島谷弘幸展示課長 ほか 1 人
- 8) アンケート結果 満足度 85.6%

#### 展覧会の内容

中国と日本における書文化の歴史と振り返りながら、中国と、その影響を受けながら独自の世界を築いてきた日本の書の展開を、両国の書の名品 189 件を通して概観し、さまざまな文化や思想を背景として形成された書の世界に迫った。また、併催事業として、「現在書道二十人展 50 回記念 日本書壇の歩み一昭和から平成へ」を開催した。

#### ○自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある点】

- ・日本と中国の書の名品が一堂に会する展示会で、中日の書法の影響等を比較することができる展示構成とした。これにより、ただ名品を鑑賞するだけでなく、日中の文化の類似点、相違点を明確に示すことができた。
- ・事前の周到な広報活動により、従来の観客層に加え、書道界、茶道関係、国文・漢文関係、歴史学等、幅広い層の方々に観覧していただくことができた。

##### 【見直し又は改善を要する点】

- ・観客数が予想以上に多くなり、また書の鑑賞の特性として観覧時間が長くなりがちであったこと等により、特に会期の後半には会場がかなり混雑した。今後は観客数の予想をこれまで以上に十分に検討し、会場構成や解説パネル等の在り方を工夫するなどして対処していきたい。
- ・アンケート調査の結果、会場の解説文について観客の満足を十分に得られていないことが判明した。一般の方々が作品をよりよく理解できるよう、解説の内容等を今後も引き続き工夫していきたい。
- ・中国側の図録原稿の提出が大幅に遅れ、内容にも問題が多くみられた。国際間の調整を一層綿密に行い、齟齬や行き違いのないよう、取り計らっていく必要がある。

#### 海外研究者の招聘と受入

- A) 上海博物館、アメリカ・ロサンゼルス・カウンティ美術館、ロシア・クレムリン博物館より研究員及び展覧会事業担当者を招聘し、収蔵品調査や、展覧会事業についての意見交換を行った。また、韓国国立釜山博物館、中国河南省文物管理局、パリ・

チェルヌスキー美術館より東洋工芸、博物館管理、日本工芸の専門家を招聘、館蔵品の調査のほか、博物館事業運営や将来の共同事業についての意見交換を行った。

B) 国際シンポジウム「世界の現場から 今、博物館教育を問う一家族・学校・地域に向けての取り組み」を開催し、イギリス・ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館、韓国・国立中央博物館、アメリカ・デンバー美術館より教育普及の専門家を招き、意見交換を行った。

C) 海外研究者等を受入れ 学術交流の推進を図った。(1件)

(招聘)

- ① Ayura・Yusupova (ロシア・クレムリン博物館上席研究員)  
(招聘機関 6月3日～13日)
- ② Irene・Martin (アメリカ・ロサンゼルス・カウンティ美術館展覧会部門アシスタント・ディレクター) (招聘機関 11月19日～12月11日)
- ③ 許 勇翔 (中国・国家文物局鑑定委員会研究員、上海博物館研究員)  
(招聘期間 11月24日～12月2日)
- ④ David・Anderson (イギリス・ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館 教育普及部門担当ディレクター) (招聘期間 18年1月29日～2月6日)
- ⑤ Patterson・B.Williams (アメリカ・デンバー美術館教育部副部長)  
(招聘期間 18年1月29日～2月6日)
- ⑥ 禹 受延 (韓国・国立中央博物館教育室長)  
(招聘期間 18年1月30日～2月5日)
- ⑦ 元 今玉 (韓国・国立中央博物館事業室長)  
(招聘期間 18年1月30日～2月5日)
- ⑧ 李 仁淑 (韓国・国立釜山博物館長)  
(招聘期間 18年2月10日～18日)
- ⑨ 康 国義 (中国・河南省文物管理局博物館処長)  
(招聘期間 18年2月27日～3月6日)
- ⑩ Michl・Mauceur (フランス・パリ市立チェルヌスキー美術館日本美術担当学芸員)  
(招聘期間 18年3月6日～15日)
- ⑪ 崔 応天 (韓国・国立中央博物館展示チーム長)  
(招聘期間 18年3月13日～19日)
- ⑫ Peter C Keller (アメリカ・パウワーズ博物館長)  
(招聘期間 18年3月21日～26日)
- ⑬ 黄 智鉉 (韓国・国立中央博物館学芸研究士) (招聘期間 18年3月22日～18日)

(受入)

- ① 林 煥盛 (京都工芸繊維大学大学院博士課程) (受入期間 16年8月1日～17年7月31日)

## 当館研究員の海外における共同研究

### A 韓国・国立中央博物館との学術文化交流

- ① 島谷弘幸（文化財部展示課長）、吉田知加（事業部教育普及課教育普及室研究員）  
（派遣期間 18年2月7日～13日）派遣先：韓国・国立中央博物館

### B 海外の美術館・博物館のシンポジウム等に派遣

- ① 伊藤嘉章（文化財部展示課平常展示長）（派遣期間 10月6日～18日）  
アメリカ・ロサンゼルス・カウンティ美術館「19世紀万国博覧会における日本の美術」ワークショップ
- ② 白井克也（文化財部展示課主任研究員）（派遣期間 10月16日～29日）  
韓国国際交流財団主催 韓国美術学芸員ワークショップ
- ③ 松原茂（文化財部上席研究員）・岩佐光晴（事業部情報情報課長）  
（派遣期間 12月8日～11日）  
韓国・国立中央博物館主催「日本美術・韓国シンポジウム」

## 「西川寧書法芸術展」（海外交流展）

### ○方針

昭和の日本書壇を代表する書家で文化勲章授章者である西川寧の代表作を厳選し、ゆかりの深い中国の地で回顧展を開催し、日中文化交流の一助とする。

- 1) 開会期間 平成17年3月26日～5月8日（44日間）
- 2) 会場 中国国家博物館（中国）
- 3) 主催 東京国立博物館、中国国家博物館、謙慎書道会
- 4) 陳列品総件数 77件
- 5) 入館者数 40,000人（平常展と同一画内で実施したため、本展のみの入場者は概数として報告を受けている。）
- 6) 入場料金 大人：30元 学生：15元（金曜午後は無料）＜中国国家博物館共通チケット＞  
大人：10元 学生：無料 ＜西川展のみのチケット＞
- 7) 担当 島谷弘幸展示課長 ほか1人
- 8) アンケート結果 未実施

### 展覧会の内容

西川寧の主要作品を、篆書、草書、楷書など、技法別に分けて展示し、その足跡や作風を振り返りながら、書の本場である中国の人々に日本現代書道の真髄を紹介した。

### ○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- ・中国北京の中国国家博物館との間で実施したはじめての共催展であるとともに、書の本場・中国において、中国とゆかりの深い日本人の書法展を開催できたことは、日本と中国の文化交流にとって大きな意味があった。
- ・SARSの影響により1年延期されて開催された展覧会であったが、中国側との連携も比較的順調に行われ、今後の中国における日本関係の展覧会に対して一つの足がかりとすることができた。

【見直し又は改善を要する点】

- ・中国における観覧者の反応が必ずしも詳細に把握することができなかった。今後は、外国における展覧会の際にも、観覧者の感想等を把握できるような手段を講じたい。

海外への列品貸与

展示会名称	申請者【会場】	貸与期間	種別	員数
韓国世界陶磁器エキスポ展覧会「世界青磁展—青磁の色と形」	韓国・財団法人世界陶磁器エキスポ事務総長 南 基明 【広州朝鮮官窯博物館（韓国京畿道広州市）】	平成17年4月2日 ～平成17年7月10日	東洋陶磁	4件(4口)
高麗大学校100周年記念特別展「韓国古代の global pride 高句麗」	高麗大学校博物館長 崔 光植 【高麗大学校博物館(韓国)】	平成17年4月15日 ～平成17年7月30日	東洋考古	10件(9個、1軀)
韓国・国立中央博物館「日本室開室記念展示」	韓国・国立中央博物館長 季 健茂 【国立中央博物館新館 日本室(韓国)】	平成17年9月5日 ～平成18年1月下旬	絵画	3件(2幅、1巻)
韓国・国立中央博物館「日本室開室記念展示」	韓国・国立中央博物館長 季 健茂 【国立中央博物館新館 日本室(韓国)】	平成17年9月5日 ～平成18年1月下旬	絵画、書籍、彫刻、金工、陶磁、漆工、考古	21件(2巻、6曲1双・3、17枚、1幅、2曲1隻・1、4面、8面1隻・1)、10件(7幅、1巻、1葉)、3件(3軀)、17件(10口、2軀、3面、1頭、1柄)、9件(9口、1枚、3本)、6件(5合、1基)、28件(28個)

## 外国人招聘

国名	職名	氏名	用務	期間
中国	国家文物局鑑定委員会 研究員、上海博物館研究 員	許 勇翔	館蔵品の調査、博物館収蔵品 管理や将来の学術交流につい ての意見交換	平成 17 年 11 月 24 日 ～12 月 2 日 (9 日間)
中国	河南省文物管理局博物 館処長	康 国義	館蔵品の調査、博物館事業運 営や将来の共同事業について の意見交換	平成 18 年 2 月 27 日 ～3 月 6 日 (8 日間)

国名	職名	氏名	用務	期間
韓国	国立中央博物館教育室 長	禹 受延	国際シンポジウム「世界の現 場から 今、博物館教育を問 う一家族・学校・地域に向け ての取り組み」事例報告	平成 18 年 1 月 30 日 ～ 2 月 5 日 (7 日間)
韓国	国立中央博物館事務室 長	元 今玉	国際シンポジウム「世界の現 場から 今、博物館教育を問 う一家族・学校・地域に向け ての取り組み」事例報告	平成 18 年 1 月 30 日 ～ 2 月 5 日 (7 日間)
韓国	国立釜山博物館長	李 仁淑	館蔵品の調査、博物館事業運 営や将来の共同事業について の意見交換、朝鮮ガラス工芸 品についての講演会講師	平成 18 年 2 月 10 日 ～月 18 日 (9 日間)
韓国	国立中央博物館展示チ ーム長	崔 応天	館蔵品の調査、博物館事業運 営や将来の共同事業について の意見交換	平成 18 年 3 月 13 日 ～3 月 19 日 (7 日間)
韓国	国立中央博物館学芸研 究士	黄 智鉉	館蔵品、国内美術館における 作品調査、将来の学術交流に ついての意見交換	平成 18 年 3 月 20 日 ～3 月 26 日 (7 日間)

## ■京都国立博物館

### 外国人招聘

国名	職名	氏名	用務	期間
中国	中国文物研究所研究員	陳 秀	日本に特有の文化財にかか る保存修復技術の調査のため	平成 16 年 9 月 1 日 ～平成 17 年 8 月 31 日
中国	中国・浙江工商大学日本 文化研究所 所長	王 勇	国際シンポジウム基調講演 及びパネリスト、特別展示会 出品の調査	平成 17 年 11 月 8 日 ～11 月 15 日
中国	中国国家図書館・善本特 蔵部・副研究員	李 際寧	京都国立博物館所蔵の宋版 の仏典調査	平成 18 年 1 月 25 日 ～1 月 30 日

国名	職名	氏名	用務	期間
韓国	韓国・東国大学校 教授	鄭 于澤	国際シンポジウム基調講演 及びパネリスト	平成 18 年 11 月 11 日 ～11 月 13 日

## ■奈良国立博物館

### 「遣唐使と唐の美術」(共催展)

#### ○方針

西安市内で新たに発見された遣唐使の墓誌を中心に、同時代の中国の一級の美術工芸品を展観し、遣唐使が果たした文化的な役割と唐文化の特質を紹介する。

- 1) 開会期間 平成 17 年 9 月 20 日～10 月 10 日
- 2) 会 場 西新館
- 3) 主 催 奈良国立博物館、社団法人日中友好協会、朝日新聞社、中華文物交流協会
- 4) 陳列品総件数 82 件 (うち重要文化財 11 件、重要美術品 2 件)
- 5) 入館者数 21,196 人 (目標 1 万人)
- 6) 入場料金 大人 1,300 円 高校・大学生 900 円 中学生以下無料
- 7) 担 当 吉澤 悟、稲本泰生 ほか 9 人
- 8) アンケート結果 満足度 81%

#### 展覧会の内容

留学生として唐に渡り、彼の地で没した日本人、井真成。平成 16 年に中国で発見され、話題となった彼の墓誌と、唐代工芸の粋を展示。

#### ○自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある点】

- ・井真成の墓誌は、中国で発見された初めての遣唐使の墓誌であった。その発見は新聞各紙で取り上げられ国民的関心となっていたと同時に、研究者間でもその性格に関する議論が盛んである。特に、井真成は官人として平城京に出仕したはずであり、現在の大阪府藤井寺市周辺が故地ともされているだけに、近畿圏における関心は高く、その公開は時宜を得ていたものと思われる。
- ・中国・唐時代の金銀器や鏡、三彩など、遣唐使たちが目指した先進の工芸品が展示されたが、これは正倉院宝物の原点でもあり、同展に続く正倉院展との連続性において、当館での展示・解説業務に奥行きを持たせることができた。更に特別陳列「模造にみる正倉院宝物」を同時に開催したため、彼我の工芸技術の連関に触れることもでき、総体として展示を充実させることに繋がった。
- ・金銀器の湿度設定や焼き物への耐震対策など、展示会場における配慮・工夫を通して、作品の保全にかかわる意識を更に高めることができた。
- ・シルクロード・プロジェクトによる音楽会やワークショップを展覧会場及び講堂等、館内各所で開催 (5 日間延べ 43 回) し、話題作りに努めるとともに、展覧会を盛り上げることもできた。
- ・小・中学生の入場料金を無料にすることによって、文化財に親しむ機会の増加に配慮した。



### 【見直し又は改善を要する点】

- ・遣唐使の歴史や人物像に関してもう少し掘り下げた展示を求める声が、アンケート等に見られた。先行開催された東京会場での反応をもとに、パネル解説や写真を増やす等の工夫をすべきだったとの反省点がある。

### 調査研究

- 韓国・国立慶州博物館、中国・上海博物館、中国国家博物館、中国国家博物館（北京）等との学術交流。
- ・韓国・国立慶州博物館から研究員 1 名を招聘し、当館及び国内の博物館美術館を視察し意見交換を行った。当館からは 2 名を 1 ヶ月間派遣し、古代朝鮮半島の墓制及び古代仏教工芸等について調査を実施した。
- ・中国・上海博物館から研究員 3 名を招聘し、当館及び国内の博物館美術館を視察し意見交換を行った。当館からは 3 名を派遣し、上海博物館及び中国国内の仏教遺跡の調査を行った。特に特別展「大勸進 重源」に関連する遺跡の調査を実施した。
- ・中国国家博物館から研究員 2 名を招聘し、当館及び国内の博物館美術館を視察し意見交換を行った。当館からは 2 名を約 1 ヶ月間派遣し、中国彫刻及び壁画等の仏教美術について調査を実施した。
- ・韓国・国立扶餘博物館から 1 名、中国・河南博物院から 2 名の研究員を招聘し、当館収蔵品の調査及び国内の博物館・美術館における調査を行い、意見交換した。

### 海外の博物館との学術交流協定

- ・昨年度締結した中国国家博物館、中国・上海博物館及び韓国・国立慶州博物館（継続）との学術交流協定に加え新たに、中国・河南博物館と学術交流協定を締結した。

研究員等の派遣実績 13 人（延べ人数）

- ・韓国・国立慶州博物館、韓国・国立中央博物館、中国・上海博物館、中国国家博物館、中国・河南博物院等に展覧会調査・学術交流のために研究員を派遣した。
- ・文部科学省在外研究員として米国に日本仏教絵画の学術調査及び展示・保存の方法についての調査のための研究員 1 名を派遣した。

### 海外への列品

展示会名称	申請者【会場】	貸与期間	種別・員数
「大韓民国国立中央博物館開館展示」	韓国国立中央博物館【韓国国立中央博物館】	平成 17 年 10 月 21 日 ～11 月 30 日	絵画 2 幅（1 幅）

「書の至宝―日本と中国」	東京国立博物館・朝日新聞社【上海博物館】	平成 18 年 3 月 11 日 ～4 月 23 日	書跡 2 件
--------------	----------------------	-------------------------------	--------

※ ( ) 書きは寄託品

## 外国人招聘

国名	職名	氏名	用務	期間
中国	上海博物館情報センター主任	胡 江	博物館運営について意見交換	平成 17 年 5 月 25 日 ～6 月 3 日
中国	上海博物館管理委員会主任	胡 建中	博物館運営について意見交換	平成 17 年 5 月 25 日 ～6 月 3 日
中国	河南博物院館員	閻 新法	奈良国立博物館開催の特別展「古密教」の開始に伴う出陳作品に随伴	平成 17 年 7 月 17 日 ～7 月 29 日
中国	河南博物院副所長工程師	魏 銀昌	日本に特有の文化財にかかる保存修復技術の調査のため	平成 17 年 7 月 17 日 ～7 月 29 日
中国	上海博物館副研究員	季 峰	上海博物館と奈良国立博物館との学術交流	平成 17 年 8 月 26 日 ～9 月 4 日
中国	上海博物館副研究員	李 孔三	上海博物館と奈良国立博物館との学術交流	平成 17 年 8 月 26 日 ～9 月 4 日
中国	上海博物館助会計師	馮 煒	上海博物館と奈良国立博物館との学術交流	平成 17 年 8 月 26 日 ～9 月 4 日
中国	河南博物院主任副研究員	楊 愛玲	奈良国立博物館開催の特別展「古密教」の開始に伴う出陳作品に随伴	平成 17 年 8 月 26 日 ～9 月 8 日
中国	河南博物院副主任館員	沈 鋒	奈良国立博物館開催の特別展「古密教」の開始に伴う出陳作品に随伴	平成 17 年 8 月 26 日 ～9 月 8 日
中国	河南博物院館員	刘 小磊	文化庁「アジア諸国博物館・美術館研究協力事業」	平成 17 年 11 月 4 日 ～11 月 14 日
中国	中国国家博物館発展企画處處長	張 建華	中国国家博物館と奈良国立博物館との学術交流	平成 18 年 3 月 10 日 ～4 月 10 日
中国	中国国家博物館社会教育部副主任	孫 麗梅	中国国家博物館と奈良国立博物館との学術交流	平成 18 年 3 月 10 日 ～4 月 10 日
中国	河南博物院院長	張 文軍	文化庁「外国人芸術家・文化財専門家招聘事業」	平成 18 年 3 月 26 日 ～3 月 31 日

国名	職名	氏名	用務	期間
韓国	韓国国立慶州博物館管理課長	楊 柄福	奈良国立博物館開催の特別展「正賞院展」開会式に出席	平成 17 年 10 月 27 日 ～10 月 29 日
韓国	韓国国立慶州博物館学術研究士	辛 龍飛	奈良国立博物館開催の特別展「正賞院展」開会式に出席	平成 17 年 10 月 27 日 ～10 月 29 日
韓国	韓国国立扶餘博物館学芸研究室長	金 鍾萬	文化庁「アジア諸国博物館・美術館研究協力事業」	平成 17 年 11 月 4 日 ～11 月 13 日
韓国	韓国国立慶州博物館学術研究室長	俞 炳夏	韓国国立慶州博物館と奈良国立博物館との学術交流	平成 18 年 2 月 1 日 ～3 月 31 日

## ■九州国立博物館

### 特別展「中国 美の十字路」(共催展)

#### ○方針

これまで日本で行われた中国展は、漢や唐といった王朝の名宝展が中心であった。本展は、唐へむかってトップスピードで突き進む時代のダイナミックな中国美術を集めた初めての展覧会である。この時期、北からは遊牧民族が進出し、西からはシルクロードを通して、中央アジアの諸民族が中国大陸との往来を繰り返していた。中国大陸の南北に次々に興った王朝が、それぞれの正当性を主張すべく、より高次の文化を取り入れることに躍起になり、そのような中で文化が著しく成熟していった様相を展観するものである。

- 1) 開会期間 平成 18 年 1 月 1 日～4 月 2 日
- 2) 会 場 3 階 特別展示室
- 3) 主 催 九州国立博物館、西日本新聞社、  
TNC テレビ西日本、中華文物交流協会  
企画協力 大広
- 4) 陳列品総件数 211 件 (うち中国国家一級文物 133 件)
- 5) 入館者数 251,963 人 (目標 3 万人)  
年度末まで 241,273 人
- 6) 入場料金 大人 1,300 円 高校・大学生 1000 円 小・中学生 600 円
- 7) 担 当 17 人
- 8) アンケート結果 満足度 92.5%

#### 展覧会の内容

唐へむかってトップスピードで突き進む時代のダイナミックな中国美術を集めた初めての展覧会

#### ○自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある点】

・当館の最新設備を十分に活かし、前回特別展の反省点を克服することで、質の高い展覧会とすることに成功し、多くのお客様から好評を得た。

## 調査研究

#### ○方 針 (全 体)

当館のメインテーマであるアジア諸国との文化交流に関する研究を実施する。また、機関設置した最初の年であり、科学研究費補助金の申請機関として国の指定を受けることや、客員研究員との共同研究を計画的に実施する。

#### ○実 績

- 1) 日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究

本年度は、文化交流展及び開館記念特別展への韓国からの借用を中心に交流を行った。また、百済文化を特色とする韓国の国立博物館 2 館との学術文化協定の締結に向け、準備を進めている。

長年の交渉が実を結び、文化交流展 89 件、開館記念特別展 6 件の文化財の借用及び返却を無事実施できた。

## 研究交流の推進

海外研究員の招聘及び当館研究員の派遣

- ・海外研究者招聘 10 人（目標 2 人）（当館旅費 4 人、文化庁招聘事業 6 人）
- ・海外への研究者派遣 40 人（目標 2 人）
- ・外国人研究員・研修生の受け入れ 3 人（台湾、イラク）
- ・文化庁主催のアジア諸国博物館・美術館研究協力事業等により、南京博物院、中国文物研究所、内蒙古自治区文物考古研究所、バンコク国立博物館、韓国中寶保存研究所（設置準備中）、大英図書館の研究員を招聘した。

国際的な講演会・シンポジウム等の開催

- ・開館当初に実施したオープニングイベントの一環である。「国際博物館シンポジウム」（平成 17 年 10 月 18 日）、「高句麗シンポジウム」（平成 17 年 11 月 5 日）、韓国国立文化財研究所との共催による国際シンポジウム「日韓の古代山城を掘る」（平成 18 年 3 月 11 日）

## 国際的な研究活動

- ・中国南京博物院と「泗水王陵出土木質文物」の保存に関する合作研究を実施し、今後の協定締結に向けて意向書を交わした。
- ・中国内蒙古自治区文物考古研究所との企画展示及び保存に関する合作研究について協議した。

## 実績

### 1) 開館記念講演会及びシンポジウム

「国際博物館シンポジウム」（平成 17 年 10 月 18 日）

### 2) 国際シンポジウム

- ・「高句麗シンポジウム 日本と高句麗：人とサラムの交流」（平成 17 年 11 月 5 日）  
参加者数 300 人
- ・「日韓の古代山城を掘る」（平成 18 年 3 月 11 日）  
参加者数 約 350 人

### 3) 特別展記念講演会

- ・美の国 日本「一シルクロードから正倉院まで一文明交流と日本文化の形成」  
(平成 17 年 10 月 23 日)

参加者数 300 人

- ・中国 美の十字路「ソグドと中国の東西美術交流」(平成 18 年 2 月 4 日)

参加者数 250 人

## 外国人招聘

国名	職名	氏名	用務	期間
中国	南京博物院文物保■研究所副研究員	万 俐	平成 17 年度在外日本古美術品に係る博物館・美術館研究協力事業及びアジア諸国博物館・美術館研究協力事業(文化庁)による招へい	平成 17 年 11 月 27 日～12 月 7 日
中国	中国文物研究所研究員	杜 曉帆	平成 17 年度在外日本古美術品に係る博物館・美術館研究協力事業及びアジア諸国博物館・美術館研究協力事業(文化庁)による招へい	平成 18 年 2 月 6 日～2 月 16 日
中国	内蒙古文物考古研究所研究員	陳 永志	平成 17 年度在外日本古美術品に係る博物館・美術館研究協力事業及びアジア諸国博物館・美術館研究協力事業(文化庁)による招へい	平成 18 年 2 月 6 日～2 月 16 日

国名	職名	氏名	用務	期間
韓国	2005 年 4 月～(中寶)保存研究所設置準備中	宋 貞珠	平成 17 年度在外日本古美術品に係る博物館・美術館研究協力事業及びアジア諸国博物館・美術館研究協力事業(文化庁)による招へい	平成 18 年 2 月 8 日～2 月 17 日

出典：『平成 17 年度独立行政法人国立博物館年報』編集・発行 独立行政法人国立博物館

### 3 国立博物館における中国、韓国との交流事例 平成 16 年度 (2004)

#### ■東京国立博物館

##### 東京国立博物館蔵「西川寧書法芸術展」

###### ○方針

昭和の日本書壇を代表する書家で、文化勲章授章者である西川寧の代表作を厳選し、緑の深い中国の地で回顧展を開催し、日中文化交流の一助とする。

###### ○実績

- 1) 開催期間 平成 17 年 3 月 26 日～5 月 8 日
- 2) 会場 中華人民共和国 中国国家博物館
- 3) 主催 東京国立博物館・中国国家博物館・謙慎書道会
- 4) 陳列品総件数 77 件
- 5) 入館者数 40,000 人(平常展と同一区内で実施したため、本展のみの入場者は概数として報告を受けている)
- 6) 入場料 大人：30 円 学生：15 円(金曜午後は無料)<中国国家博物館共通チケット>  
大人：10 円 学生：無料<西川展のみのチケット>
- 7) 担当した研究員数 2 人
- 8) 展覧会の内容  
西川寧の主要作品を、篆書、草書、楷書など、技法別に分けて展示し、その足跡や作風を振り返りながら、書の本物である中国の人々に日本現代書道の真髄を鑑賞していただいた。
- 9) 広報  
2004 年 3 月 24 日から 5 月 8 日まで、中国国内の 18 媒体で広報  
東京国立博物館ニュース (4・5 月) 告知 1 回

###### ○自己点検評価

###### 【良かった点、特色ある点】

・ 17 年度の方が主たる事業期間なので、総括は 17 年度実績報告で行う。

###### 【見直し又は改善を要する点】

・ 17 年度の方が主たる事業期間なので、総括は 17 年度実績報告で行う。

#### 外国人招聘

国名	職名	氏名	用務	期間
中国	上海博物館副館長	陳 克倫	日本・中華人民共和国両国間の学術情報の交換及び研究の推進のため	平成 16 年 3 月 12 日～3 月 21 日

中国	上海博物館文化交流辦公室	周 燕郡	日本・中華人民共和国両国間の学術情報の交換及び研究の推進のため	平成 16 年 2 月 3 日～2 月 8 日
中華人民共和国	上海博物館文化交流辦公室	李 仲謀	日本・中華人民共和国両国間の学術情報の交換及び研究の推進のため	平成 16 年 3 月 1 日～平成 17 年 2 月 28 日

国名	職名	氏名	用務	期間
韓国	中央博物館歴史部学芸研究士	宣 承慧	日本・大韓民国両国間の学術情報の交換及び研究の推進のため	平成 16 年 3 月 8 日～3 月 14 日
韓国	世宗大学校人文大学人文学部教授	河 文植	16 年度文部科学省科学研究費補助金〔基盤研究 (A) (2)〕研究代表者 松浦 宥一郎「日本出土原始古代繊維製品の分析による発展的研究」にかかる韓国の遺跡出土繊維製品関係資料の情報交換と日本における関連調査のため	平成 16 年 3 月 8 日～3 月 14 日

## ■京都国立博物館

### 外国人招聘

国名	職名	氏名	用務	期間
中国	上海師範大学教授	方 廣■	当館所蔵の敦煌写本に関する調査研究及び国際シンポジウム「21 世紀の敦煌学写本研究の展望」における研究発表	平成 16 年 11 月 10 日～11 月 16 日

## ■奈良国立博物館

### 韓国国立慶州博物館、中国上海博物館、中国国家博物館（北京）等との学術交流

- ・韓国国立慶州博物館から特別展「黄金の国・新羅」開催中に研究員を招聘し、講座を開催した。また、同所から研究員等 2 人を招聘し、我が国の博物館美術館運営の現状について意見交換した。当館研究員 2 人を各 1 ヶ月間、国立慶州博物館に派遣し、彫刻及び金石文等について調査を実施した。
- ・中国上海博物館から研究員 3 人を招聘し、当館及び国内の博物館美術館を視察し意見交換を行った。当館からは 3 人を派遣し、上海博物館及び中国国内の仏教遺跡の調査研究を行った。
- ・韓国国立中央博物館、中国国家博物館、米国フリーア美術館から各 1 人の研究員を招聘し、当館収蔵品の調査及び国内の博物館・美術館における調査を行い、意見交換した。

研究員等の派遣実績 6 人（延べ人数）

- ・韓国国立慶州博物館、韓国国立中央博物館、中国上海博物館、中国国家博物館、中国河南博物院、米国ニューヨーク市立図書館、ドイツ・ベルリン東洋美術館、ライス・エンゲルスホルン博物館（ドイツ・ベルリン）、マンハイム博物館（ドイツ）等に展覧会調査・学術交流のために研究員を派遣した。
- ・韓国国立慶州博物館との間で学術交流協定を見直しつつ、新たに協定を継続締結した。
- ・中国上海博物館及び中国国家博物館との間で、新たに学術交流協定を継続締結した。

## 国際交流

### 「黄金の国・新羅一王陵の至宝」(特別展)

#### ○方針

韓国国立慶州博物館との海外交流展であり、慶州博物館収蔵の優品を展示し、韓国古代文化の理解を深める。

#### ○実績

- 1) 開会期間 平成 16 年 7 月 10 日～8 月 29 日
- 2) 会場 東・西新館
- 3) 主催 奈良国立博物館、韓国国立慶州博物館  
後援 産経新聞社、NHK 奈良放送局、奈良市、奈良市教育委員会  
協力 日本航空
- 4) 陳列品総件数 98 件
- 5) 入館者数 26,407 人(目標 3 万人)
- 6) 入場料金 大人 1,000 円(900 円) 高校・大学 700 円(600 円)  
小・中学生 400 円(300 円) () 内は前売り及び 20 人以上の団体料金
- 7) 担当した研究員数 13 人
- 8) 展示会の内容  
北方騎馬民族とシルクロードの文化の影響の下で成立した古代朝鮮半島の王朝・新羅の黄金文化を、天馬塚・皇南大塚・金冠塚・瑞鳳塚などの王陵及び王陵級の古墳から出土した至宝により紹介する。
- 9) 講演会等
 

公開講座	7 月 10 日 (土) 新羅人の死—積石木槨墳—	韓国国立慶州博物館館長	朴 永福 氏
	8 月 7 日 (土) 新羅装身具に隠された秘密	韓国国立慶州博物館学芸研究室長	金 弘柱 氏
	8 月 21 日 (土) 新羅の黄金とその社会	東京大学助教授	早乙女雅博 氏
	8 月 28 日 (土) 古墳から出土した新羅の容器		



ギャラリートーク

8月11日(水) 新羅の至宝

教育室研究員

岩戸 晶子

10) 広報

報道発表 6月8日(火)

- ・奈良国立博物館だより(第50号)及び当館ホームページでの予告・紹介
- ・看板(敷地内10箇所及びバナー広告、近鉄奈良駅構内2箇所)
- ・ポスター・ちらし  
近鉄全線(駅貼、社内吊り)、JR西日本(駅貼)、美術館・博物館、大学、図書館、社寺、観光業者、教育委員会、地元タクシー、ホテル・旅館、飲食店等
- ・外国人向け伝統芸能紹介冊子「MEET OSAKA」への展覧会情報掲載
- ・新聞社  
産経新聞社(広告記事、連載記事(「黄金の国・新羅」展から)、列品解説、特集記事、関連行事、社告等)、朝日、読売、日経、毎日、奈良、奈良日日ほか
- ・テレビでの紹介
- ・奈良市観光協会発行季刊誌「大和の四季彩」への掲載
- ・奈良市観光協会及びJR東海の協力により、東京駅他首都圏を中心にチラシを4都市6ヶ所の駅に設置

11) アンケート調査

- ①調査期間 平成16年7月10日～8月29日
- ②調査方法 会場内にアンケートコーナーを設け、観覧者が自由に記入。
- ③アンケート回収数 250件
- ④アンケート結果 良い82%(206件)、普通14%(34件)、悪い2%(5件)、無回答2%(5件)

12) その他

- ・陳列作品に合わせたケースの新造
- ・前年度に当館と韓国国立慶州博物館で協力し開催した「日本の仏教美術」とあわせた、海外交換展の一つでもある。
- ・関連行事3件(いずれも主催)

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- ・当館と韓国国立慶州博物館の5年にわたる学術交流と信頼関係を背景として、国宝、重要文化財クラスの作品を多数含む展示品は極めて高い質的水準であり、識者の評価は高かった。
- ・より良い展示効果を得る為に、陳列作品に合わせ、観覧者への便宜を図った見えやすい

展示となるようケースを新造した。

- ・特別展関連行事として韓国伝統芸能の公演やお茶会等を開催し、話題作りに努めた。
- ・奈良市観光協会及びJR東海の協力を得て、東京駅他首都圏を中心にチラシを4都市6ヶ所の駅に設置することができたことにより、関東方面への広報の充実を図ることができた。

#### 【見直し又は改善を要する点】

- ・開催期間を夏休みに合わせ、学生・生徒の来館を期待したが、結果的には例年のない猛暑等により、入館者数はふるわなかった。夏季の展覧会の広報等について更に工夫する必要がある。

### 「日本名宝展」(特別展)

#### ○方針

文化庁と協力して、中国国民の日本文化理解と友好関係の育成を図るため、中国北京市において初の国家間規模の日本美術展を開催するものである。

#### ○実績

- 1) 開会期間 平成16年5月25日～6月30日
- 2) 会場 中国国家博物館
- 3) 主催 中国国家博物館、奈良国立博物館、文化庁、国際交流資金  
協力 全日本空輸
- 4) 陳列品総件数 99件(うち国宝 6件、重要文化財 24件、重要美術品 2件)
- 5) 入館者数 34,312人
- 6) 入場料金 一般 20円 高校生 10円
- 7) 担当した研究員数 13人

#### 8) 展示会の内容

2003年、日本友好条約締結30周年を迎えたが、中国における日本への関心は主に現代日本の経済や商品であり文化への関心は高いといえない。中国北京において日本文物を総合的に紹介することにより、日本文化の理解に大きく貢献するものである。縄文土器などの考古遺品をはじめ、仏教美術、正倉院宝物(模造)、貴族と武家の暮らし、近世美術という構成で日本美術の粋を展示した。

#### 9) 講演会等

中国国家博物館職員によるギャラリートーク 随時  
現地ボランティアによる展示解説 等

#### 10) 広報

現地での記者発表、ポスター、チラシ等

#### 11) その他

15年5月に開催を予定していたが、SARS問題により延期したものである。

#### ○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- ・展示会準備等を通して、先方の担当者等広範な関係者とのネットワークの構築が図られた。

海外への列品貸与

展示会名称	申請者【会場】	貸与期間	種別・員数
海外展「日本名宝展」	文化庁、奈良国立博物館	平成16年4月5日～平成16年8月16日	漆1・金工1

外国人招聘

国名	職名	氏名	用務	期間
中国	河南博物館副研究員	蘇 岩	奈良国立博物館開催の特別展「法隆寺」の出品作品に随行	平成16年4月14日～4月26日
中国	河南博物館副研究員	馬 合菊	奈良国立博物館開催の特別展「法隆寺」の出品作品に随行	平成16年4月14日～4月26日
中国	河南博物館副研究員	湯 淑君	奈良国立博物館開催の特別展「法隆寺」の終了に伴う出陳文化財の随判及び仏教美術の調査	平成16年6月12日～6月23日
中国	河南博物院館員	靳 風枝	奈良国立博物館開催の特別展「法隆寺」の終了に伴う出陳文化財の随判及び仏教美術の調査	平成16年2月12日～6月23日
中国	上海博物館人力資源部主任	朱 誠	上海博物館と奈良国立博物館との学術交流	平成16年9月15日～9月24日
中国	上海博物館人力資源部主任	朱 世平	上海博物館と奈良国立博物館との学術交流	平成16年9月15日～9月24日
中国	上海博物館人力処主任	顧 嘉群	上海博物館と奈良国立博物館との学術交流	平成16年9月15日～9月24日
中国	中国国家博物館展覧部主任学芸委員	王 永紅	文化庁「アジア諸国博物館・美術館研究協力事業」	平成16年12月13日～12月23日

国名	職名	氏名	用務	期間
韓国	韓国国立扶餘博物館学芸研究士	申 明熙	奈良国立博物館開催の特別展「法隆寺」の出品作品に随行	平成16年4月19日～4月24日
韓国	東国大学校博物館学芸員	李 溶振	奈良国立博物館開催の特別展「法隆寺」の出品作品に随行	平成16年4月19日～4月24日

韓国	韓国国立扶餘博物館長	除 五善	奈良国立博物館開催の特別展「法隆寺」の出品文化財の共同調査並びに意見交換	平成16年4月22日～4月24日
韓国	韓国国立慶州博物館学芸研究室長	金 弘柱	韓国国立慶州博物館と奈良国立博物館の学術交流及び日本国内所在文化財の共同調査並びに意見交換	平成16年4月22日～4月24日
韓国	韓国国立慶州博物館長	朴 永福	韓国国立慶州博物館と奈良国立博物館との学術交流及び国内に所在する関係文化財の共同調査の実施及び意見交換	平成16年5月17日～5月19日
韓国	東国大学校博物館 学芸員	張 姫貞	奈良国立博物館開催の特別展「法隆寺」の終了に伴う出陳文化財の随伴	平成16年6月13日～6月18日
韓国	韓国国立扶餘博物館学芸研究士	申 明熙	奈良国立博物館開催の特別展「法隆寺」の終了に伴う出陳文化財の随伴	平成16年6月13日～6月18日
韓国	韓国国立慶州博物館学芸研究補助員	伊 志宣	奈良国立博物館開催の特別展「黄金の国・新羅」の開催に伴う文化財の輸送・点検・展示	平成16年6月21日～7月11日
韓国	韓国国立慶州博物館学芸研究官	鄭 聖喜	奈良国立博物館開催の特別展「黄金の国・新羅」の開催に伴う文化財の輸送・点検・展示	平成16年6月21日～7月11日
韓国	韓国国立慶州博物館学芸研究補助員	金 成美	奈良国立博物館開催の特別展「黄金の国・新羅」の開催に伴う文化財の輸送・点検・展示	平成16年6月21日～7月11日
韓国	韓国国立慶州博物館学芸研究士	崔 聖愛	奈良国立博物館開催の特別展「黄金の国・新羅」の開催に伴う文化財の輸送・点検・展示	平成16年6月22日～7月11日
韓国	韓国国立慶州博物館長	朴 永福	奈良国立博物館開催の特別展「黄金の国・新羅」の開会式出席及び公開講座講演	平成16年7月8日～7月13日
韓国	ソウル大学教授	安 輝濬	奈良国立博物館開催の特別展「黄金の国・新羅」の開会式出席	平成16年12月13日～12月23日
韓国	韓国国立慶州博物館学芸研究室長	金 弘柱	奈良国立博物館開催の特別展「黄金の国・新羅」の公開講義講師	平成16年8月6日～8月8日
韓国	韓国国立慶州博物館学芸研究官	鄭 聖喜	奈良国立博物館開催の特別展「黄金の国・新羅」の公開講義講師及び展覧会終了に伴う出陳文化財の撤収・随伴	平成16年8月27日～8月17日
韓国	韓国国立中央博物館学芸研究室長	李 榮勳	奈良国立博物館開催の特別展「黄金の国・新羅」の展示状況及び撤収作業視察	平成16年8月29日～8月31日

韓国	韓国国立慶州博物館 学芸研究士	崔 聖愛	奈良国立博物館開催の特別展「黄金の国・新羅」の終了に伴う出陳文化財の撤収・随伴	平成16年8月29日 ～9月16日
韓国	韓国国立慶州博物館 学芸研究補助員	李 永周	奈良国立博物館開催の特別展「黄金の国・新羅」の終了に伴う出陳文化財の撤収・随伴	平成16年8月29日 ～9月17日
韓国	韓国国立慶州博物館 学芸研究補助員	鄭 泰和	奈良国立博物館開催の特別展「黄金の国・新羅」の終了に伴う出陳文化財の撤収・随伴	平成16年8月29日 ～9月16日
韓国	韓国国立中央博物館 学芸研究士	朴 海勲	文化庁「アジア諸国博物館・美術館研究協力事業」	平成16年11月1日 ～11月11日
韓国	韓国国立慶州博物館 事務職員	朴 魯弘	国際研究集会参加	平成17年3月25日 ～3月31日
韓国	韓国国立扶餘博物館 学芸研究室長	金 鍾万	国際研究集会参加	平成17年3月25日 ～3月31日
韓国	韓国国立慶州博物館 学芸研究士	李 在烈	国際研究集会参加	平成17年3月25日 ～3月31日
韓国	韓国国立慶州博物館 事務職員	李 晟好	国際研究集会参加	平成17年3月25日 ～3月31日
韓国	韓国国立慶州博物館 学芸研究室長	朴 仲煥	国際研究集会参加	平成17年3月25日 ～3月27日

## ■九州国立博物館

- ・大韓民国国立中央博物館を訪問し、展示資料の借用について交渉・調査を行った。
- ・中華人民共和国を訪問し、映像番組の製作等を行った。（県主体）
- ・ベトナム民主主義人民共和国を訪問し、映像番組製作及び交流等について交渉の上、実施した。

## 共催展の開催に向けた取り組み

①開館記念特別展「美の国 日本」を開催するために準備を行った。

- ・海外職員派遣

展示品借用交渉のため、中華人民共和国、大韓民国、オーストラリア、アメリカ及びポルトガルに職員を派遣した。

中華人民共和国（3 機関）	国家文物局、中国国家博物館、中国文物交流中心
大韓民国（2 機関）	国立中央博物館、湖巖博物館
オーストラリア（1 機関）	メルボルン国立美術館

②新春展「中国 美の十字路口」の開催に向け、共催者と 4 回にわたり協議を行い、開催を決定した。

また、開催に向けた準備を行い、210 件にわたる作品リストを確定し、57 件の作品について出品の内諾を得た。

・海外職員派遣

展示品借用交渉及び調査のため、中華人民共和国とアメリカに職員を派遣した。

中華人民共和国	中国文物交流中心、河北省文物考古研究所、山西省博物館、遼寧省博物館、寧夏回族自治区固原博物館、甘肅省博物館 ほか地方機関多数
アメリカ	メトロポリタン・ミュージアム

出典：『平成 16 年度独立行政法人国立博物館年報』編集・発行 独立行政法人国立博物館

## 4 国立博物館における中国・韓国との交流事例 平成 15 年度 (2003)

### ■東京国立博物館

#### 東京国立博物館蔵「西川寧書法芸術展」

##### ○方針

昭和の書壇を代表する西川寧は、書家として初めて文化勲章を受章した。青年期中国へ留学し、その成果をもとに自らの書法を確立した。この展覧会は西川寧と縁の深い中国の地で回顧展を開催し、日中文化交流の一助にしようとするものである。平成 14 年、西川寧の生誕 100 年を記念し、東京国立博物館で開催された展覧会の出品作品をもとにして構成展示。

##### ○実績

- 1) 催期間 平成 15 年 3 月 28 日～5 月 5 日
- 2) 会場 中華人民共和国上海博物館
- 3) 主催 東京国立博物館・上海博物館・謙慎書道会
- 4) 陳列品総件数 77 件
- 5) 入館者数 41,012 人
- 6) 入場料 20 元 (280 円)
- 7) 担当した研究員数 2 人
- 8) 展覧会の内容

西川寧の代表作 77 件を展示し、その足跡をたどりながら、西川寧が目指し、表現した書の世界を中国において紹介する。

##### 9) 広報

- ・博物館ニュース 2003 年 3・4 月号に告知記事を掲載
- ・上海の各新聞において紹介記事掲載

##### ○自己点検評価

###### 【良かった点、特色ある点】

・上海で開催の展覧会であることから、中国的な感覚をディスプレイに取り入れたことに特色がある。また、中国の書が日本にどのような影響を与えたか、中国の人々に理解してもらう一助となった。

###### 【見直し又は改善を要する点】

・SARS の影響により、会期途中から、観客が激減したことは残念であった。また、上海博物館での会期終了後、北京の中国歴史博物館（現 中国国家博物館）で引き続き開催する予定であったが、SARS の流行が衰えず開催を見送らざるを得なかった。今後、北京での開催を再度検討する予定である。

## 外国人招聘

国名	職名	氏名	用務	期間
中国	上海博物館副館長	汪 慶正	日本・中華人民共和国両国間の学術情報の交換及び研究の推進	平成 16 年 3 月 12 日 ～3 月 21 日

国名	職名	氏名	用務	期間
韓国	国立中央博物館美術学部学芸研究士	宣 承慧	日本・大韓民国両国間の学術情報の交換及び研究の推進	平成 16 年 2 月 3 日 ～2 月 8 日
韓国	徳聖女子大学教授・同大学	崔 聖銀	日本仏教美術研究及び博物館運営見学（東京国立博物館外国人研究者）	平成 16 年 3 月 1 日 ～平成 17 年 2 月 28 日
韓国	全南大学校教授	林 永珍	韓国西部の遺跡出土繊維製品関係資料の情報交換（科学研究費補助金 松浦）	平成 16 年 3 月 8 日 ～3 月 14 日
韓国	圓光大学校人文大学人文学部教授	崔 完奎	韓国西部の遺跡出土繊維製品関係資料の情報交換（科学研究費補助金 松浦）	平成 16 年 3 月 8 日 ～3 月 14 日
韓国	国立中央博物館美術学部学芸研究士	金 博嶸	平成 15 年度文部科学省科学研究費補助金〔基盤研究（A）（2）〕 研究代表者 金子啓明 「法隆寺献納宝物と正倉院宝物の源流に関する調査研究」による関連遺品の調査研究のため	平成 16 年 3 月 14 日 ～3 月 20 日
韓国	国立扶餘博物館学芸員士	盧 希淑	平成 15 年度文部科学省科学研究費補助金〔基盤研究（A）（2）〕 研究代表者 金子啓明 「法隆寺献納宝物と正倉院宝物の源流に関する調査研究」による関連遺品の調査研究のため	平成 16 年 3 月 14 日 ～3 月 20 日
韓国	国立大邱博物館学芸研究士	尹 温植	平成 15 年度文部科学省科学研究費補助金〔基盤研究（A）（2）〕 研究代表者 金子啓明 「法隆寺献納宝物と正倉院宝物の源流に関する調査研究」による関連遺品の調査研究のため	平成 16 年 3 月 14 日 ～3 月 20 日

## ■京都国立博物館

### 海外への列品貸与

展示会名称	申請者【会場】	貸与期間	種別・員数
海外展「日本名宝展」（北京へ搬入後、展覧会は延期）	文化庁、奈良国立博物館 【中国人民共和国北京市 中国歴史博物館】	平成 15 年 3 月 14 日～平成 15 年 7 月 15 日	絵 2・金 1・漆 1・染 6



## 外国人招聘

国名	職名	氏名	用務	期間
韓国	韓国・国立春川博物館 館長	崔 應天	国際シンポジウムにおける講演準備、国際シンポジウムにおける基調講演及び「金色のかざり」展における展示指導	平成 15 年 11 月 7 日 ～11 月 10 日

### ■奈良国立博物館

#### 「日韓初期仏教美術展」

##### ○方針

日本のすぐれた仏教美術を広く欧米に紹介し、我が国文化に対する理解を深めることに資する。あわせて、韓国国立慶州博物館との共同出品により今後の両国の博物館活動のより密接な協力・交流関係を築く。

##### ○実績

- 1) 開会期間 平成 15 年 4 月 9 日～6 月 22 日
- 2) 会場 米国 ニューヨーク ジャパンソサエティギャラリー
- 3) ジャパンソサエティ、コリアンソサエティ、奈良国立博物館、韓国国立慶州博物館、国際交流基金、コリアンファンデーション
- 4) 陳列品総件数 92 件（うち日本からの出品 40 件（うち国宝 4 件、重要文化財 23 件））
- 5) 入館者数 1,0341 人
- 6) 入場料金 一般：\$5.00 学生／シニア：\$3.00／ 会員／16 歳以下の子供：無料
- 7) 担当した研究員数 13 人
- 8) 展覧会の内容

日韓両国の古代文化と初期仏教美術の展開にみられる造形的な繋がりと異なりを、日本及び韓国の 6 世紀から 9 世紀にかけての初期仏像彫刻の名品の数々と、古代寺院の瓦、舍利荘嚴具、経典などにより探る。

##### 9) パネルディスカッション

4 月 14 日 (月) Where Parallels Meet :The Place of Art in the Transmission of Buddhism  
公開講座

5 月 22 日 (火) Japanese Hakuho Sculpture & Its Place in East Asian Buddhist Art  
Donald F.McCallum, Professor of Art History, University of California at Los Angeles

##### 10) 広報 現地での記者発表、ポスター、ちらし等

##### 11) その他

- ・展覧会の企画及び構成（出品作品の選定及び出品交渉）、作品の保全及び取り扱い（日本国内における集荷／返還・点検・梱包／開梱、ジャンパンソサエティ・ギャラリーにお

ける展示指導等)、展示会カタログへの論文執筆及び解説執筆、写真提供等の面で協力を行った。

- ・本展覧会は優れた展覧会として、ニューヨークタイムズ紙の **The Arts and Artists of The Year** に選出された。

#### ○自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある点】

- ・日韓の古代仏教美術作品を直接に同空間で比較展示する企画は国立慶州博物館では初めてのことであり、開催地である米国をはじめ、日韓両国でも学術的にきわめて高く評価された。
- ・海外での展覧会の企画・開催に関する交渉と実際の事務や作業を通して、当館学芸員が博物館職員としての能力をより高めることができた。
- ・ニューヨークタイムズ紙上で、当年のもっともすぐれた展覧会の第一位に評価された。
- ・共同企画者である韓国国立慶州博物館との連携を通して、より密接な信頼関係を造りあげることができた。

##### 【見直し又は改造を要する点】

- ・作品の輸出時とイラク戦争勃発が重なり、ニューヨークでの展示の安全性に不安を持つ出品者があった。出品者への説明責任を痛感するとともに、展覧会開催時の万一に対応できる危機管理の方法の確立について検討する必要があると思われる。

#### 「日本の仏教美術」

##### ○方針

日本のすぐれた仏教美術を韓国に紹介し、我が国文化に対する理解を深めることに資する。あわせて、韓国国立慶州博物館との共同作業を通じて今後の両国の博物館活動のより密接な協力・交流関係を築く。

##### ○実績

- 1) 開会期間 平成 15 年 12 月 21 日～平成 16 年 2 月 1 日
- 2) 会場 韓国国立慶州博物館
- 3) 主催 韓国国立慶州博物館、奈良国立博物館
- 4) 陳列品総件数 62 件 (うち国宝 9 件、重要文化財 25 件)
- 5) 入場者数 108,754 人
- 6) 入場料金 25 才以上 : 400 ウォン、24 才以下 : 200 ウォン
- 7) 担当した研究員数 13 人

## 8) 展覧会の内容

飛鳥時代から平安、鎌倉時代までを中心とした、古代から中世初期までの日本の仏教美術作品の精華を紹介し、日韓両文化の交流と相互の影響関係、及び日本美術の独自の展開をより深く理解する機会とする。

9) 講演会等 12月20日(土) 日本の仏教美術 館長 鷲塚泰光

12月30日(火) 日本の仏教考古学 上級研究員 井口喜晴

1月17日(土) 日本の仏教工芸 工芸室長 内藤 栄

10) 広報 現地での記者発表、ポスター、ちらし等

11) その他

- ・展覧会の企画及び構成(出品作品の選定)、作品の保全及び取り扱い(点検・梱包/開梱、国立慶州博物館における展示指導等)、展覧会カタログへの論文執筆及び解説執筆、写真提供等で協力を行った。

○自己点検評価

### 【良かった点、特色ある点】

- ・日本の仏教美術を紹介する展覧会は韓国では初めてであり、出品作品の質の格別の高さと、展示の構成等が専門家をはじめマスコミ等から高い評価を受けた。(東亜日報・12月18日、朝鮮日報・12月18日、毎日新聞・12月19日、韓国日報・12月19日・12月29日、慶州新聞・12月19日、嶺南日報・12月19日・30日・1月6日、蔚山毎日・12月22日、世界日報・12月23日、ソウル新聞・12月25日)
- ・海外での展覧会の企画・開催を通して、当館学芸員が博物館職員としての能力をより高めることができた。
- ・韓国国立慶州博物館との連携を通して、より密接な信頼関係を造りあげることができた。

### 【見直し又は改善を要する点】

- ・先方との事前の意志疎通・共通理解を図るために、普段からのより一層の交流が必要であり、そのためには、学术交流等の事業を一層深め、研究員間の信頼関係を強固なものにすることが望まれる。
- ・海外での展示は、輸送費、研究員の旅費、作品の保険料などの費用が必要であり、そのために十分な予算措置が望まれる。

## 韓国国立慶州博物館、中国上海博物館、中国国家博物館(北京)等との学术交流

- ・韓国国立慶州博物館から研究員2人を各1ヶ月程度招聘した。当館所蔵品を中心とした調査研究及び、国内の遺跡等を偵察し、研究の成果を上げた。当館からは2人を派遣し、1人は韓国三国時代の工芸品の調査を実施し、他は博物館における情報処理・管理の現状について調査した。

- ・中国上海博物館から研究員 3 人を 10 日間招聘した。当館及び国内の博物館美術館等を視察し、意見交換を行った。当館からは 3 人を派遣し、上海博物館及び中国国内の博物館（河南博物院、国家博物館等）・遺跡等を視察した。
- ・中国国家博物館の研究員と、「日本の名宝」展に関わる種々の情報交換を実施した。

## 外国人招聘

国名	職名	氏名	用務	期間
中国	上海博物館芸術品公司 経理	李 平	上海博物館と奈良国立博物館 の学术交流とのため	平成 15 年 12 月 1 日 ～12 月 10 日
中国	上海博物館陳列設計部	張 莉娟	上海博物館と奈良国立博物館 の学术交流とのため	平成 15 年 12 月 1 日 ～12 月 10 日
中国	上海博物館陳列設計部	袁 啓明	上海博物館と奈良国立博物館 の学术交流とのため	平成 15 年 12 月 1 日 ～12 月 10 日

国名	職名	氏名	用務	期間
韓国	韓国国立慶州博物館学 芸研究室長	金 弘柱	韓国国立慶州博物館と奈良国 立博物館の学术交流のため	平成 15 年 10 月 23 日 ～10 月 25 日
韓国	韓国国立慶州博物館学 芸研究士	金 眩希	韓国国立慶州博物館と奈良国 立博物館の学术交流および日 本国内所在文化財の共同調査 並びに意見交換のため	平成 15 年 12 月 21 日 ～平成 16 年 1 月 19 日
韓国	韓国国立慶州博物館学 芸研究官	鄭 聖喜	韓国国立慶州博物館と奈良国 立博物館の学术交流ならびに 国際研究集会発表のため	平成 16 年 3 月 24 日 ～3 月 26 日

出典：『平成 15 年度独立行政法人国立博物館年報』編集・発行 独立行政法人国立博物館

## 2 中国事情

### (1) 博物館ブーム・博物館学・博物館文化 - 博物館発展のキーワードは博物館人 -

曹兵武（中国文物報社）

近年、中国の博物館事業はまたとない発展の好機にある。発展の動向には主に二つある。第一は博物館の数の急速な増加と博物館の新館建設が普遍的に進んでいることである。第二は博物館の仕事、とりわけ博物館の展示に関する仕事が各方面から高い関心を集めている。

1978年の改革開放初期、全国の博物館は300件あまりであった。だが現在では、不完全な統計によるものではあるが、2300以上の博物館がある。博物館数の増加の速度はとても速い。1991年、陝西歴史博物館が中国第一号の現代化大型博物館として建設され、開館した。続いて、上海博物館、河南博物院の新館が相次いで建設された。現在に至るまでに、省レベルの博物館は基本的に新たに建設、増改築され、もしくは新館建設プランが立てられている。これらの新館建設にかかる資金は多くが数億から数十億（人民元：訳者注）の間である。現在、博物館建設、増改築のブームはすでに省から地県（地区クラスの市。中国の行政区画は省一市一県の順：訳者注）にまで達しており、長江デルタ、珠江デルタも率先して地県レベルの博物館建設を推し進めている。いくつかの博物館ではハード面と運営能力に於いて国際的な最先端の水準に達している、もしくはまもなく達するものもある。

だが、国レベルのデータから見ると、中国の博物館建設の発展に於ける各国との距離は依然として非常に大きい。例えば、国家文物局の「博物館展示宣伝と社会サービスに関する調査研究班」が2005年に公開した不完全な統計資料によると、1990年、旧ソ連は国家運営の博物館が1350軒、非国家運営の博物館が10000軒（ソ連の解体及び近年のロシア経済と社会の不安定のために、数は大いに減少している）。2002年時、日本全国にある国立、公立、私立、大学の各種博物館の総数は5000軒を超える（別の統計では7000から8000とも言われている）。2003年の統計によると、韓国の博物館は369軒（韓国博物館協会が登録している博物館、美術館だけである）。フランスは約5000軒、イギリスは2500軒以上である。アメリカは博物館を建設する側の多様化、経営方法の多様化のため、統計があまり確かではないが、2000年に出版された『世界博物館』に登録している博物館は6290軒、別の統計では10000軒前後ともいわれている。専門家は8000軒前後と推定しているが、これが現実に近い数字であろう。イタリアは2002年段階での博物館総量が3500軒前後、その内、国立、地方公立の博物館は約3000軒、専門分野も全ての分野に亘り、システムは非常に完成されたものである。

西洋の発達した国の経験からすると、都市化と社会発展が一定の水準に達した後には、平均10万から20万人に一軒の割合で博物館を持つべきである。多くの歴史文化遺産があ

るヨーロッパの小国デンマーク、ベルギーなどでは、すでに 1 万から 2 万人に一軒の割合で博物館がある。現在、中国の博物館事業は基本的に農村、農民とは絶縁状態であり、現存の 2300 軒余りの博物館はほんの僅かな遺跡博物館、生態博物館等、特定の博物館を除けば、基本的に皆都市にあり、新館、大型展示場の建設ブームも主要都市に集中している。しかしながら、都市の博物館も発達した国家の博物館との距離はなお大きなものである。例えば、首都・北京の博物館の数は近年の発展を経て、110 軒余りになった。上海は 80 軒余りである。だが、韓国のソウルは 108 軒、ドイツのベルリンは 167 軒、ベルギーのコペンハーゲンには 150 軒、早くは 1997 年段階のロンドン、パリがそれぞれ 92 箇所と 120 箇所にも達していた（当時、上海の博物館は 11 軒、北京はおよそ 50 から 60 軒である）、世界的な文化の中心とされるニューヨークは 321 軒であった。最近のある統計資料によると、ニューヨークの各種博物館はすでに 1000 軒以上にも達している。筆者は 2004 年末、スウェーデンのストックホルムに行き博物館を見る機会を得たが、観光案内の地図上に場所が示されている博物館は 105 軒もあった。文化産業を重要な柱にしている国際的な大都市では、博物館が発展する余地が極めて多いことが見て取れる。

台湾の人口は 2300 万人ほどであるが、近年、博物館は猛烈な発展を遂げ 400 軒以上に達し、平均 5、6 万人に一軒ある計算になる。台湾の経済、社会のシステムと文化的背景は大陸と非常に似通っているにも関わらず、博物館の数から見た発展度合いは大陸よりも 20 年は進んでいる。この様な統計の分析から、中国の経済社会が更に発展した後は、博物館の数は一万を超えて、初めて人類の生存及び環境の物証を保存し、大衆の精神的文化欲求を満たすことができるのである。ここから、中国の博物館事業は数量の面から見ると、きわめて大きな伸びしろがあるといえる。

発展した国家や地域、国際的に有名な都市との比較は中国の博物館の発展にまだ伸びしろがあると推測させるだけでなく、各地で湧き上がる博物館建設ブームも中国の博物館数が将来においても急速な成長を遂げ続けることを確信させる。ここ最近の、中国文物报社等の各種メディアの調査統計によると、ほぼ毎日のように新たな博物館、記念館、美術館の名を持つ組織が新たに運営されたり、建物が更新されたりしている。その速度の速さには驚かされるばかりである。だが、我々は考えなければいけない、はたしてどのような博物館を建設すべきなのか、そして、いかにして博物館を建設、運営すれば博物館に関する仕事と社会サービスのレベルの向上を図れるのであろうか。

最近、私が聞いたところでは、ある省の博物館の館長は、彼がいる省に於けるいくつかの博物館の新たな建設計画について以下のように語った。「一軒の生態博物館（一億以上の資金がかかると思われる）、一軒の遺跡博物館と一軒の省会（省の行政経済の中心：訳者注）都市博物館は資金をすでに確保した。だが、指導者の心の中では、博物館館の青写真、館址（意味不明。博物館の住所のことか？：訳者注）や建設プランまでもがある程度明確になってから、初めて専門家を探し、博物館の位置づけや建設、今後の運営方針について検討を始ればいいと思っている。」同様の事例は他にも多く、ここ何年かの博物館建設ブーム

の中、多くはフルターンキー工事である——政府は博物館を作り上げると、博物館を渡し使わせる。これは博物館の建設が絶好の好機にあると同時に、一方では博物館建設と発展の過程の中には少なからず盲目的な部分が存在するといえる。

博物館の展示宣伝、社会サービス等の仕事は日増しに重視されてきており、博物館の発展と博物館機能の拡大変化が内在する促進力もあれば、指導者や社会の角界の重視もある。後者の動向はより明らかに見て取れる。2003年10月、中国共産党政治局常任委員の李長春は河南の視察の際に、博物館などの公益性文化事業に対して、「現実、生活、大衆に接近する」という重要な指示を出し、併せて、国家文物局に対して河南博物院で実験するように要求した。2003年末、浙江省は公立博物館で全面無料開放を次第に実施していくと率先して公布した。2004年初頭、中国共産党指導部は『未成年の思想道德建設をより推し進め改善する若干の意見』を提出した。この『意見』を現実のものとし、公共施設が未成年の思想道德建設に重要な役割をあますことなく発揮し、さらに、政府は全社会の公共文化サービスのレベルをもう一段階高めるために、文化部、国家文物局が『公共文化施設の未成年等社会グループへの無料開放に関する通知』を発行し、2004年5月1日より、全国の文化、文物組織の各級博物館、記念館、美術館等、文化施設は未成年の集団参観に対して無料化するよう求めた。特別な証書を持つ現役軍人、老人、障害者など特殊な社会的グループにも入場券の減免優遇措置を求めた。通知はまた愛国主義教育基地と認められた各級各種類の公共文化施設は積極的に全社会へ開放するような条件を打ち出すよう求めている。

最近、国家文物局の単霽翔局長はメディアに対し十一五期間の文物工作について語った際、四つの要望をだした。その内の一つは、「より多くの人が博物館に行くことができるように、博物館は人々が生活の中で不可欠な部分に変わらなければならない。」<sup>1</sup> というものである。博物館を庶民に密接させた、社会にサービスする次元にまで高めるのだ、関心の高さはまれに見るものである。

このうち、政府指導部が重視しているのは最も直接的な動機付けである。そこで、入場料の無料化は政府の政策、主導により実施されている。社会の進歩、人口の日々の増加と高いレベルでの文化と精神の要求、とりわけ、博物館自身の機能の発展も博物館の展示とサービスをその仕事の中での位置付けをますます高いものにしていく。だが、博物館の無料開放等の措置は博物館の仕事に社会のスポットライトを当てたにもかかわらず、ここ数年、関係当局の発表した数字からみると、来場者の数は特に目に見える伸びを示していない。これは統計の方法やデータの問題もあるかもしれない。なぜなら私たちが知っている多くの博物館、特に新しく建てられた省の一級博物館は観客動員数が目に見えて大幅に増大しているからである。とりわけ、無料開放の後には人の多さが災いすらしている。しかし、もし全国にある博物館全体の状況を考えるのであれば、全国にある博物館の観客動員人数、中でも数多くの中小博物館の現状を考えれば、統計が示した観客数はそれほど大きな誤差はないのであろう。しかも、各級の政府（中央政府から市、県の政府まで：訳者注）の管理部門は絶対にこのことに関する成績を漏らそうとはしない。

つまり、現在博物館事業発展のエネルギーは凄まじくはあるが、主なエネルギー源は各レベルの政府であり、現在の博物館ブームは主に政府のブームである。市民と指導部の博物館への各種希望、博物館の無料開放ブーム、博物館の仕事がメディアや各界の広い注目を集めている中、博物館の展示説明、サービス、さらには博物館の建設、管理、経営などにも問題と足りない点があり、博物館の位置づけとサービスの問題はもはや非常に顕著な問題になっている。

それでは、より根の深い問題はいったいどこにあるのだろうか？世界的な状況から見ると、博物館は非営利性の文化機構であり、人類の生存と環境の証拠の収蔵、保管、保護、研究、情報伝達、展示、公民教育等するという神聖な公益的使命に責任を持っている。また同時に、博物館はグローバル化、情報化時代の多くの挑戦にも直面している。一方では益々重要な存在になりつつも、また一方では、社会に順応する問題、経営、日ごとに増す文化製品との客の獲得競争等、さまざまな問題が存在して、博物館内部の改革はまだ不十分であり、多くの新しい動向も現れている。国内では、わが国の文化建設——事業、産業としても、もしくは人類社会の調整の手段としても、立ち遅れている。非営利の概念、組織、運営は社会のあらゆる方面で未知の部分である。博物館は特別な社会文化機構として目下の改革の大波の中、博物館が存在する環境の大きな変化、責任と使命の複雑化、体制改革による要求などに面している。各界が博物館とその仕事に対して新しい明確な認識と位置づけを必要としているのである。

近年、筆者は幸いにして二度の博物館界の大きな研究会に参加した。一つ目は「博物館文化」の研究会であり、その結果は中国博物館学会と中国文物社が合同で編纂した『グローバル化の中の中国博物館』<sup>2</sup>の中でまとめている。二つ目は「博物館の展示説明とサービスの仕事に関する調査研究」である。その結果もすでに「中国文物報書シリーズ」の博物館に関する何冊かの本の中<sup>3</sup>に収められている。前者はひとつの大きな文化背景の中で、博物館の合理的な社会的位置づけを試みた。後者は博物館の仕事、特に展示説明とサービスの仕事の具体的な調査分析である。議論と調査研究を通して、私は以下のことを強く感じた。博物館は幸いなことに多くの社会の人々に関心を持っており、また、政府も力を入れて推進する重要な公共文化とサービスの産業である。博物館の改善は一種のシステム工学であり、政府と博物館人、社会が良好な三角関係を作り、互いにより影響を与え合わなければならない。

現在、各方面の良好な希望は重要な条件をすでに備えるまでに至っている。だが、専門家は中国の博物館を「一流の資源、二流の展示、三流のサービス」と批判している。大きな問題点はどこにあるのであろう？私はやはり博物館の位置づけにあるのではないかと考える。いったい博物館とは何なのだろう。プロフェッショナルの立場から、我々博物館人や博物館学理論は自分自身と博物館界以外の人に明確な概念と標準を提供できるのだろうか？博物館建設ブームと博物館事業発展の好機さ中にある多くの問題、キーワードは社会が博物館に対してまだ科学的な、明瞭明確な認識を持っていないことである。言い換えれ



ば、我々博物館人が指導部、社会に対し博物館の科学的定義と説明を十分に行っておらず、博物館として、全ての或いはある具体的な博物館（せめて多くの具体的な博物館）は合理的な役割、位置づけを見つけてはおらず、システマティックな博物館理論を持ち合わせてもいない。また十分内容が有り且つ分かりやすい方法で伝えきれておらず、博物館と関連する政府、メディア、大衆に理解と共通認識をもたらし、効果的に自身の位置づけを追求実現する資源、手段、方法を持っていないのである。

近年、博物館界は経営がうまくいっている上海博物館、湖南省博物館などを比較的成功している事実と認識している。これらの例を見ると、どちらの博物館もまず自身に対して科学的な認識と合理的な位置づけをし、この位置づけを地方の行政や各界の共通認識にするよう努力している。上海博物館は自らを現代化する大都市の中の歴史芸術博物館と位置づけ、それゆえ、所蔵品の収集、科学的研究と展示、更には人材の育成、発展、宣伝などをこの中心を取り巻くように展開した。併せて、科学的な厳格な管理、人、財、物などの資源の効果を最大限に収集、発揮させ、計画と実施が一連した展示とその他の活動を通じて、自身が設定した位置づけを現実のものとし、この位置づけの社会的作用を有効に発揮させた。湖南省博物館一省の中心大型博物館でありながら、同様に自身の可能性と限界を認識することができた。自身の位置づけをひとつの歴史芸術を主とした博物館とし、中でも特に馬王堆の歴史芸術的重要性を強調し、馬王堆の看板を大いに打ち出しつつも、科学的な地道な改革と経営により陳列展示など具体的な各プログラムの成功を収め、徐々に人々の注目を集める業績とブランド力を打ち立てていった。

ここから、上述の政府—博物館—大衆の三角形が大変重要であるといえる。だが、現状では、三角形は往々に容易に「政府＝大衆＋博物館」の二元的直線関係になる。三角関係の構造の内、主に働きかけるのは博物館人であるべきである。博物館人の努力があってこそ初めて博物館の価値と位置づけ、博物館学の中心となる知的体系を真に構築でき、同時に、三角のうちの異なる方面に現在わが国における博物館事業の目標と隔たりを本当の共通知識にさせる。博物館事業と具体的な博物館の位置づけ、機能及びこれらの機能を実現する方式に対して、合理的な社会の共通認識を形成し、更に推し進めて協力的に実施する。

博物館の歴史から見ると、博物館は社会の過程に現れた機構の一つで、人類社会の進歩、制度創設の結晶である。この機構は複雑な社会的使命、つまり、人類文化と社会発展を推し進める道具としての役割を担っている。あらゆる博物館の発展の歴史、博物館の機能、使命は全てこの様に見ることができる。展示とサービスは博物館の日増しに重きをなしている機能の一つである。蘇東海先生はかつて指摘した。収集、研究と展示サービスは博物館が順番に身に付けてきた機能であり、新しい機能は時間と社会の進歩に共にますます重要なものとなってきている。これまで述べた現在わが国の博物館の展示、サービスの機能で強調されていることは構造的な要求である。

中国博物館の歴史と現実についていうと、中国の社会環境は更に容易に博物館が教育、宣伝などの社会サービスの使命を持てるようにしている。中国の博物館は一種の舶来品で

あり、西洋では経過した、博物館が個人の私的な所蔵より次第に解放されるという課程を経てはならず、多くは政府あるいは社会団体が公益目的に提供して建設したものであり、開館されるや否や公共性が高く、政治の需要に適合した意識がとても強い。張謇が中国人自身による第一号の博物館——南通博物苑を建設した際、はっきりと決めた「庠序学校を設けし以て教え、鳥獸草木の明を多く識る」を行う、と。今日、多くの新しく建設された博物館は、収蔵品が落ち着かず、位置づけもまだ研究されず、巨大な建物が都市全体の中心に聳え立っている。これらの建物は伝統的な啓智教育の外に、また政府の業績と都市のランドマークという新しい機能をも有している。このため、中国博物館事業発展の原動力は大部分が政府によるものになっている。各自治体が博物館を建設する願望は無論強い。だが、更に重要なのは正確な建設方法である。今日、博物館の出資者は政府のみであり、容易に各方面の意見を無視される。とりわけ合理的な戦略と運営システムがである。良い意見が社会の災難に変えられることすらある。

そのため、目下わが国の博物館の展示やサービスなどの機能の発揮を抑制する要因は、博物館内部にあり、博物館が生存する社会環境にもある、とりわけ、構造的な要求には構造的な調整が必要であり、この体制的弊害には内外の総合的な基準と治療があつて初めて効果がある。

全体から見て、国博物館の展示宣伝とサービスの水準を高めるためには中小の博物館が重要であると考えられる。伝統的な博物館の分類方法によると、中国の二千余りの博物館の内、80%以上の博物館は地方の一級の中小博物館である。国家文物局が最近行った博物館等級づけ作業の結果、八十余りの博物館のみが総合評価で国家一级博物館に認定されたが、その中の大多数は省レベルの博物館であり、その他の博物館が総合力の面で遜色があるのは明らかである。博物館展示説明とサービスの調査のから、多くの博物館——おおむね 80%以上は中小の弱小博物館であることが分かった。社会的影響力は小さく、更にその中の多くの博物館は基本的な博物館の機能を発揮することですら難しく、博物館の名にふさわしくないものすらある。博物館の観客の状況に関しては正確な統計分析がないため、毎年約 2 億人の観客がどれだけ先程述べた一級博物館のものであり、そのうち現地の観客と外地の観客の構成比率はどうかを知る手立てはない。だが、全体的な印象から、大型博物館の観客が博物館の観客動員数と社会的影響力の重要な部分を占めており、しかも、これらの観客は大、中の都市の、社会の特定のグループ、階層に限られているであろう。近年、中国文物報グループが博物館文化建設の問題について討論した際、「中国の博物館の実情はマイノリティー文化である」とある専門家が発言し、物議をかもした。しかし、事実を尊重するならば、いくら博物館が大衆文化となるよう希望しても、目標との距離は依然として大きな差があることを認めなければならない。このため、もし博物館の大多数を占める中小の博物館が、博物館が本来あるべき正常な展覧、伝達、サービス仕事をこなさせることができたならば、博物館の観衆、サービス、影響力は目を見張る変化があるだろう。われわれが、調査研究報告の中で中小博物館振興プロジェクトを提案したところ、採

用された。2005年末、国家財政部の支援の下、国家文物局は「県レベル博物館展示サービス向上プログラム」を「十一・五」期間重点プログラムとして正式に立ち上げた。このプログラムの目標は中央財政と地方財政の共同支持で、基本施設条件、経費投入、管理観念などの方面にてこ入れし、200項目前後の県レベル博物館の陳列展示水準、展示方式、サービス施設とレベル等の普遍的な改善と向上の実現に力を入れた。結果、陳列展示とサービスの全体水準は顕著な向上がみられ、文物博物館の仕事に携わる者と観客の段階と領域を大きく拡大した。

現在の状況についていうと、この様な国家プロジェクトがもし適当に実施されれば、僅かな仕事で大きな優れた成果を上げることができる。だが、全ての博物館の業務、展示、サービスの機能向上には、不断に博物館学の研究と博物館文化の構造を高めていく必要がある。中でも、目下、博物館の無料開放がもたらした博物館の参観ブームが、次第に博物館ブームを更に深い段階にまで引き込んでいる。無料開放はただ単に観客に解放するだけではなく、博物館が展示内容、形式設計、観客管理やサービス等で新たな段階に踏み込む必要がある。この背景には確実、且つ体系的な博物館学理論と方法、博物館文化の後押しが不可欠であり、博物館運営体制と管理措置の協力が求められる。

これまで博物館の位置づけの重要性を繰り返し述べてきたが——位置づけとは博物館の機能と目標の正確な認識——博物館理論の重要な構成部分である。楊志剛氏は博物館本体論の問題について研究している。<sup>4</sup>本体論は機能論に相対しているが、実際、中を見てみれば、本体論も機能実現の方法論を含むものである。博物館建設と運営は目標とスローガンを高らかに掲げているが、作業中、往々にして科学的、専門的そして細心の方法を欠き、博物館に関わる本体論も多くは正確性を欠いた内容になる。そのため、博物館の本体論は博物館本体に、より科学的な位置づけを行わなければならない。位置づけと機能が緊密な関係を持つことという問題は、だが、また具体的な機能よりも更に深い問題である。需要補充は指摘している、方法は異なる本体機能への架け橋を備えている。いったい本体論とは何なのか。本体論ontologyこの言葉の「on」はラテン語では「ov」とかかれ、英語では「be-ing」と表記される。つまり、「存在」およびその合理性の弁証である。伝統的な哲学によれば、存在とは自在であり、一切の存在するものの総和である。このため、本体論は自己とは何か、何をするのかを明らかにする。博物館についていうならば、この問題は解決しておらず、また、よい方法も合理的に使われているとはいえない。例を挙げていうと、1998年、大英博物館のエドワード改革レポートは昨今の企業とその他の機構の管理経験を参照して、博物館運営の効率を高める多くの優れた改革案を発表した。だが、この博物館で位置付けを行った際、歴史と機能等の実際を切実に尊重せず、ただただ財政状況と運営公立を主な改革目標にし、博物館全体の目標、職員と連帯しようとはしなかった。結果、効果をあげないどころか、博物館職員の猛烈な反対に会い、更にはストライキまで起きて、失敗に終わった。

近年、国内外の博物館の機能は拡大し続け、使命も増加し続けている。しかし、博物館

の位置づけについて討論する際にはその核心となる存在価値を忘れてはならない。蘇東海氏は博物館の核心的価値の問題について語ったことがある<sup>5</sup>。博物館の核心的価値は遺産であり、遺産の中でも人類の存在およびその環境の物証であるという考えを示めた。博物館の存在価値はこの核心的価値を保存、展示、伝達、拡大していくことである。その他の価値は周辺の、あるいは博物館のこの核心となる価値へのサービスである。そうでなければ博物館であろうか。私は蘇氏の考えに大賛成だ。

中国の博物館の建設と発展が各方面の期待と良好な願望を本当意味で発展の動力源とするには科学的分析を行う必要がある。あらゆる中国博物館事業にとって、科学の発展、社会の調和、先進文明の中に於ける位置と役割は何なのか。博物館の位置づけと資源の優性の具体化とは何なのか。一体どのような具体的な社会作用を行うべきなのか。どのようにして発揮するのか。この段階に達して初めて博物館の方法論の問題に入ることができる。しかも、しばしば、盲目的に何かを提唱し、何かを批評し、あるいは博物館のある機能の和尚の念仏（意味不明、俗語だと思われる。「訳も分からず、ありがたがる」といった意味と考えられる。：訳者注）と流行モデルの強調である。

特に強調しなければならないのは、個々の博物館では、その所蔵品と目標が全てをカバーすることは不可能である、ということである。遺産の時代性、地域性、人文性が強いのだ。遺産は博物館の展覧、展示の基礎であり、何ができるかは、生まれながらにして限度があるのである。これこそが実際の博物館の位置づけの問題である。博物館は自らの環境と自身の実際の状況に基づき収蔵戦略を決め、自らの収蔵品の特徴と社会文化環境に基づき展覧展示戦略を決定し、目標と環境に拠り運営戦略を決めなければならない。

文博一つの機構の中では、博物館の管理と実践は相対的に難しい。博物館の機能と使命は相対的に複雑で、博物館の管理と表彰は相対的に弱いため、より博物館の使命を実現し、博物館の役割を発揮するには、博物館の基礎理論の研究をより進め、同時に博物館事業発展させる良好な社会環境を建設、育成する必要がある。企業の発展に十分な投資と、投資、制度、人的資源等をつなげる環境とが必要とされるのと同じなのである。博物館と地方性には天然の結びつきがある。博物館には自分の存在するマクロの環境を選ぶことはできないが、博物館の地所などのミクロの環境を選択することは可能である。我々は正しい博物館理論と発展戦略の指導の下、ミクロの環境を改善し、よい内部環境を構築し、文化と社会発展の道具として自己の存在環境を育成建設することが可能である。ここまで、多方面で検討した博物館文化は、企業文化、学園文化などの機構と組織文化に類似するだけではない。政府、市民の博物館について価値、機能、使命の共通認識、そして、促進的な体性の要素の内在を包括するべきであり、博物館自身の団結力と生産力を通して社会発展と文化建設の理論と方法の考証と解釈を含んでいなければならない。博物館が対外的に働きかけるには、内部改革を進めなければならない。博物館は一つの複雑な有機体であり、完全な管理機構とよい運営メカニズムが必要である。博物館は現在、正に進行している文化事業と組織改革の外に存在できず、自らの公益性を認識できなければ、政府の投資あるい

は判断でただちに一切の問題が解決されてしまう。公共性の部門、非営利機構は同様に不断に自らの運営公立を高め、社会資本と資源の利用効果と利益を余すことなく発揮しなければならない。そうしてこそ、博物館はより健康、適応性のある生存ができ、サービスを通じ観客によりよい歴史文化科学の提供と教育を行い、本当の意味で社会の発展の流れと一体化するのである。

『中国博物館』2008年第3期（CHINESE MUSEUM NO.3 2008）所載

主宰：中国博物館学会 協力：故宫博物院

（翻訳：西川 芳樹）

#### 注釈

- 1 「『老』中国を守る：国家文物局局長単霽翔との対話」『瞭望東方周刊』、2006年124期
- 2 文物出版社、2002年
- 3 学園出版社、2005年出版
- 4 『中国文物報』、2006年7月14日
- 5 曹兵武、「博物館の核心的価値について——蘇東海先生訪語録」、『中国文物報』、2007年12月28日第6版

## (2) 博物館史研究：中国30年来の進展

張文立（吉林大学边疆考古研究センター）

数年前、アメリカ・カリフォルニア大学（バークリー）の **Randolph Starn** 教授はある文章の中でこう述べた。1989年、アメリカ博物館史・第一部の編集者達は博物館史の「静かな批判の流行」、このテーマをめぐり不平をこぼした。同時に彼は1992年イギリス博物館学者 **Eilean Hooper Greenhill** がかつて指摘したように、歴史性構造の博物館として「如何なる形式においても厳格な意義上の批判性分析」を受け入れないと提起した。この観点は同時期の者や批評家から賛同を得た[1]。今年 **Hugh H. Genoways** と **Mary Anne Andrei** はアメリカで最近創刊した『博物館史雑誌』の刊行の言葉で「過去20年の間、研究者の博物館及び活動の歴史に対する関心は非常に増した。だが、現在まで博物館史の学術雑誌に力を注ぐことはなかった。以前の博物館史の研究成果は各種の学術雑誌上で発表され、学術討論の進行を困難としていた。」と指摘した。[2]この言葉は明らかに西洋の博物館史の研究状況を語っているが、考え方は傾聴に値する。過去20年、博物館史は日増しに多くの関心を受け研究が進んだ。また、この分野について改めて考える機会も増えてきた。

では、中国の博物館史研究はどのような状況であろうか？

周知の通り、20世紀70年代末から改革開放政策が行われて以来、中国は世界が注目する大きな変化を遂げた。この変化は経済分野にとどまらず、中国社会の政治・経済・文化・教育等の各方面にまで及んだ。一連の変化として、この約30年来、中国の博物館事業と博物館学の研究も猛烈な発展が見られた。「第三高潮期」である。この背景の下、博物館史の研究も新しい段階へと突入した。本土博物館史の研究、国外博物館史を問わず、目を見張る進展を遂げ、博物館史はこの時期の比較的発展した研究分野の1つとなった。しかしながら、博物館史研究の大発展と対称的に、この分野の再研究は比較的遅れている。近年、この問題は中国人学者の注意を引いたかもしれないが[3]、博物館史の研究の成果と比べるこの分野に関わる再研究は相対的に少ない。

如何なる学科にせよ発展と進歩は、再研究と批評により完成する。博物館史研究の更なる発展も同様に再研究にかかっている。このような認識に基づき、本論はこの30年来の中国博物館史[4]研究について、鳥瞰的回顧を行い、既存の成果と問題点を分析し、この分野が今後研究する際に取り組むべき方向について考えを示し、相互間の疎通と了解を促進することを狙いとしている。

### 1.

この30年来、中国は博物館史研究で目に見える進展を遂げ、博物館史研究は既に一定

の影響力と規模のある研究分野へと発展した。ここでは、認識と実践という二つの角度から私の意見を述べる。

認識面について言うと、1つの重要な変化は、本土の博物館史研究が日一日と研究者に重視されてきていることである。具体的には、研究者の不断增加である。徳望の高い老研究者以外に中、青年研究者が次第にこの分野に足を踏み入れてきた。これらの研究者の中「老、中、青年の各学者は各自の特長を發揮する」[5]とりわけ中、青年研究者は、この分野研究に貢献するために、より多くの成果を出すと同時に、より一層の継続を希望する。研究者の増加により成果は日に日に増している。また、論文以外にもこの時期に出版された博物館学の著作の中に博物館史に関わる内容が見える。そして、近年来の出版著作になるほど詳細に記している。この時期出版された2部の比較的影響がある著作『中国博物館概論』(1985)と『中国博物館学基礎』(1990)の博物館史の部分は比較的裏づけがある。また中国博物館学会主催の、中国博物館界に於いて最も影響力のある専門雑誌『中国博物館』は「博物館史」と「博物館人物」のコラムを設け、博物館史方面の論文を刊行頒布し、研究者のために思想交流の場を提供している。これらは全ての博物館研究が中国において、益々多くの関心を得ていることを反映しており、博物館史研究は熱を増し、既に中国博物館研究の中でも重要な分野の1つとなっている。

研究実践について言うと、博物館史の研究分野で成果が次々現れ、この分野の進展に反映している。これらの成果の中には、通史的の研究[6]もあれば、特定時期の博物館史の研究[7]もあり、テーマもより豊富になり、少なからず新たな見解と認識が発表された。本論、これらの成果を列挙するつもりはない。できるだけ特徴ある変化があった部分のみ紹介と説明をしようと思う。

その1、博物館の歴史発展の形態論的観点の提起。1988年に発表された『博物館変遷史綱要』[8]中で、蘇東海氏はこの観点に対し完全で系統だった説明をした。「博物館の歴史発展の形態論的観点から見ると、博物館は一種の社会文化現象である。文化現象は長期発展過程の中、古代、近代、現代、まだ未定型の当代という4つの異なる形態を経る。各形態の博物館は異なる歴史時期と社会形態の中で存在し、その機能と社会への適応度合も様々である。博物館の歴史のとは、実際は機能の多様化と水準の向上、社会適応の向上の変化である。博物館の歴史発展の形態論的観点は、文化史や社会史等の多方面から博物館の歴史的発展を研究し、博物館の特徴ある変演、発展を考察することである。だからこそ、この研究は博物館演變の観察に役立つのである。博物館の歴史的発展の形態論的観点は、30年来の博物館史研究分野に於ける具体的な成果である。同時に更に重要なことは、博物館で起こる現象の考察と認識のために様々な今昔の視点と方式を提供することである。」正にその通りであり、この観点を提起した後、多くの学者の賛同を得た[9]。

その2、中国に於ける博物館の歴史発展の基本的な輪郭が明瞭になってきた。歴史時期の区分に異なる考えが存在しはするが、幾つかの基本的な共通の認識は既にできている。

中国では文物の収蔵と保存の発生は比較的早く、伝統がある。中国は数千年前の商周時代から特徴ある古代形態の博物館が発展していた[10]。しかし、現代の意義での博物館は西洋から取り入れた、中国社会近代化の過程の産物である。中国人自身が初めて創設した現代的博物館は、1905年、近代の著名な実業家・張謇が南通に創設した南通博物院である。中国における現代的博物館の歴史は中国が非常に発展したこの100年余りにすぎない。この間に清時代末、中華民国時期と新中国時期の3段階を経過し、また分類すれば前世紀の30年代・50年代・80年代に3つの発展高潮期が出現した。

その3、中国の博物館分野に於ける独自の貢献の認識と発掘。この顕著な例として、西安半坡遺跡博物館が遺跡博物館モデルを創始して歴史的貢献をしたことへの研究と発掘がある[11]。その他では張謇と南通博物館の歴史的貢献等がこの例に属す。欧米博物館の博物館発展史上での特殊な地位と、中国の現代的博物館への着手が比較的遅かったために、これまでの研究では、中国の博物館の世界の博物館に対しての貢献は常にどことなく軽視され、時には遠ざけられてしまうことすらあった。そのため本土の博物館に見える特有の歴史的貢献への認識と発掘に対しての意義は既に成果そのものをも超えており、態度と認識上の価値を備えている。中国の博物館分野での特色のある貢献についての認識と発掘は、まだ始まりに過ぎず、中国の本土博物館史の分野研究を深く掘り下げ、国外の博物館の歴史をより多く知るにつれ、中国の博物館分野への歴史的貢献がさらに明らかになることを信じている。

## 2.

この30年来、本土の博物館史研究は幾らか点で明らかな進展を遂げてきたが、決して研究の中に何の問題が無い訳ではない。多く問題点が見えるのは、マクロな研究が多く、ミクロな研究が少ない。総合的な研究が多く、特定テーマの研究が少ない。性質についての研究は多いが、質量の研究が少ない。叙述は多いが、解釈は少ないということである。これ以外にも正に梁吉生氏が指摘したように、「研究の視覚、叙述空間が比較的狭く、詳説の枠組みの広さが不十分で、研究視野の転換が乏しい」、「研究方法がまだ単一で、社会学・文化学・教育学・計量史学等の関連分野を取り入れていない」等[12]の問題が存在している。このような問題のため、元来生き生きとした博物館史が骨格のみで血肉がない、事実のみを見て、関係と規律のない乾いた怪物となっているのだ。

現在の状況から言えるのは、上記で述べた問題の原因の中、比較的突出した問題点が二つある。第一に、博物館史研究はまだ普遍的で十分な重視を得ていない。第二は、基礎的業務の薄弱。それ故、私は上記の問題を解決するためには、以下の仕事に注意を払うべきと考える。

まず、認識について言えば、我々は博物館史の研究を一層重視することだ。博物館学の発展と博物館事業発展の需要がある以上、今まで博物館史研究についての注目は勿論、掘



り下げや範囲は不十分であった。簡単な事実として、この30年来、千にも及ぶ博物館研究の中でも、博物館史の研究（本土の博物館史と外国博物館史を含む）は目を見張る成果を挙げた。我々は博物館学歴史が短いことと博物館学の応用性が強いという特徴を原因と考えていた。だが、認識に於いて、博物館史研究の普遍的な軽視及びその価値と作用の大幅な誤解、これこそがそのような結果を招いた非常に重要な原因であると言わざるをえない。当然この問題は既に学者達の関心を集めている。2年前、梁吉生氏は「中国博物館史の研究を重視すべきだ」[13]と論文の中で呼びかけた。これは先見の明のある学科発展の観点をもった意見で、注目に値する。

次に、実践について言えば、以下の点に注意すべきである。第一に、基本史実と史料についてより一層の整理と発掘を行う。基礎的な仕事が進めば、容易に研究を深めることができる。中国博物館史の研究では、張謇と南通博物苑の研究が比較的進んでいる。1つの大きな原因に資料の作成、整理がしっかりしていることが挙げられる。前述のように、ここ30年来の博物館史研究はマクロな研究が多く、ミクロな研究が少ない。総合研究が多く、特定テーマの研究が少ない等の問題がある。これらの問題の出現は無論認識等も原因だが、全体として基礎的な資料の作成が疎かであることが直接的で重要な原因の1つであると言える。基礎的資料の不足により、ミクロと特定テーマ研究は進行する方法が無く、全ての研究はマクロや総合的な研究に留まってしまっている。同時に博物館史の研究を叙述的研究から解説的研究に向かわせるためには、確かな基礎資料が必要である。このため、基礎史実と史料の整理と発掘、史料基礎を突き固めが、博物館史研究と以前の研究の問題点を解決する重要な前提条件である。注意すべき点は、史実の乱れの一掃とデータ整理の過程の際に、関係文献資料の整理をだけでなく、口頭史料の整理[14]、主に近年博物館史研究者の言葉に注目すべきである。とりわけ、後者はより一層の特殊意義を具える。第二に、前項の基礎の下、研究に2つの転向の実現を要する。

1、叙述から描写と解説の併用の重視へ。中国では、博物館史研究の歴史は決して長いものではなく、また本土の博物館史研究は更に短い。以前の研究にもまだ少なからず空白部分が存在する。このような現状の下では、ある程度の叙述的研究は必須なのである。同様に、叙述性研究が多くの分野で行れば、解釈の研究も行わなくてはならない。これは博物館史研究のレベルを向上のための必然的な選択である。当然、この転換過程の中で、資料と解説の関係に必ず注意を払わなければならない。解釈の作業は史実と史料の整理作業と緊密に結びついた仕事である。前者は後者を基礎としている。確かな資料の基礎から離れれば、机上の空論となってしまう、根拠の無い、ひいては博物館史研究を誤った道へ導く研究となる恐れがある。

2、マクロ研究から、マクロ研究とミクロ研究の両方を重視へ。具体的にいえば、この種の転換は2方面の内容が含まれている。範囲については、全国的な博物館史研究を一層深めると同時に、地域博物館史を更に重視すべきである。分野については、一般的研究か

ら専門的研究へ、つまり、通史から特定テーマ史への転換の必要がある。例えば陳列史・管理史・博物館公共など分野の歴史である。博物館の歴史発展の基本的骨格を組み立てた後、マクロからミクロへの転換することで基本骨格を強化修正する。博物館史を掘り下げは重要な仕事であると同時に、博物館史を無味乾燥なものから、次第に満足いくものにすることができるだろう。

### 3.

喜ばしいことに、ここ数年来、中国博物館研究の分野で注目すべき新しい動向が現れた。第一に、史料の整理と考証についての重視。歴史研究の基礎として史料の整理と考証は前世紀80年代初頭に少なからず仕事が行われ、ある程度の成果を挙げた。だが、暫くの期間このような仕事は減少してしまっていた。近年、この基礎的な仕事は、再び研究者から見直され、注目をすべき成果も現れた。例えば、程軍の『上海近代早期博物館史料補遺』[15]等である。第二に、研究は日々深く掘り下げられ、博物館史研究は、既にマクロ的、国家な研究段階からミクロ的、地域の研究段階へ、通史研究から特定テーマへの研究へと転換し始めている。前者はここ数年来、地域博物館史、個々の博物館史研究さえも研究成果が絶えず発表されている。この成果の多くは叙述的ではあるが、史料及び分野拡大の角度から言えば、やはり、意義があるといえる。以前の研究と異なる点は、特定テーマの研究も次々と成果を挙げていることである。例えば、李国鰲の『1949年以前の中国博物館建築』[16]等がある。第三に、史学以外の分野に注意を払い、取り入れて養分とし、叙述から解釈へと転換したことである。例えば、楊志剛の『博物館と中国近代以来の公共意識の開拓』[17]等である。第四に、研究方法から見た際に、世界的視点からの中国博物館の歴史発展の扱いや解釈の試みが始まった。代表的な成果として、安来順の『20世紀博物館の回顧と展望』[18]等がある。新しい動向を反映させた成果は多くは無いが、過去の研究の問題解決に役立つことは間違いなく、博物館史研究のレベルも向上するであろう。そして、これらの研究の推進により、本土の博物館史研究は必ず新段階へ突入し、生命力に満ち溢れた博物館史は間違いのないものと成った。

つまり、ここ30年来、中国では研究者の博物館史に対する興味が日増しに強くなり、研究も眼に見えた進展を遂げた。この点については中国と西洋は同じである。しかし、研究機関の長さ等の多種の影響により、国外に比べ中国での博物館研究の分野はまだ一定の開きがある。我々はまだ日本の『博物館史研究』、アメリカの『博物館史雑誌』のような専門の博物館史研究の学術刊行物が無い。イギリス博物館学者のアイリーン・フーパー・グリーンヒルが博物館の存在を解釈する時に説を用いて説明しているように [19]、我々は史料の整理と輪郭整理で少なからず仕事を行う必要があるだろう。非常に喜ばしいことに、今日の中国は一層開放的な態度で世界に向かっていく。これは必ずや博物館史を含む中国博物館学の研究に積極的な影響を生む。中国の博物館史研究は今後さらに飛躍した進展を得

るであろう。

『中国博物館』2008年第3期(CHINESE MUSEUM NO.3 2008) 所載

主宰：中国博物館学会 協力：故宮博物院

(翻訳：西川 芳樹)

注釈：

[1]Randolph Starn,A Historians' Brief Guide to New Museum Studies.the American Historical review.Vol.110.No.1,2005

[2]Hugh.H.Genoways and Mary Anny Andrei,From the Editors,Museum History Journal.Vol.1,No.1,2008.P3

[3]史吉祥、『博物館史研究』、『20世紀中国學術大辞典』「考古学博物館学」福建教育出版社、2007年1月。pp.2~7。  
梁吉生、「重視すべき中国博物館史」、『湖南省博物館刊』第三期、2006年12月。

[4]ここで言う「博物館史」は狭義の概念であり、思想史を含んでいない。厳密に言うと、博物館史研究の中国での進展には、本土博物館だけではなく、外国博物館史の研究まで触れるべきであり、大陸学者だけでなく、港台学者の仕事も含むべきだ。原稿の枚数が限られているため、この部分では大陸の本土博物館史の研究進展を特に説明している。

[5]、[14]史吉祥、『博物館史研究』、『20世紀中国學術大典』「考古学博物館学」、福建教育出版社、2007年1月。p.7

[6]傅振倫「中国博物館事業略史」、『福建文博』1982年1期、高榮斌「中国博物館發展概略」、『遼海文物學刊』1986年第2期、徐湖平「中国文博事業史」引論『東南文化』1985年1期。

[7]梁吉生「旧中国博物館歴史述略」『中国博物館』1986年第2期、米世同「延安時期的博物館事業」『文博』1986年第3期、胡駿「社会主義新時期我国博物館事業的回顧」『中国博物館』1991年第4期：蘇東海「文化大革命」時期敵中国博物館(1966~1976)、『中国博物館』1996年3期。

[8]蘇東海、「博物館演變史綱」『中国博物館』1984年1期。注目すべきは、形態論的観点中のいくつかの要因は前世紀年代初めにまで遡れる。

韋直、「博物館的歴史与發展」『博物館研究』1984年第一期。

[9]嚴建強『博物館的理論与实践』浙江教育出版社、1998年

[10]「伝統型博物館」と呼ぶ学者もいる。荆三林・李元河主編『博物館基礎理論与使用技術・博物館發展簡史 65~94 (数字は書名のまま表記：訳者注)』河南大学出版社、1990年2月

[11]蘇東海「半坡遺跡博物館の対応、半坡博物館の建設及び歴史意義及び社会価値」・『中国文物報』1997年12月14日。

張文立「羅馬宮博物館歴史地位質疑」『中国博物館』1998年4期。

[12][13]梁吉生「重視中国博物館史的研究」『湖南省博物館刊』第三期 2006年12月

[15]程軍、「上海近代早期博物館史料補遺」『博物館研究』2005年4期。

[16]李国鰲、「1949年前的中国博物館建築」『博物館研究』2006年3期。

[17]楊志剛、「博物館与中国近代以来公共意識的拓展」『復旦學報人文社科』1999年3期。

[18]安来順、「二十世紀博物館的回顧与展望」『中国博物館』2001年1期。

[19]Hooper Greenhill

### (3) 中国の博物館はどこに向かっているのか

劉慶平 彭建 (武漢市博物館)

21世紀、グローバル化変革の新時代、博物館はどのように社会に適合し、あるべき役割を発揮し、自身の価値を体現するべきなのか。これは博物館人各々が強く関心を持ち、考えるべき問題である。この問題を足がかりに、本論は西洋に於いて博物館が発展している現状を分析し、我が国の博物館が未来に発展する道を探求し、国内外の同好に伝えるものである。

#### 一、 西洋博物館の現代の発展状況

現在、意義上では世界の博物館が現れて200年経っていない。社会の発展、「現代的」新生活の需要に従い、西洋の博物館は新しい様相、特徴を見せている。

文化的環境から見ると、博物館はますます普及し、人々は「博物館」に対し明確な認識と理解を持つようになり、自らの需要から、博物館に様々な要求と希望を出す動向が現れた。国家レベルから言えば、政府は博物館に対し、より一般大衆に近づき、「文化」、「科学」、「芸術」等のテーマに回帰し、そして、「文化政治の代表」としての機能を薄めるよう求めている。だが、実際には「国家文化模範」、「国家精神」等の理念が西洋では衰えるどころか、むしろより強まっている。

このことはフランスの「国家博物館理念」が最も大きな現象である。西洋の中でも、フランスは中央政府が「文化部」を設立した数少ない国である。歴代の長官は博物館、美術館を含む文化施設の建設に優れた業績を残した。例えば、フランスミッテラン国家図書館、オルセー美術館、ポンピドゥー芸術センター等である。歴史的文化遺産の保護の方面では、フランスも最も早く現代の「壁のない博物館」の概念、「総体的保護国家」を打ち立てた国の一つである。

また一方で、博物館は第二次世界大戦以後、世俗化、庶民化が広まっている。ブリテン博物館を例とすると、開放当初、観衆は専門家、芸術家、貴族に限られ、庶民はだれも訪ねようとしなかった。だが、「世俗化」以降、誰もが訪れる場所となった。博物館内に於ける喫茶店、記念品売り場などの施設の普及、教育と娯楽等、各方面に配慮した結果、博物館ブームが到来した。この時になり、博物館はやっと真の意味での大衆のための公共スペース(PUBLIC SPACE)の機能を担うことができた。

博物館そのものについて分析すると、西洋の博物館の発展には二つの特色がある。一つ目は、伝統的な博物館が現代の新転型、新発展の流れ中で、資源の整理統合、建物の拡大、機能の変化等の動きを見せている。収蔵を目的とする単一的な伝統的な博物館は次第に見

棄てられ、大衆と社会サービスのための開放型現代化博物館の建設が現在の目標となっている。二つ目は、新たに建設された博物館が全体的特性と時代的特徴が強くなり、専門化、専門化が目に見えて明らかになった。特徴的なのは建築技術、陳列展示技術、文物保護技術、伝達技術等に至るまで、益々最近の科学技術を頼るようになったことである。とりわけ情報技術、ネットの普及、デジタル、バーチャル博物館等の萌芽等、博物館発展の余地が格段に広がった。

理念的には、西洋の博物館は早くから「物中心」の段階を脱出して、「人中心」を強調する段階に入った。「人中心」とは、博物館のサービス意識及びサービスの人間主義化であり、「バリアフリー通路」等ハード面の完備と完成である。また、展覧環境の高度な科学技術化により、収蔵品のより安全な環境と専門家の管理の下、現代人へのサービスだけではなく未来人のためへの保障である。異なるコロニーと異なるグループの要求に対してのサービスでもある……つまり、「人中心」とは博物館の現代社会への責任意識をより鮮明にすることなのである。

今、世界の博物館の三分の二は第二次世界大戦以後に建設されたものである。しかも、主なものは欧米の国家に集中している。アメリカを例とすると、約一万軒の各種博物館がある。その中で芸術博物館と科学技術博物館が全体の大半を占め、早い時期から文化的生活の重要な施設となっている。

## 二、 中国の博物館の現代発展型

### 1、 改革開放以降に於ける中国の博物館の発展動向

#### (1) 博物館システムは単一型から多様化へ

- A、 種類が豊富：建国初期の単純歴史型から、各種専門型、科学技術自然型、宗教民族型、地域地方史型、風物民俗型、文化芸術型、建築公園型、革命記念館及び遺跡型、学校型等の多種多様なタイプへ拡大した。その中でも科学技術自然型の占める割合が増加し続けている。
- B、 博物館運営スポンサーの多元化：文物部門、その他各機関、民間グループ、個人経営等、日増しに普及している。
- C、 地域分布の拡大：西部 12 省区が擁する各種博物館は 400 軒余りであること、過去の状況を改めた博物館は多くが東部、中部の大中都市に集中する等不均衡を示している。
- D、 古い博物館の新しい顔。幾つかの古い博物館（例えば、上海博物館、河南博物館、首都博物館、湖南省博物館、湖北省博物館等）が改修、新たに建築され、世界の先進諸国にある博物館との距離が縮まり、現代化に適合した発展を示し、各地域の新建設、拡張建設する博物館のモデルとなった。

(2) 博物館機能の多元化。

- A、収蔵品が豊富。収蔵品が多く、各種類が揃っている。保管作業の現代化、収蔵品管理制度の完備、現在試行中の収蔵品のパソコンデータ管理。部分的収蔵品（例えば、シルク、金属、漆器）の修復保全技術は国際的にリードする地位にある。
- B、研究の新機軸の打ち出し。各種博物館は中国の博物館学会の指導の下、国際博物館協会との交流協力、学術研究の展開、多数の学術刊行物と博物館学の著作及び多岐にわたる学問分野の研究成果の出版等、中国の博物館事業は世界の文化と学術領域に於いて極めて高い地位と声望を博している。
- C、教育の顕著化。1997年に「陳列精品」プログラムを実施して以来、展示陳列のテーマ、芸術表現、科学技術の使用、芸術の感化力が高まっている。展示に柔軟性を持たせ、外国と相互展覧を行った。例えば、中露、中仏文化年には中国外交、対外貿易、文化交流と協力し、顕著な成果を挙げた。
- D、アミューズメント。博物館の職員は観念を変え、教育者からサービス業へと変化した。大衆が行う多種多様な文化活動に向かい合い、積極的に大衆のための娯楽環境を整え、博物館娯楽文化資源を開発した。博物館に学習と娯楽の機能を持たせた。

2、現在中国博物館が抱える主な問題

現在、中国博物館事業の発展と国力の増加との間には依然として大きな開きがある。特に中小の博物館は目下の社会の発展に適応できておらず、その遅行性は以下の通りである。

(1) 基礎施設

現有の博物館の質は不均衡である。一部の博物館はハード、ソフト（館舎、展示、文物保護、サービス等）の施設が弱く、現代化が立ち遅れている。全国にある大多数の博物館の運営資金は厳しい情勢にあり、職業的使命を果たすことが難しい。

(2) 観念の刷新

計画経済の影響を受け、「経費は財政頼り、組織は公文書頼り、観衆は訪問頼り」の考え方、「いつもの顔ぶれ（展示物が変わらない）、いつもの場所（展示場所が変わらない）、いつもの言葉（説明の方法が変わらない）」といった現象がまだある。ある博物館では人手が余っており、生きる望みと市場競争の活力を失い、観念は保守的で、現状に寄りかかり、進歩しようと思っていない。

(3) 運営制度

内部改革には偏りがあり、伝統的な「三部制（保管、陳列、宣伝教育）」平行運営では活力に乏しく、専門的人材が欠乏し、市場の関心も不十分であり、資金の浪費を招き、効率が悪くなる。

(4) サービスのレベル

所蔵品の保護に傾き、大衆からの要求をなおざりにしている。収蔵重視ユーザー軽視であり、「物」から「人」への転化は不十分である。社会、地域、各階層の人々の需要を十分に満たせてもいない。人間的サービスの細かい配慮は改善を待たなければならない。

### 3、博物館の現代中国社会における作用と影響

21世紀、中国では博物館の地位、機能が明確となった。社会改革の需要に適應するため、博物館の「物」本位から「人」本位への変化は顕著であり、日増しに社会の発展に影響する重要な文化となった。

#### (1) 「科学教育」の普及

博物館（とりわけ科学技術博物館）が国民の基本的科学の素養を養うための重要性について、西洋諸国ではすでに共通の認識を得ている。西洋の先進国と比べ、我が国は科学技術発達欠落国家に属し、科学知識と科学の修養が普遍的に欠乏している。この為、「科学教育」の普及は非常に重要である。

#### (2) 保護環境と文化資源

目下、わが国は経済発展のピークにあり、この好環境と経済発展の関係を踏まえた上で、保護業務は、すでに消失した文化資源（とりわけ非物質文化）が特に重要である。博物館は文物を貯蔵する恒久的な機構であり、文化資源の保護に責任を負い、環境の維持と保護にも重要な影響を与える。

#### (3) 旅行文化の繁栄を促す

旅行業は目下世界中で急速に発展している産業であり、世界経済の重要な新しい成長分野である。博物館は他の景勝地とは異なる。だが、豊富な文化的要素が人々の旅行を促す要因となる。そして、旅行者が動機の中で求めている潜在的な文化への心理的欲求を満たし、旅行文化の繁栄を促すのである。国内外を問わず旅行客が博物館を訪ねれば、旅は文化を尋ねるイベントとなる。近年、我が国で行われている「革命聖地見学ツアー」は良い成果を収め、とても好い社会的、経済的効果と利益を挙げ、更には観光地の社会発展を促した。とてもよい実例といえるだろう。

#### (4) 地域サービスの人間文化的配慮

博物館の地域サービスは現代の博物館発展の趨勢であり、「人間本位」、大衆サービスの観念を具現化している。わが国の各種博物館はまず地域の中に存在している。地域の文化基地として、豊富な文化と知的資源を擁し、住民の様々な要求に対して、各種の精神文化活動を提供し、各種展覧及び講座を開き、文化と町の記憶を保存、伝達する。現代社会に於いて、生活に影響を与える外的要因（家賃、証券など）が増加している。これに氷雪、地震等自然災害という不確定要素が加

わり、人々の心を惑わし、落ち着かないものになっている。……博物館は文化的要素の発掘、展示と、しっかりとした伝統の含蓄を通して、生きている者により多くの生命の啓示と人間文化的配慮を与えることができる。今年の汶川地震博物館の建設計画がそのことを裏付けるものである。

#### (5) 発展能力の持続

文物は祖国の優秀な民族文化の結晶であり、再生不可能な資源である。博物館は文物の宝庫であり、先進文明と文化を代表している。わが国は発展途上の国であり、経済の高度成長期にある。博物館は民族の優れた文化を継承、保護、発揚し、民族の自尊心、自信、団結力、想像力の増強に重要な働きをする。博物館は我が国社会の発展の持続を促す重要な文化的作用となっているのである。

### 三、 現代中国博物館はどこに向かっているのか

中国の博物館は一世紀何代かに亘る博物館人の営みを経て、特に改革開放、民生顕彰、文化繁栄という絶好の機会に巡り合った。我々は誇りを持って言う。「中国の現代の優秀な博物館、例えば故宮博物院、上海博物館、首都博物館等は、建築、収蔵、サービスは勿論のこと、社会への影響力の方面でも世界のいかなる先進各国の博物館とまったく遜色無く比肩できるようになった。だが、独特の文化グループとしての中国博物館が向かう方向はますます長く、困難な道のりである。この為、中国の博物館がどこに向かっているのかを模索することはとりわけ重要な問題である。

#### 1、中国の博物館の運営方式

事業経費の拡大と人材の欠乏、これこそ目下わが国の博物館が普遍的に抱えている問題であり、博物館が現代に適応し発展できない問題点となっている。この為、西洋の成功体験を参考とし、現代の中国的特長を持った博物館の運営モデルを作ることが焦眉の急である。

##### (1) 政府政策の傾き

政府はより政策的支持を拡大投入、制定する。

国家権力の構造が異なるため、わが国の博物館運営方式は西洋と違い、政府主導の傾向が強い。この為、政府が主体として投入資金を増加し、国外の博物館の運営方法を取り入れ、関連する政策を制定している。

西洋の動きを取り入れ、減税により各界の注目を引き、団体、企業、個人の献金を促す。博物館理事会を設け、「博物館発展基金」及びこれに伴う基金会の制度を設立する。こうして、博物館事業の文化市場における競争力を高める。

同時に、政府は博物館の経費不足を補うため、博物館に付属する産業に対して減



税を行い、我が国の博物館の良好な発展をより後押しするべきである。

(2) 博物館のグループ化・ウィン・ウィン戦略の実行

政府の補助以外にも博物館自身にも開拓の構想が必要である。西洋の博物館集団モデルに習い、博物館のブランド、文化的製品によりグループ企業の興味と参画を獲得し、固定の賛助グループを形成し、同時に、企業のために良好な文化イメージをつけ、宣伝効果を持たせれば、双方に利益をもたらす。

西洋の博物館スーパーバイザー制度を導入し、様々な展覧会を実施せよとの要求に答え、これを基礎に、製品開発、営業、購買部を加える。アメリカの大都市圏にある芸術博物館の手法を取り入れ、博物館を中心とした付設のレストラン、旅行、娯楽、映像文化などの総合サービス施設を建設し、博物館へ最大限に誘導する製品を作る。

(3) 製品戦略：ブランドによる利潤追求

ブランドとは個性のイメージの標識であり、精神、信頼、名誉の度合いと総合的な価値を表している。博物館は大衆生活に密着し、大衆のために価値、楽しみのある、幸福な製品を作る。このことは社会、経済的な効果と利益がある「ブランド」を作り出す。西洋の博物館の成功は我々に教えてくれる。ブランドがあってこそ利潤を得ることができる、と。

各博物館の特徴はそれぞれ異なり、ブランド戦略もまた異なる。時代に密着し、自らの特徴と製品の位置付けを正確に見つける。これこそが現在博物館が直面し解決すべき問題なのである。

(4) 社会資源の整理統合・人材グループ化の促進、サービス社会

アメリカの「グッゲンハイム・モデル」を導入し、我が国の博物館の相互交流と、地区や部門、業務を越えた博物館業務の協力を強化し、博物館界の文物修復保護、展示の設計製作、対外サービスなどの資源を整理統合する。業務技術の優位を形成し、文化的社会へ影響力を持つ展覧設計、製作会社、文物修復、鑑定センター、ガイドサービス、旅行開発会社、文化交流企業等多くの総合的市場化グループを組織する。そして、市場を開拓し、専門技術者による社会サービスのための場所を構築し、全社会へ向いた市場化サービスを提供するのである。

## 2、中国の博物館発展の方向

新しい時代、中国の博物館は終始人々へのサービスを目標に、社会と経済の効率と利益に最も良い結果を実現するよう努力する。

(1) 無料開放、公益性徹底の原則

博物館の「社会及びその発展のためのサービス」という趣旨と「非営利」という機構の性質は、博物館の市場経済の中心である商工業の企業及びゲームセンタ

一、ディスコなどの一般娯楽施設と異なり、終始社会の効益第一という「効益観」を堅持する必要がある。

公益性の点では、世界中の博物館の性質も同じであり、大衆に知識と審美眼、生涯学習を提供し、人と人及び人と自然の調和を増進し、人類文明の進歩を促すという共同の使命に責任を負う。2008年、わが国の博物館の無料開放及び、博物館の格付け評価はこの使命の最もよい解釈の一つといえるだろう。

#### (2) 変革に参加し、市場化に適応した流れ

現在、博物館の社会変革への関与は一刻の猶予も無い急務である。資源（単なる収蔵）の体勢を市場（大衆の要求）の体勢に変え、「文により文を補う」、「多くの業務が文を助ける」概念を樹立させる。

博物館の単純な経営者を育て新しい経営管理者にし、市場経営理念、広告理念、コスト予測理念、戦略分析理念を取り入れ、文化消費市場を育てる。

大衆へのサービス思想をより新しい物にして、社会、地域建設に参加し、様々な形の焦点、注目される展示を相互作用、計画、導入する。家庭の日、夏のキャンプ、講演寄稿、博物館友の会の活動等を行い、観衆のために多様化、優良品化、人間的なサービスを提供する。

#### (3) 時流に乗った展望、デジタル化博物館の建設

グローバル化、情報化は新しい情報化管理をもたらし、デジタル博物館（バーチャル博物館）を生み出した。デジタル博物館は現有の博物館に対してデジタル化資源の整理と更なる開発を行い、大衆及び各博物館のために展示、教育、科研サービス用の開放的なネットスペースを提供する。このシステムの出現は伝統的な考えの博物館要素（建築、陳列等）の時空制限を打ち破ったのである。

博物館のデジタル化は過程であり、デジタル博物館はその結果である。情報化を強化した建設、つまり、メモリーデジタル化、ネット化を行い、資源の共有化、展示の多様化、管理のコンピューター化は、中国の博物館が未来に伸びる発展の方向である。

### 3、中国の博物館の目標追求

現在、博物館は伝統文化、サービス社会に於ける知識の宝庫としての概念を徐々に人々の間に浸透させつつある。今日の変革発展の最中である中国社会に対して、博物館の「文化の中心」としての機能的意義は、より重要な人間的意味を持っており、追い求める目標もより深遠なものになっている。

#### (1) 独特な文明伝承の方法

博物館は人類の文明を受け継ぎ、人類文明の過程の演繹を記録、蓄積している。

この特性は博物館が学校、メディア、各文化機構と異なる方法を用いて文明を継

承するということを決定づけた。つまり、収蔵、陳列を文明継承のスタイルとするのである。

過去、現在、未来を展示し、歴史、文化、科学情報を伝え、伝統精神が内包する唯一無二の文物、証拠を托す以外に、博物館は同時に受け継がれた思想、人類の文化遺産を共有し、古来より拭い去ることができない「私は誰？どこから来た？どこへ向かっている？」という心のしこりを解析する道具と施設なのである。

この為、機能研究の面よりも、文化解析の面から博物館の文化伝承という特性を理解できる。事実上、現代に於ける博物館の象徴、符号の意味は博物館に一般的意味の文化現象と文化行為を超越させた。

未来の中国の博物館は「文化の人に対する存在意義」を解析し積極的に答えるべきである。

## (2) 時代と共に進む文化事業

世界の博物館の発展過程は私たちに教えている。博物館は固定の、万世不変の物では決してない。初めの、珍しいものを漁り集める段階から、収蔵研究に至り、近代の陳列開放にまで達した。収蔵から教育へ変化し、現代では社会、大衆へのサービスに向かい合い、社会の進歩を促す重要な文化作用となった。博物館事業は終始社会の脈動、時代の要請に従って自らの機能を整え、時代遅れな理念を改め、変化の中を進んできた。

今、中国経済は復興し、文化の大発展が期待される、要の時期にある。我が国の博物館が起こす作用と影響は日増しに重要なものとなっている。中国の博物館は、如何にして未来に狙いを定め、多元化する世界の中で良好な発展をするのか。西洋の博物館界に有名な言葉がある。「博物館は何を擁するかではない、自らの持つ資源で何をするかだ。」本来の役目から出発し、自らの資源を利用し、不断にサービスの水準を高め、社会と大衆に幸福をもたらす。そうして、やっと博物館事業は時代と共に歩むことができるのである。

## (3) 知恵を啓発する生涯学習の場所

教育とは博物館の魂である。どのような人にも等しく教育を与え、大衆の知恵の啓発、世の中の教化、美しいもの、善なるものの顕彰に向かい合う。知恵が一度花開ければ、あらゆることに明るくなる。多くの知識（科学、人文、地理、道徳等人類社会の生活に関わる知識を包括した知識）の中には或いは本、ネットから得られるものもある。だがしかし、知識の原動力、源泉を得ることについて、21世紀の世界に於いて、博物館のみがより多くの啓示を与えられるのである。

学校、家庭の教育とは異なり、博物館は社会、大衆の生涯学習拠点なのである。現在、博物館の一切の活動は博物館が知恵を啓発する生涯学習の場所、大衆生活の欠かせない部分となる実践である。

#### (4) 情趣を育む娯楽精神の楽園

如何にして情趣のある、幸福ある生活を得るのか。これは 21 世紀に入り、人類の高度経済化、物に変化する世界に於いて差し迫った問題である。

しかし、博物館は最もよい答を出すことができる。人々の創造力と美的鑑賞という情趣を養う、生活の美化、性格改善、人生の詩化などの方面において、博物館の果たす役割は比べるものがない。

博物館の濃厚な文化的雰囲気、人間的特色、中でも文物の持つ境地の美が含む表現は、品性を陶冶し、落ち着きを持たせ、現実から理想へ向かい、思考から情操教育へ向かい……人間的配慮、精神が羽ばたく大空を提供する。ここでは、社会的地位と身分、理屈っぽい堅苦しい話、心身の束縛等はなく、ただ平等な永久の精神的楽園があるのである。

西洋の哲学者ヒュームはかつてこのように述べた。「幸福はどんなその他の方面のことを用いるよりも、感情というこの敏感なものをを用いて達せられる。もしある人間がそのような能力を備えていれば、その物は趣味の快樂の中から幸福を得る。欲望が満たされる中から得られた幸福よりも大きいのである。」

博物館は人類の高雅な情趣を養い、幸福な生活の精神的源泉を為せるように成ろうとしている。これは正に現代の中国の博物館人が追求する壮大な目標なのである。

『中国博物館』2008 年第 3 期 (CHINESE MUSEUM NO.3 2008) 所載

主宰：中国博物館学会 協力：故宮博物院

(翻訳：西川 芳樹)

#### 参考文献

- 1、李文儒 主編、『グローバル化の中の中国博物館』、文物出版社、2002 年 5 月 第 1 版
- 2、楊玲、藩守永 主編、『現代の西洋博物館発展体勢研究』、学苑出版社、2005 年 12 月 第 1 版
- 3、呂建昌、『博物館と現代社会に関する若干の問題研究』、上海辞書出版社、2005 年 12 月 第 1 版
- 4、曹兵武、『現状の記憶と文化の殿堂——私たちの時代の博物館』、学苑出版社、2005 年 9 月 北京 第 1 版
- 5、曹兵武、李文昌主編『博物館観察——博物館展示宣伝と社会サービス業調査研究』、学苑出版社、2005 年 9 月 北京 第 1 版
- 6、『21 世紀の中国博物館の展望』、中国国家文物局、アメリカ、メロン基金会共同開催 中米博物館論壇文集、メロン基金会出版、2006 年

#### (4) 博物館教育機能の最適化分析

沈佳萍（復旦大学文物・博物館学部修士生）

博物館の主な機能は、所蔵品に対し責任を負うことか、それとも観衆に対し責任を負うことか。この問題は既に現代的博物館と伝統的博物館の大きな違いとなった。これは博物館が「物への配慮」から「人への配慮」へと根本的に変化したからであり、博物館の今後の発展と力を注ぐべき方向を示している。

我が国の博物館機能の現状から見れば、国内の大多数の博物館では依然として収蔵、保護、文物研究を主な仕事としており、貴重文物の展示には長けているが、陳列テーマの選択と掘り下げは重視していない。展示品情報の内在関係と伝播効果の探求が疎かになっている。更には、観衆の需要と達成した教育結果を無視し、基本的には博物館を単純な収蔵研究機関と見なしている。また博物館の審査標準から見れば、上級管理部門の博物館への評価も基本的に所蔵品の保護と貴重文物の展示を主としており、陳列による波及効果と大衆教育への注目は不十分である。それ故、博物館の機能履行の中で非常に深刻な偏りが存在している。収蔵、研究等に偏った内部機能は「目標機能」と同じであり、博物館教育の重要性を無視しているのである。この所蔵品を全てとした伝統的な位置付けは国際的な博物館発展の流れに逆行しており、社会と大衆の博物館に対する実際の需要と一致していない。

これらの問題を解決するために、博物館の教育機能を更に発揮し、博物館の教育機能に関する研究が必要である。

##### 一、博物館教育理念の革新

陳列展示は、博物館が教育機能を発揮する最も直接的な鍵となる方法である。我が国の大多数の博物館は陳列展示についての理解がまだ「消極的展示」と「一方通行」の段階に留まっており、参観者に対しては、主に所蔵品の展示については、簡単な文字解説或いは自動解説を提供し、後は参観者次第としている。この消極的方法是展示品情報伝達の掘り下げと拡大に大きく影響し、博物館が大衆教育に対して屈折した懈怠な態度をとり、最終的には観衆の利益を損なうことになるのだ。対して、西洋では博物館教育の認識は既に新しい段階を切り開いている。知識の伝達は教育者から教育を受ける側に向け一方通行ではなく、互いに交流、影響するものであり、博物館教育の目的とは「教」ではなく、観衆の「学」を助けることであると、西洋では普遍的に認識している。博物館は主に観衆の自主学习にサービスを提供することで、その教育機能を実現させるのである。この概念は博物館に積極的な相互作用、啓発式の教育理念を打ち立てるよう求めている。これこそ我が国の

博物館教育が弱い部分なのである。

上記以外に「教育」概念の範囲は広がり続けている。我が国の博物館教育は意識形態の以上に、宣伝と教育の任務がある。そのため常に歴史、文化、政治等の分野に限定されがちで、急速に発展し日々複雑になっている社会からすれば、相対的に偏りがある。社会の発展進化と人類認知の結合の完成は既に個人総合的素質に対して更に高い要求をしている。1人の人間が如何に自分の周りの世界を理解するか、人類の過去の歴史と記録を含む現在の生活の思考と反省、未知世界の予想図を描くこと、全てが既に新時代教育の主なテーマとなっている。博物館は大量の実物と感性認識を提供する知識の殿堂として、また学校での教育を伸ばし生涯教育の起点基地として、博物館は人々のより一層の全面的な世界観を持つよう導くことに教育責任を持ち、より基本的な幅広い風格を持つべきである。我が国の博物館を見渡した際に、分類について言えば、最も目に付くのは、「〇〇歴史博物館」「〇〇記念館」である。展示内容から見れば、最も普遍的なのは考古発掘品または伝来の文物であるが、全て右に倣えの青銅、陶器、玉細工、書画、貨幣等の古い器物であり、人文、民族、日常生活、非物質文化遺産に関する品は少ない。決してこれらの博物館の国民教育への重要な役割を否定しているわけではないが、現代的な視点から見れば、博物館は大衆生活の理念と社会人として果たすべき責任と義務を教えてはいなかった。中国国民の知識量は、はるかに西洋より優勢だが、国民の素質は正比例していない。これは大きな中国教育の弊害が暴かれたのであり、大衆教育の支部として、博物館も責任を逃れることはできない。だが、国外の博物館は全く違う。彼らは現在と未来こそが最も重要だとみなし、過去を展示するのは、人々にもっと現在に関心を持たせるためである。アメリカで、多数存在し、積極的効力を発揮しているのはアメリカ社会の様々な面を展示する博物館である。農場を博物館に変える、礼儀、移民、ロック、エイズ、コカコーラなどをテーマとするのも成功した博物館の模範的事例である。この種の博物館教育理念は西洋では「汎生活化」と呼ばれ、生活に有益なもの一切を博物館で紹介することができる。この種の人生の充実に基づく教育態度は、現在の博物館発展の重要な動向となっている。

知識人は既に教育機能の重要性を認識しているものの、中国では博物館教育機能の発揮はまだ相対的に低い水準にある。この状態を変えるには、まず認識の根源から着手し、博物館の機能に対する凝り固まった認識を変える必要がある。教育機能は博物館の収蔵、研究機能の副産品であると見ることは二度とせず、博物館のあらゆる仕事のスタートでありゴールであるとしなければならない。

## 二、博物館と観衆の交流障害の排除

もし博物館を人とするなら、役柄は教師か指導者の役目とすることができるだろう、その授業内容と方法は学生に大きく影響する。中国で博物館というと、まず脳裏に焼きつく

のは、ずらりと並んだ冷たい展示棚と生命力の無い作品で、「説明意欲」の欠乏した展示品は、外に「触れないでください」、「立ち入り禁止」の警告がある。このような「先生」によって、知識と知恵の宝庫を開かれると考えると、なんと恐ろしくつまらない事だろうか。中国の博物館と参観者の間には大きな情報伝播の障害がある。このような状況を変えるには陳列展覧の形式と態度を変えなければならない。

初めに博物館「自己意識」の調整である。博物館は貴重な所蔵品の提供者で、参観者の知恵の源泉であり、大衆教育環境の中でも間違いなく力のある場所である。しかし、このような権威ある面構えが博物館及び展示品に近付き難くさせるのである。優れた博物館は到る所で専門用語と勿体ぶった理論を用い、更には見ても分からないために人々に敬虔に仰ぎ見られる、などということは決してない。次に、どの展示品も、どの解説も参観者の尊重と理解を体現する。全ての場所で人々のためによりよい学習、創造、親切、勉強、平等の雰囲気を作り出すことができるのである。

次は陳列の具体形式の現代化である。現在、中国の博物館に陳列形式は単調であり、面白みかけ、観客が参加する度合いも比較的低い。個々の博物館では既にこの問題に注意しはじめているが、全体的にみれば陳列水準は依然として低い。国外では博物館の陳列教育の方式で次の様な動向が見られる。①教育は啓発式に向かい、教育を楽しみの中に潜ませ、参加者にリラックスした楽しい雰囲気での学習目的を達成させる。②教育は指導式、探索式に向かっている。③教育は臨場式に向かっている④教育は生活化に向かっている。

最後に各種展示方法の総合活用である。現代社会の科学技術の急激な発展や人類生活の多様化により、人々は博物館を参観する際、自ずと展示品に多方面の情報を求め、伝統的な文字の展覧は既に人々の各感覚機能の需要にたえられなくなった。多種展示手段、特にマルチメディア技術の運用が博物館の感化力を大きく伸ばすであろう。

### 三、博物館と館外機構協力の強化

博物館は教育事業の重要な構成部分として、学校教育の方面でも当然負うべき責任がある。博物館と学校の協力強化、緊密なチームワークは国だけではなく、国外でも博物館の既に重要な役割となっている。

イギリスとニュージーランドでは、未来の小学校教師もしくは校長に博物館教育の専門授業を受けさせている。アメリカでは、博物館の規模に関わらず教育部門が設置されており、彼らのサービス項目の内、大部分の内容が学校教育との協力であり、この中は生徒のために専門の教室、実験室を設置、児童の参観専用の陳列室或いは「児童博物館」を開設、有償でのスライド、写真、標本、模型等の貸し出し等が含まれる。幾つかの大型博物館では専門的な教材を印刷しており、ニューヨークの大都会芸術美術館が「ギリシャ芸術」・「韓国芸術」・「東南アジア芸術」などのテーマ資料（文字資料、スライド、CD-ROMを含む）

む) を出版し、ニューヨーク市の全公立学校に無償で1セットずつ送っている。この博物館は更にニューヨーク市ボドー学院と共に研究センターを設立して、小規模な所蔵品展示、大都市の博物館の業務主管が学院の学生の指導をしている。2001年の統計によると、アメリカの88%の博物館が「K-12」(幼児から少年)教育プログラムを提供しており、アメリカの全ての博物館が毎年学生のために390万時間のサービスを提供している。アメリカの博物館は既に小学生から研究生まで、名実共に「第二の教室」となっている。幾つかの国の博物館、例えばインドのビラ工業技術博物館、カナダ国立博物館、フランスのロダン博物館では「流動展覧車」を設置しており、車に作品を陳列し、各地を移動して展覧を行い、遠方に住んでいる学生や市民の人気を博している。

我が国では、学生の教育も各級博物館の日常業務の重要な部分であり、以前創り出した多くの学校から歓迎された教育方法も、貴重な経験として積み重ねられている。例えば、中国の国家博物館は、日常的に小中学生を指導する以外に、小中学校の教材と提携し、教学スライド「中国歴史」と歴史教学の参考資料の掛図等も編集している。この博物館はまた大学生教育の需要とも結びついて、商(股)代遺跡と文物資料紹介のビデオの編集作成も行っている。これら全ては学校教学を活性化する非常に積極的な促進作用がある。しかし、中国博物館と学校の協力にはまだ問題が多く存在している。

わが国の博物館はこれまで一貫して「参観」を重んじ、「普及」を軽んじてきた。学生が博物館に来た際の任務は「見る」事で、スライド・写真・文字資料等の使用については比較的難しいものがあり、特殊な要求を軽視したわけではなく、観衆に積極的に提供できなかったのである。しかも、中国の博物館の学生教育は多くが「中へ入る」で、「外へ出る」ことが少なく、校外の教育活動は依然として発展が不十分であり、このような活動が展開している博物館でも、ほとんどがまだ制度化、恒常化がされてはいず、活動方式は簡単であり、活動効果の更なる向上に期待したい。有名なクリーブランド博物館では1年中「家庭快速」、「学校への旅」等の「出張教育」プログラムを推進しており、また所蔵品の中から選択した1.8万件の一般複製品を対外教育で使用している。今まで芸術品を破損するケースがあると、一件の損害に対し毎年65000人の学生が受ける利益を失うことになっていた。これも博物館の大衆サービスという神聖な責務を果たしているといえる。

学校との関係を強める以外に、博物館が教育機能を最大限に発揮するには、図書館と古文書館とよい関係を保つ必要がある。学術目的がある参観者からすれば、所蔵品を参観したあと、もし、関係する図書館と古文書館から系統だった知的な理解を得ることができれば非常に有益である。しかしながら、国内の博物館の建物は孤立しており、一般的に図書館や古文書館とは提携していない。たとえ関連する図書館、資料室が有ったとしても、使用権限の問題により、度々観衆を困らせている。当然「地域」、この概念が次第に盛んになっている今日、博物館は大衆、社会団体との交流を深め、博物館事業に対する支持と参画を最大限に得る必要がある。



つまり、博物館教育が飛躍的な発展を遂げるには各方面の文化事業の支持と協力を頼らなくてはならないのである。

#### 四、博物館教育部門の建設最適化

まずは教育体制の構造の最適化である。現代の博物館教育は一種の広義の教育であるため、博物館教育のスタッフの構成は伝播と交流の意義により設計されなければならない。これは少なくとも三部分から組織されている。

①陳列と展示品の制作グループ。陳列の設計と制作の責任を負い、録音・ビデオと他の教育ソフトを制作する。②講義グループ。博物館内外の各種の解説、講座、研究活動に責任を負う。③連絡グループ。博物館会員、観衆、地域との関係に責任を負い、博物館と観衆の相互還元システムを作る。

次に、博物館教育に携わる職員の素質の構築である。特に重点を置かなければならないのは説明系の素質である。現在、優秀な説明係は文章通りに読み上げ、丸暗記するアナウンサーではなくなった。説明係は良好な知識体系と現場の判断力を持ち、様々な受け手に対して、絶えず解説する内容と方法を調整しなければならない。博物館の説明系の素質を構築するため、管理部門はできるだけ早く説明系の資格を作り規準を認証すべきである。説明係は業務レベルを高める以外に、更にコミュニケーション力と影響力を身につけなければならない。技術と人間性が不十分な解説であれば、最終的には参観者に見放されるのである。

#### 五、豊富な博物館教育の内容と形式

我が国の博物館教育形式が乏しいのは、争うことのできない事実で、教育活動の開拓が必要とされている。幾つかの博物館が持つ教育活動以外に、以下のいくつかの活動も良い方法である。

①新型の解説ガイド。解説員の解説及び各種ガイド装置（例えば、コンピューターガイドシステム、マルチメディアダイジェスト室、テープレコーダーガイド、展示品自動放送システム、レーザー型解説機とディスクガイドシステム等）この外に、ガイドのスタイルもある程度変化させることが可能で、「全面ガイド」から「逸品ガイド」に変えることもできる。

②特別講座。展示協力、収集、研究等をテーマに、系統だった紹介をし、観衆に深く関連する背景知識を理解させ、同時に専門の学者と一般民衆の間に直接交流の機会を提供する。

③視聴鑑賞とビデオ制作。展示室内で映画、スライドを放映し、観衆の興味と理解を増

す。

④研究授業とセミナーの創立。さらに良い実物条件を使って大衆の科学研究の情熱を満たす。

⑤知的旅行：博物館の活動を室内から室外へ広げ、人文、自然の資源と特色を実地観察する。

我が国の博物館はこれらの中から適当な教育方法を選択し、現地の特徴ある自然、人文資源、総合館内の実際的な資金能力と結び付け、詳細な教育活動を画策することができる。

## 結論

現在、博物館の教育機能レベルは博物館の仕事の優劣を測る重要な指標の一つであり、これは新世紀の博物館が発展の必然的な動向である。我が国の博物館は伝統的な収蔵理念と政策の指導のため、博物館の公衆教育への関心が不十分であり、博物館の教育機能は大変立ち遅れている。我々は先進的な理念と手段を取り入れ、新たな試みの歩みを勇敢に踏み出せば、中国の博物館は正真正銘の人民の博物館、大衆の教育殿堂となるのである。

『中国博物館』2008年第1期（CHINESE MUSEUM NO.1 2008）所載

主宰：中国博物館学会 協力：故宮博物院

（翻訳：西川 芳樹）

## (5) 全国博物館評価方法（試行）

- 第一条 博物館業の管理を強化し、博物館の社会サービス機能を十分に発揮し、博物館事業の発展を促進するため、『中華人民共和国文物保護法』、『博物館管理法』（文化部第35号令）に基づき、本方法を定める。
- 第二条 およそ中華人民共和国領内の正式に登記、登録、定期検査を受け、文物と標本を収蔵保管、科学的研究、陳列展覧の機能を有し、且つ、社会に対して開放（正常運行、開放三年以上）する各種類の博物館は皆、博物館評価への参加申請をすることができる。
- 第三条 博物館評価の作業は国家文物局組織が行う。自由意志による申請、事業評価、動態管理、ランク付け指標及び公平、公正、公開の原則を遵守する。自己評価、申請、評定、公布の工程に基づき進行する。  
評価認定された博物館は国家文物局が各業務活動、国内外との交流、人材育成などの方面に優先的な支援を与える。
- 第四条 国家文物局博物館評価基準の制定及び評価基準の実施、進行、監督、検査に責任を負う。  
国家文物局全国博物館評価委員会を組織設立する。全国博物館評価委員会は全国博物館評価作業の組織と管理に責任を負う。  
省級文物行政部門は本轄区博物館評価委員会を組織設立する。省（自治区、直轄市）博物館評価委員会は全国博物館評価委員会の指導の下にあり、相応する等級の博物館の評価作業を行う。
- 第五条 博物館は評価により相応する等級を確定する。高い方から順に一級博物館、二級博物館、三級博物館とする。
- 第六条 評価を申請した博物館は『博物館評価暫時標準』に依り自己評価を行い、『博物館評価申請表』に記入し、所属する省（自治区、直轄市）博物館評価委員会に申請を提出する。
- 第七条 省（自治区、直轄市）博物館評価委員会は評価申請の博物館に対し考察と評価を行い、一級博物館が提出した推薦意見に対しては本省級文物管理行政部門の審査を経て、全国博物館評価委員会報告し評議する。第二級、第三級博物館が提出した評議意見に対しては本省文物行政部門の審査同意を経て、全国博物館評価委員会に報告し再審する。
- 第八条 全国博物館評価委員会は省（自治区、直轄市）博物館評価委員会の推薦する一級博物館に対し審査を行い、専門家グループを組織し実地評価を行う。  
専門家グループは調査対象の事実確認、実地調査、尋問評議の基礎に基づき、現場評価報告を提出する。

全国博物館評価委員会は申請単位の『博物館評価申請書』、省（自治区、直轄市）博物館評価委員会の推薦意見、現場評価報告に基づき、総合評議を行い、採点方式により一級博物館評定意見を作成する。

第九条 全国博物館評価委員会は一級博物館の評議意見と二、三級博物館の再審結果を国家文物局に報告し、査定、公布する。

第十条 博物館の等級標識、証書を国家文物局が統一して製作、授与する。

第十一条 相応する等級に評価された博物館は等級標識を正門の最も目立つ位置に置き、社会の監視を受けなくてはならない。

第十二条 博物館評価作業は三年に一度行われる。具体的な申請時期は国家文物局が決定する。

評価申請と等級が上がった博物館に対して、本方法に基づき評価を行う。すでに等級が確定している博物館はその等級に相応する評価委員会が再審する。再審査に合格と、評価委員会が認定した機構は現有の等級を保留する。再審査に不合格と、評価委員会が認定した機構はその等級を抹消される。

第十三条 全国博物館審査委員会、省（自治区、直轄市）博物館評価委員会及び現地評価グループは関連する評価作業工程、規則、規律を厳格に遵守し、関連管理部門、博物館業、社会の各界と公証機構の監督を受けなくてはならない。

第十四条 評価を申請した博物館は、一度でも詐欺、賄賂等の違法行為の事実が確認されれば、主管の文物行政管理部門はその評価資格を取り消す。

博物館評価作業に参加する専門家と作業員は私情の持ち込み、賄賂の授受をしてはならない。もし、規則違反、違反行為が確認されれば、主管の文物行政管理部門より相応の処分を受ける。

第十五条 本方法は公布日より施行される。

中華人民共和国国家文物局 (<http://www.sach.gov.cn/>) 服務信息

: 資料下載、博物館管理 (<http://www.sach.gov.cn/tabid/80/Default.aspx>)

「全国博物館評価方法（試行）」所載

（翻譯：西川 芳樹）

## 博物館評価基準点数表（修訂）

注：■欄は配点，■点の合計は1000点である。

No.	評定項目	検査評定の方法と説明	大項目 得点欄	中項目 得点欄	副 中項目 得点欄	小 項目 得点欄	副 小項目 得点欄	自 己 評 採 点 欄	推 薦 単 位 採 点 欄	評 価 単 位 採 点 欄
1	総合管理と基礎施設	目の得点は、一級博物館は160点を、二級博 は120点を、三級博物館は80点を下回って らない。	200							
1.1	法人の管理構成	本指標は博物館管理体制構造の改革方向 性の指標、条件を満たさない者は得点を 得ない。		14						
1.1.1	方策決定機構				7					
1.1.1.1	理事会（役員会）或い はその他の形式の方 策決定機構がある	理事会等の方策決定機構は博物館の運営 者、或いは代表、館長、従業員代表、識者 により構成される。構成員の三分の一以上 は五年以上博物館或いは関連分野の仕事 の経験がある者であるべきである。				2				
1.1.1.2	作業計画がある					2				
1.1.1.3	人員の構成が合理的 である					1				
1.1.1.4	相応する活動を行っ ている					1				
1.1.1.5	理事会（役員会）もし くはその他の方策決 定機構の年度報告が ある					1				
1.1.2	監督機構				7					
1.1.2.1	監査役会或いはその 他の形式の監督機構 がある	監査役会等の監督機構は博物館運営者代 表、従業員代表により組織される。構成員 の従業員代表の比率が三分の一を下回っ てはいけない。				2				
1.1.2.2	作業計画がある					2				
1.1.2.3	人員の構成が合理的 である					1				
1.1.2.4	相応する活動を行っ ている					1				
1.1.2.5	監査役会或いはその 他の形式の監督機構 の年度作業報告があ る					1				
1.2	博物館計画と発展長 期化計画がある			20						

1.2.1	博物館計画がある	計画は博物館の法的地位、性質、趣旨、業務範囲、発展戦略、運営原則及び機構などの重要項目を明確にしなければならない。			5						
1.2.2	発展長期計画	博物館全体の発展計画を指す。			8						
1.2.2.1	館の性質と機能の位置付けに合致した事業発展の中長期計画がある	中長期とは五年以上を指す。計画は形式の完備、方向性がはっきりし、目標が明確、重点特長、具体的実施の保障する。				3					
1.2.2.2	計画は専門家の論証を経ている	専門家のサインがある論証意見を検査する				3					
1.2.2.3	計画は上級管理部門の批准を得ている	上級機関の批准書類を検査する				2					
1.2.3	年度作業計画	方向性がはっきりし、目標が明確、操作性が強い				3					
1.2.4	博物館の年次検査報告がある	『博物館管理方法』第15条は2006年より年度検査を開始すると定める。年度検査の結論合格を4点、基本合格を2点、不合格を0点とする。				4					
1.3	建物と環境			16							
1.3.1	建物の機能と小地区の配置	『博物館建築設計規範 JGJ66-91』「3.1一般規定」中の約款に基づき、状況を酌量して採点する。				5					
	建物の機能と小地区の配置が合理的であり、自らシステムを構築している					5					
	建物の機能と小地区の配置が比較的合理的であり、自らシステムを構築している					3					
	建物の機能と小地区の配置が基本的に合理的である					1					
1.3.2	環境衛生					1					
						1					
1.3.2.1	室外の衛生	乱雑な山、乱雑な放置物、乱雑な建物の現象が無く、施工場所のメンテナンスが整っている。汚水、汚物が無い。状況を酌量して採点する。					3				
1.3.2.2	室内衛生	清潔、美観、快適。状況を酌量して採点する					3				
1.3.2.3	室内の空気の質	清新、無臭。状況を酌量して採点する					3				
1.3.2.4	緑化	室外の植えられた植物、室内の緑化を状況を酌量して採点する					2				
1.4	人的資源			30							
1.4.1	人材の資質と比率	「人員の資質」は専門技術職に従事する職員を指す。人事部の『「事業単位職場設置管理思考方法」実施意見』（国家人事部発〔2006〕87号）規定に基づき、主に専門技術を社会公益サービス業務に提供する部門は専門技術職員の職場が主体を占めることを保障し、職場全体の70%を下回ってはならない。					5				
	専門の人材が構成人数の75%以上						5				

	専門の人材が構成人数の70%以上				3					
	専門の人材が構成人数の60%を下回らない				1					
1.4.2	人材の階級構成				10					
1.4.2.1	専門技術職員に高、中、初級役職比率が適当	人事部『「事業部門職場設置管理思考方法」実施意見』（国家人事部発〔2006〕87号）は「専門技術職員の高、中、初級職の構成比率は1:3:6を全国総体の抑制目標とする」と規定している。この比率に基づいた、専門職員の階級、構造の合理性。状況を酌量して採点する				4				
1.4.2.2	高、中級管理職員	高級管理職員とは館レベルの指導、中級管理職員とは各部門の責任者を指す				6				
	高、中級管理職員は全員が大学以上の文化レベルを備えている					6				
	高、中級管理職員は85%が大学以上の文化レベルを備えている					4				
	高、中級管理職員は全て専門学校以上の文化レベルを備えている					2				
1.4.3	人材育成	市（地）級（含）以上の文物行政部門組織の専門職訓練に参加することを指す			12					
1.4.3.1	的確に行える人材育成制度がある					3				
1.4.3.2	相応する育成経費がある					2				
1.4.3.3	人材育成作業の計画と秩序だった実施がある					3				
1.4.3.4	職員の訓練合格率が100%に達し、相応する証書がある	合格率が100%に達しなかった場合、状況に応じて採点する。合格率が80%に満たない場合は0点。				4				
1.4.4	科学的な従業員試験、奨励制度があり、有効に実施されている					3				
1.5	財務管理			30						
1.5.1	財務管理制度の完備					3				
1.5.2	財務管理制度の有効実施	財務管理制度、財形規律に違反することがない				3				
1.5.3	経費の来源と保証	前年度財務決算報告を根拠とする				10				
	一人当たりの経費が5万円（含）以上	事業経費とは本級財政予算への納入する、従業員配当、福利、施設維持、行政事務日以外の業務経費を指す。				10				
	一人当たりの経費が3万円（含）～5万円					8				

	一人当たりの経費が 1 万円 (含) ～3 万円			6					
	一人当たりの経費が 7 千元 (含) ～1 万円			4					
1.5.4	社会援助	三年以内に資金援助を受けたプログラム、無償で送られた物的資源（文物を含む）及び資金を含む。金額は制限なし、寄贈合意書などの書面を証拠とする		10					
1.5.4.1	用水路			5					
	用水路が複数ある			5					
	用水路一本のみ			3					
1.5.4.2	安定性			5					
	定期的な社会の資金援助がある			5					
	不定期な社会の資金援助がある			2					
1.6	安全保障		80						
1.6.1	万が一の危険と防護	『文物系統博物館危険等級と安全防護等級規定』（GA27-2002）を参考に採点		40					
1.6.1.1	中央管制室がある			2					
1.6.1.2	中央管制室は随時現場の位置を把握通報できる			1					
1.6.1.3	警報は資料保存を完備し、随時利用できる			1					
1.6.1.4	公安部門と連動した装置がある			1					
1.6.1.5	室外周辺警報システムがある			3					
1.6.1.6	室外に監視カメラ設置されている			3					
1.6.1.7	室外周辺出入り口に出入り口制御装置がある			3					
1.6.1.8	室外に実体防護装置がある			2					
1.6.1.9	巡察システムがある			1					
1.6.1.10	展示ホール出入り口に出入り口制御装置がある			3					
1.6.1.11	収蔵品庫の扉、通りに出入り口制御装置がある			3					
1.6.1.12	修復作業場の扉、通りに出入り口制御装置がある			3					
1.6.1.13	内部の重要出入り口にビデオ監視システムがある			3					
1.6.1.14	内部の重要な位置に防犯装置がある			2					
1.6.1.15	展示場に防犯装置システムがある			2					



1.6.1.16	展示場に振動警報装置がある					1				
1.6.1.17	倉庫内に通報装置がある					2				
1.6.1.18	倉庫内に振動警報装置がある					1				
1.6.1.19	重要展示ケースに防弾ガラス及び警報装置がある					3				
1.6.2	安全保衛	『博物館安全保衛作業規定』を参照に採点				1 5				
1.6.2.1	保衛作業機構がある	博物館の規模に相応した保衛作業機構がある				1				
1.6.2.2	保衛人員の配置	規定に基づく適当な人数の保衛人員がいる				1				
1.6.2.3	長期計画制度の完備					2				
1.6.2.4	教育訓練制度の完備					2				
1.6.2.5	操作規定規範	保衛人員の実際の作業状況を調査する				2				
1.6.2.6	書類が揃っている	安全書類の調査				1				
1.6.2.7	巡察記録が揃っている	巡察記録の調査				1				
1.6.2.8	引継ぎ制度の規範的	引継ぎ簿の調査				1				
1.6.2.9	安全防犯応急プランがある	応急プランの調査				1				
1.6.2.10	安全保衛訓練					3				
	年二回以上実施					3				
	年に一度実施					1				
1.6.3	消防安全	『機関、団体、企業、事業所消防安全管理規定』に基づき採点				1 2				
1.6.3.1	消防組織が整い、消防安全責任が明確である					2				
1.6.3.2	消防安全管理制度の完備					2				
1.6.3.3	消防安全操作規定が規範的					2				
1.6.3.4	消防設備が整い、有効					2				
1.6.3.5	防雷装置が安全、有効					2				
1.6.3.6	消防安全応急プランがある					2				
1.6.4	公共の安全					1 3				
1.6.4.1	参観遊覧安全制度があり公開している					2				
1.6.4.2	安全脱出標識が目立ち、美観がある					2				

1.6.4.3	安全出口、避難経路が十分に通じている					2					
1.6.4.4	応急照明設備の完備					2					
1.6.4.5	応急施設の完備、責任到人（有事の際に駆けつける義務か？詳細不明：訳者注）					2					
1.6.4.6	公共安全応急プランがある	検査委員は安全施設の性能と使用法、突発事件の妥当な処理を熟知する。				3					
1.7	事務の情報化			10							
1.7.1	行政、業務作業データベース	事務の自動化の程度を調査				5					
	完全なデータベースがある					5					
	簡単なデータベースがある					2					
1.7.2	LAN					5					
	機能の完備した、運営上信頼の置けるLANがある					5					
	簡単なLAN 或いは一部の仕事でLANが使われている					2					
2	収蔵品管理と科学研究	本項目の得点は、一級博物館は 240 点、二級博物館は 180 点、三級博物館は 120 点を下回ってはいけない	300								
2.1	収蔵品管理			150							
2.1.1	収蔵品の現状	科学館の展示品も収蔵品と見なす				3					
						0					
2.1.1.1	収蔵システム					5					
	館の性質、任務に合った完全なシステムがある					5					
	館の性質、任務に合った完全なシステムが基本的にある					3					
	館の性質、任務に合ったある程度のシステムがある					1					
2.1.1.2	収蔵品の数量と質	『博物館収蔵品管理方法』第八条第三款「収蔵品数」、第四款「収蔵品計量単位」に基づく				1					
						0					
	収蔵品が 10 万点/セット以上、或いは貴重文物が 2 万点/セット以上					1					
	収蔵品が 3 万点/セット以上、或いは貴重文物が 6 千点/セット以上					7					
	収蔵品が 4 千点/セット以上、或いは貴重文物が 400 点/セット以上					3					

	収蔵品が 500 点/セット以下					1					
2.1.1.3	収蔵品の歴史、文化、科学的価値					15					
	極めて高い歴史、文化、科学的価値があり、その一つの分野において全国的な価値がある	「その一つの分野」とは館の性質、任務に合った、完全な形の文物、標本群を指す				15					
	極めて高い歴史、文化、科学的価値があり、その一つの分野において省レベルの価値がある					10					
	極めて高い歴史、文化、科学的価値があり、その一つの分野において県レベルの価値がある					5					
2.1.2	収蔵品データベース	収蔵品管理システム				10					
	完全な収蔵品データベースがある					10					
	簡単な収蔵品管理データベースがある					5					
2.1.3	収蔵品蒐集					15					
2.1.3.1	明確な収蔵品蒐集政策と範囲がある	館の性質、使命と合う				2					
2.1.3.2	明確な入蔵基準と順序がある					2					
2.1.3.3	収蔵品蒐集機構がある					1					
2.1.3.4	専門の蒐集責任者がいる					1					
2.1.3.5	文物資質鑑定の職員がいる	この内の一つに当てはまること。1. 館が文物輸出入鑑定センター或いは省級文物鑑定委員会を設けている。2. 館は少なくとも1名の常勤の文物輸出入責任鑑定員の資格を持つ者がいる。3. 館は少なくとも1名の常勤の国家、或いは省級文物鑑定委員会委員がいる。				1					
2.1.3.6	収蔵品蒐集経費	自治体の財政予算支出科目の納入				1					
2.1.3.7	収蔵品蒐集経費の合理的、効果的な使用	蒐集した収蔵品は館の性質、任務と合い、現有の収蔵品構成を補い、収蔵品体系を充実させる				2					
2.1.3.8	収蔵品の出所とルート	三年以内の新しく増えた収蔵品の状況				5					
	考古発掘品の譲渡								3		
	税関、公安の没収品の譲渡								1		

	その他のルート						1					
2.1.4	収蔵品の受け取りと 記帳	収蔵品カード、記録簿の状況を調査する。 随時新しい内容を書き加えているかを重 点的に調べる			1 5							
2.1.4.1	入蔵した収蔵品の完 備、はっきりとした原 始資料						2					
2.1.4.2	入蔵手続が完全						3					
2.1.4.3	収蔵品の登記						5					
	収蔵品総目の簡潔、帳 簿と物品の一致							3				
	分類帳の科学的合理 性、編目の詳細明確、 調査の際の便利							2				
2.1.4.4	収蔵品書類の完備、記 録が規範的							3				
2.1.4.5	新しい収蔵品の報告 記載が随時行われる							2				
2.1.5	収蔵品の保存				1 5							
2.1.5.1	収蔵品の分類保存	品質、性質による分類						3				
2.1.5.2	収蔵品の分庫保存							3				
2.1.5.3	重要な記帳収蔵品の 専用ケースがある							3				
2.1.5.4	収蔵品の設置							3				
	科学的、合理的、規範 的							3				
	合理的、規範的							2				
	基本的に合理的							1				
2.1.5.5	収蔵品の取り付け							3				
	収蔵品には全て必要 に応じた取り付け器 具がある							3				
	70%の収蔵品、且つ三 級以上の収蔵品に必 要に応じた取り付け 器具がある							2				
	二級以上の収蔵品全 てに取り付け器具が ある							1				
2.1.6	収蔵品の流用	『博物館収蔵品管理方法』を参考に採点						5				
2.1.6.1	流用手続の完備							3				
2.1.6.2	出入庫記録の完備							2				
2.1.7	倉庫の面積							3				
	収蔵品の収蔵需要を 満たしている							5				

	基本的に収蔵品の重蔵需要を満たしている			2					
2.1.8	倉庫の管理			8					
2.1.8.1	倉庫管理制度	倉庫管理制度と倉庫日誌、登記を調査し、状況に応じて配点する			3				
2.1.8.2	倉庫管理人員	収蔵品倉庫には専門管理人がいるべきである			3				
2.1.8.3	倉庫の環境が清潔	違反品、禁止品がおいてある場合は点数を与えない			2				
2.1.9	倉庫の施設	『館蔵文物保存環境達成基準試行規範』に基づき採点		1 7					
2.1.9.1	倉庫の建物と保管設備が安全、堅固、適用				2				
2.1.9.2	温度湿度管理施設				5				
	温度湿度管理施設が完全であり、設備が整い、収蔵品の性質に合わせて温度湿度をコントロールできる				5				
	温度湿度管理施設が基本的に完全であり、設備が基本的に整い、収蔵品の性質に合わせて温度湿度をコントロールできる				3				
	簡単な温度湿度管理施設がある				1				
2.1.9.3	照明施設が設計規範の要求に応じている	『博物館照明施設規範』を参考に採点			2				
2.1.9.4	通風設備が整い、設備の運転が正常				2				
2.1.9.5	防錆対策がある				2				
2.1.9.6	防カビ対策がある				2				
2.1.9.7	防虫				2				
2.1.10	収蔵品の保護と修復			3 0					
2.1.10.1	保護修復作業場	館が独立して所有する			7				
	比較的大規模であり、設備が整った保護修復作業場がある				7				
	一定の規模と設備の保護修復作業場がある				4				
	保護修復室と簡単な設備がある				2				
2.1.10.2	文物収蔵品修復の資格	省級以上の文物行政部門が発行した可移動文物修復資格、或いは可移動文物技術保護設計資格があることを指す			6				
	博物館が多くの種類の文物収蔵品修復資格を有する				6				

	博物館が一種類の文物収蔵品修復資格を有する					3							
2.1.10.3	職員の文物収蔵品修復資格	修復作業に従事する職員が省級以上の文物行政管理部門が発行した可移動文物修復資格、或いは中級以上の文物博物などに関する専門技術職を有することを指す。				7							
	多くの文物修復資格を有する職員がいる	5人以上				7							
	一定の文物修復資格を有する職員がいる	3-4人				4							
	僅かに文物修復資格を有する職員がいる	1-2人				2							
2.1.10.4	収蔵品検査報告がある					2							
2.1.10.5	収蔵品分析報告がある					2							
2.1.10.6	収蔵品修復プラン及び届けがある					2							
2.1.10.7	収蔵品修復報告がある					2							
2.1.10.8	収蔵品日常保護記録がある					2							
2.2	学術研究と科学技術			150									
2.2.1	学術組織				10								
2.2.1.1	学術委員会及びその他の形式の学術組織がある	館が独立して設立したもの				2							
2.2.1.2	組織の長期計画がある					2							
2.2.1.3	人員構成	具体的な専門分野と多様性				6							
	外部専門家の招聘	高級な肩書きを持つ							2				
	施設に高級な肩書きを持つ職員がいる								2				
	施設に副高級な肩書きを持つ職員がいる								2				
2.2.2	学術活動	前年度の統計データに基づく				10							
2.2.2.1	国際学術会議の開催	施設が独立或いは主導して開いた国際会議。1回開催ごとに2点。最高4点とする。							4				
2.2.2.2	国内学術会議の開催	施設が独立或いは主導して開いた国内会議。1回開催ごとに1点。最高2点とする。							2				
2.2.2.3	国際学術会議への参加	施設の専任職員が海外での国際学術会議に参加。1回参加ごとに1点。最高2点。							2				
2.2.2.4	国内学術会議への参加	施設の専任職員が自施設以外の施設が開いた国内学術会議に参加する。							1				
2.2.2.5	訪問学者の派遣	施設の専門職員が国外の施設に関わる講演、研究、学習活動に三ヶ月以上連続で従事する。書面を証拠とする。							1				
2.2.3	学術刊行物	書籍を刊行物の代わりとする場合は定期出版物と見なさない。定期出版物は定期学術出版物と見なす。不定期のものは論集の編集とする。				14							

2.2.3.1	期刊	正式な号、刊があり、公開発行した物				6							
	中央紙と見なせる期刊					6							
	普通期刊					3							
2.2.3.2	学術刊行物の定期出版	三年以内に一度発行1点、最高2点				2							
2.2.3.3	論文集の編集	三年以内に1種類発行1点、最高3点。非公開発行のものは何種類あろうと1点。				3							
	公開発行					3							
	非公開発行					1							
2.2.3.4	施設職員の学術著作、普通読物出版	単著。三年度内の年平均冊数				3							
	出版3種類以上					3							
	出版2種類以上					2							
	出版1種類以上					1							
2.2.4	学術論文	単著。三年度内の年平均本数			7								
2.2.4.1	施設職員が国際的に知られる期刊上で論文発表	一本につき1点。最高3点				3							
2.2.4.2	施設職員が省級以上の期刊上で論文発表					3							
	中級以上の専門技術職員が全員2本以上論文を発表					3							
	中級以上の専門技術職員が全員1本以上論文を発表					2							
	論文発表がある					1							
2.2.4.3	施設職員が国内のその他の刊行物上で論文を発表					1							
2.2.5	学術期刊の収蔵	三年以内の刊行物			4								
2.2.5.1	外国語の学術期刊がある	3種類以上の外国語学術期刊を所蔵すると2点。その他は1点。				2							
2.2.5.2	中国語の学術期刊がある	中国語の学術期刊を収蔵すると2点。その他は1点				2							
	10種類以上					2							
	10種類以下					1							
2.2.6	施設内部に科学技術部門を設置	文物保護科学と技術関連の科学技術活動部門を展開				3							
2.2.7	科学技術職員の学歴構成	文物保護関係の科学及び技術活動に従事する職員				1							
	全員が学士以上、その中修士の比率が50%以上、博士の比率が15%以上。				1	0							

	全員が学士以上、その 中修士の比率が 25% 以上、博士の比率が 10%以上。			8					
	全員が学士以上、修士 の比率が 25%以上			6					
	全員が専門学校以上、 学士の比率が 60%以 上			3					
2.2.8	科学技術職員の知識 構成			1 0					
	専門業務に精通し、外 国語を習熟している 職員				4				
	文物博物館研究に従 事している職員				4				
	その他の科学研究に 従事している職員				2				
2.2.9	科研費	三年以内の科研費の支出証書を証拠とする		1 0					
	国際援助がある				3				
	財政支持の専門項目 科研費がある				4				
	自立した科研費があ る				3				
2.2.10	科学研究計測設備	施設が独立して所有し、効果のある計測設備		1 0					
	総額 200 万元以上			1 0					
	総額 50 万～200 万円の間			7					
	総額 5 万～50 万円の間			4					
	総額 5 万元以下			2					
2.2.11	科学研究実験室	施設が独立して所有する、修復室以外の単 独の科学研究実験室		1 0					
	いわゆる実験室があ る				4				
	計測室がある				3				
	その他の実験室があ る				3				
2.2.12	科学研究基地			1 0					
	国家文物局重点科学 研究基地			1 0					
	省級科学研究基地			5					



2.2.13	科学研究課題	三年以内に施設が独立或いはリードした科学研究プログラム			1 5					
	国際合同プログラムを担当					5				
	国家級科学研究課題を担当					5				
	省部級科学研究課題を担当					3				
	その他の科学研究課題を担当					2				
2.2.14	特許と奨励				1 5					
2.2.14.1	科学研究項目が国家の特許を得る	三年以内に国家特許三項目以上を得ていれば5点、二項目ならば4点、1項目ならば2点				5				
2.2.14.2	科学研究プログラムと奨励獲得	三年以内の最高級奨励に基づき採点				1 0				
	国家級奨励プログラムを獲得					1 0				
	省部級奨励プログラムを獲得					8				
	その他の奨励プログラムを獲得					5				
2.2.15	新技術の導入	三年以内の収蔵品の保護、研究、展示、教育、伝達等に於ける関連技術、手段の導入				1 0				
	新技術を導入し、大きな成果を挙げる	各2点、最高10点				1 0				
	新技術を導入し、一定の成果を挙げる	各1点、最高5点				5				
<b>3</b>	<b>陳列展覧と社会サービス</b>	本項目は1級博物館は400点、2級博物館は300点、3級博物館は200点を下回ってはならない。	<b>500</b>							
3.1	影響力			90						
3.1.1	博物館は特色あるブランドイメージを持つ、館のロゴマークを作成する	正式な博物館章を指す				5				
3.1.2	博物館の商標登録	登記書類を調査				5				
3.1.3	ロゴマークの運用					1 0				
	建物の目立つ位置にロゴマークがある					2				
	宣伝用品にロゴマークがある					2				
	文化製品にロゴマークがある					2				
	入場券にロゴマークがある					2				

	仕事着にロゴマークがある					2							
3.1.4	博物館の宣伝	三年以内の宣伝促進作業			30								
3.1.4.1	系統的な宣伝計画と措置	宣伝計画の文書				5							
3.1.4.2	テレビコマーシャル					5							
	施設を紹介するテレビコマーシャルがある					5							
	他のテレビコマーシャルの中に館に重点を置いた紹介がある	指導者が博物館を参観する報道はこれに含まれない				2							
3.1.4.3	テレビコマーシャル放送レベル					10							
	全国主要局のテレビ放送					10							
	省級局のテレビ放送					6							
	市、県級局のテレビ放送					3							
3.1.4.4	新聞雑誌の宣伝					5							
	専門の紹介	専門欄、専門版、専門刊				5							
	総合報道の中で重点的に紹介	指導者が博物館を参観する報道はこれに含まれない				2							
3.1.4.5	新聞雑誌のレベル					5							
	全国中央紙					5							
	省級紙					3							
	市、県級紙					1							
3.1.5	博物館の大衆への影響力	三年度分の観客構成				10							
	国外の観客が観客総数の30%以上を占める					10							
	国内の遠方観客が観客総数の30%以上を占める	施設が所属する行政区分レベルに応じた行政区画外の観客。例えば、省級博物館の遠方観客とは施設がある省外からの観客、県級博物館の遠方観客とは県外からの観客を指す。				5							
	国内の遠方観客が観客総数の10%以上					2							
3.1.6	博物館の評判	旅行者の意見を参考に採点				10							
	とても素晴らしい評判	95%以上の旅行者と大多数の専門家の賞賛				10							

	良い評判	85%以上の旅行者と大多数の専門家の賞賛			8					
	まあまあ良い評判	75%以上の旅行者と多くの専門家の賞賛			5					
	ある程度の評判	65%以上の旅行者と部分的な専門家の賞賛			2					
3.1.7	旅行影響力	三年以内に国内外の大手旅行者の固定旅行プランの中に該当施設が観光スポットとして含まれているか			10					
	国際旅行推薦観光地				10					
	国内旅行推薦観光地				6					
	省級旅行推薦観光地				3					
3.1.8	輸出入展示	三年以内の施設が独立或いは主催もしくは責任を負った輸出入展示			10					
	輸出展覧を行う	収蔵品を貸し出しているの展示を除く				5				
	輸入展覧を行う					5				
3.2	展示と教育			245						
3.2.1	展示場				15					
3.2.1.1	空気は清潔且つ質が良い					2				
3.2.1.2	清潔で衛生的					2				
3.2.1.3	照明が設計規格に合致する	『博物館照明設計規範』を参照に採点				5				
3.2.1.4	展示ケース環境が展示品保護に適切	『館蔵文物保存環境基準試行規範』を参照に採点				6				
	全ての展示ケース					6				
	貴重品展示ケース					4				
	一級文物展示ケース					2				
3.2.2	基本陳列				100					
3.2.2.1	テーマ選択					15				
	テーマが明確且つ施設の特徴を示している						5			
	展覧テーマが独創的						5			
	展覧テーマに時代感がある						5			
3.2.2.2	実行可能性分析報告がある						4			

3.2.2.3	計画に科学的合理性がある					4				
3.2.2.4	陳列大綱があり、専門家の論証を経ている	専門家のサインと論証意見を調査				5				
3.2.2.5	展示品組織が適当					5				
3.2.2.6	形式設定					1 5				
	陳列テーマと思想内容を正確に伝えている						4			
	芸術的風格に優れている						3			
	展示の導線がスムーズ						2			
	補助的展示品の運用が適当						2			
	音声、電光等の科学技術の運用が適当						3			
	説明札が精緻且つ美観を備える						1			
3.2.2.7	優れた作りである						5			
3.2.2.8	展覧のインタラクティブ、面白み	現場視察と観客の抜き打ち調査					5			
3.2.2.9	文字説明					1 0				
	正確、適当						3			
	大衆向き、分かりやすい						3			
	情報量が多い	文字説明が一般の観客が展示品と展覧の多く情報を理解させる					2			
	説明札が二種類以上の言葉で書かれている						2			
3.2.2.10	展示品が常に更新されている	収蔵品の流用状況を調査し、採点					5			
3.2.2.11	展示用具、展示品が清潔						2			
3.2.2.12	補助施設の正常な使用						5			
3.2.2.13	調査評価手続の履行						5			
3.2.2.14	受賞状況	三年以内に獲得した最高の賞					1 0			
	十大陳列精品など国家級の賞の獲得	精品賞、特別賞は満点。単項賞、ノミネート賞は8点					1 0			
	省級の賞の獲得						7			
	地方(市)級の賞の獲得						4			
3.2.2.15	陳列展覧資料の保存が整っている						5			

3.2.3	特別展	三年以内に行われた特別展の年度平均値を計算する。国外展覧及び商品即売会は含まない			5 0					
3.2.3.1	数量					1 5				
	10 個以上					1 5				
	6-9 個					1 0				
	3-5 個					7				
	1-2 個					3				
3.2.3.2	実行モデル					6				
	自主創作						2			
	導入展覧						2			
	合同展覧						2			
3.2.3.3	宣伝推薦紹介					5				
	専門の特別展宣伝推薦紹介の職員がいる						1			
	事前計画がある						2			
	特別展宣伝プランがある						2			
3.2.3.4	宣伝形式					7				
	テレビ						1			
	ラジオ						1			
	新聞						1			
	ネット						1			
	ポスター						1			
	開会式						1			
	その他の形式						1			
3.2.3.5	特別展の観客動員人数	三年以内に開催された特別展の観客総人数を開催日数で割る				9				
	一日平均 2000 人以上					9				
	一日平均 1500~1999 人					7				
	一日平均 1000~1499 人					5				
	一日平均 1000 人以下					2				
3.2.3.6	社会評価	関連する評価を調査				8				
	新聞の評価が良い						2			

	テレビ、ラジオの評価が良い						2				
	ネットの評価が良い						1				
	観客の伝言評価が良い						3				
3.2.4	社会教育				50						
3.2.4.1	社会教育機構がある						3				
3.2.4.2	社会教育に従事する専門職員がいる						3				
3.2.4.3	社会教育の展開					10					
	社会各層の観客への教育プランがある						4				
	教育管理部門と疎通協力	効果を斟酌して採点					3				
	異なる機関と協力した教育活動を行う	効果を斟酌して採点					3				
3.2.4.4	巡回展	三年間の年平均順回数を計算				15					
	その他の都市への巡回展	一回実施毎に2点、最高6点					6				
	地域の巡回展	一回実施毎に1点、最高3点					3				
	学校の巡回展	一回実施毎に1点、最高3点					3				
	田舎の巡回展	一回実施毎に1点、最高3点					3				
3.2.4.5	講座	施設が組織した、施設の性質、得点と合致した講座。三年以内の平均回数を計算				12					
	地域で開催した講座	一回実施毎に1点、最高3点					3				
	企業、機関で開催した講座	一回実施毎に1点、最高3点					3				
	学校で開催した講座	一回実施毎に1点、最高3点					3				
	田舎で開催した講座	一回実施毎に1点、最高3点					3				
3.2.4.6	館内に専門の教育エリアを設置	専門のみ青年展示室、教室、活動室などがあると2点。その他は1点					2				
3.2.4.7	教育基地	愛国主義教育、国防、科学普及教育基地等、最高級で計算					5				
	国家級					5					
	省級					3					
	地方(市)級					2					
	県級					1					
3.2.5	解説サービス				30						

3.2.5.1	解説職員の人数	受け入れ規模に応じ、完全に需要を満たすと3点、基本的に需要を満たすと2点、一定の人数の解説員がいると1点。				3				
3.2.5.2	解説言語					7				
	中国語						2			
	国内の少数民族言語						2			
	英語						2			
	その他	手話など					1			
3.2.5.3	解説職員					5				
	全員が大卒以上の文化レベルを持ち、共通語が標準。					5				
	全員が大学専門学校（日本でいう短大：訳者注）卒以上の文化レベルを持ち、大卒以上の職員が70%以上。共通語が標準。					4				
	全員が中等専門学校（中卒または高卒の学歴を有する者を対象に2年間の実務的な教育を行う：訳者注）卒以上の文化レベルを持ち、専門学校卒以上の職員が70%以上。共通語が標準。					3				
	全員が中等専門学校以上の学歴を持つ。共通語が標準。					1				
3.2.5.4	自動音声解説システム					4				
	無料使用					4				
	有償使用					2				
3.2.5.5	多言語の自動音声解説システム	3言語以上				2				
3.2.5.6	解説の言葉	関連資料を調査し、状況に応じ採点				5				
	科学的、正確、生き生きとしている、文化的な言葉、						3			
	社会的階層に合わせた言葉						2			
3.2.5.7	無料解説					4				
	全面無料解説					4				
	定時無料解説					2				
3.3	社会サービス			135						
3.3.1	観衆組織				1					
					0					

3.3.1.1	「博物館友の会」などの観衆組織がある	博物館友の会は熱心に博物館に対し、人力、財力、知力の支援をする人士と機構である。博物館会員とも称す。				3				
3.3.1.2	組織の長期プランがある					2				
3.3.1.3	人員人数、構成の合理性					2				
3.3.1.4	定期的に活動を行う	年度の活動記録、活動一回につき1点、三点以内				3				
3.3.2	ボランティア	ボランティア名簿の抜き打ち調査とインタビュー			10					
3.3.2.1	ボランティアグループ					5				
	一定規模のボランティアグループがある	施設の世話係とボランティアの比率が10:10				5				
	安定したボランティアグループがある	施設の世話係とボランティアの比率が10:8				3				
	基本的に安定したボランティアグループがある	施設の世話係とボランティアの比率が10:5				2				
	ボランティア					1				
3.3.2.2	定期的にボランティアの訓練が行われる	年度につき1回行われれば1点。最高3点。				3				
3.3.2.3	ボランティアサービス	各ボランティアは毎年博物館のために、年最低12回以上、累計時間48時間以上働く。30%以上のボランティアの作業時間が上記の規定に達しない場合は0点。				2				
3.3.3	開館				20					
3.3.3.1	開館時間					5				
	1年中開館	365日				5				
	年300日以上開館					3				
	年240日以上開館	開館日数が240日未満の場合は0点				2				
3.3.3.2	無料開放	無料開放の方法と制度を公開する				10				
	全面無料開放					10				
	定期的な無料開放、期間は年52日以上。同時に未成年等特定の通年無料開放を実施。					6				
	未成年など特定の通年、定期的無料開放					4				
3.3.3.3	無料開放の観客比率	三年内の平均観客動員数				5				
	総観客動員数の80%以上					5				
	総観客動員数の40%以上					3				



	総観客動員数の 10% 以上					1				
3.3.4	交通					10				
3.3.4.1	公共交通が通っている					4				
3.3.4.2	駐車場或いはその他の駐車措置がある					4				
3.3.4.3	博物館外部の停車、誘導標識がはっきりと分かる					2				
3.3.5	参観遊覧サービス					25				
3.3.5.1	入場券の販売所					2				
	室内にある					2				
	屋外にある	天井等の雨、雪、日光などを遮るものがあれば、室内と見なす。				1				
3.3.5.2	案内図					2				
3.3.5.3	内部の参観導線は合理的、スムーズ、標識がはっきりと分かる	参観導線の科学的配置、緊急避難経路がある等を総合的に考慮する				3				
3.3.5.4	無料資料提供がある	博物館紹介、展覧紹介、文物収蔵品紹介資料を含む。随時発行できる				3				
3.3.5.5	無料荷物預かりがある					2				
3.3.5.6	記念品、書籍販売のサービスがある	博物館書店、記念品売り場は施設の特徴とサービスの状況に基づき採点				2				
3.3.5.7	食事を提供するサービスがある	食事を提供する施設とその衛生状況により採点				2				
3.3.5.8	特殊な人のためのサービス	老人、障害者、自動のための特殊サービスの設置状況に基づき採点				3				
3.3.5.9	展示ホール内に観客用の休憩場所がある					2				
3.3.5.10	衛生施設	トイレの標識が分かりやすい、数が十分ある、衛生的、清潔、ごみの随時清掃、汚物の排出、廃物管理規範が有る等状況に基づき採点				4				
3.3.6	ウェブサイト、情報資料、マルチメディアサービス					20				
3.3.6.1	ウェブサイトの内容					5				
	内容が豊富					5				
	内容が一般的					2				
3.3.6.2	サポート言語					2				
	多くのサポート言語がある					2				
	中国語のみ					1				

3.3.6.3	ウェブサイトのデザインが美しい、生き生きとしている、芸術的である					3					
3.3.6.4	ウェイ部サイトの内容が随時更新される	毎週1度以上更新なら2点、毎月一度更新なら1点				2					
3.3.6.5	情報資料サービス					2					
	情報資料センターの完備、資料が豊富					2					
	図書資料室があり、資料が豊富					1					
3.3.6.6	マルチメディアサービス					3					
	内容が豊富					3					
	内容が基本的に観客の要求を満たす					1					
3.3.6.7	映像サービス					3					
	専門の映像室がある					3					
	映像放送施設があるのみ					1					
3.3.7	文化製品の製造開発、経営				2	0					
3.3.7.1	製品が施設の収蔵品と陳列展示の特徴を反映している					3					
3.3.7.2	製品のデザインが優れている					2					
3.3.7.3	製品に品位と内容がある					3					
3.3.7.4	製品の種類が豊富					2					
3.3.7.5	製品販売					1	0				
	様々な階層の人にあった商品がある							3			
	一種類以上の人気商品があり、売上げが高い							4			
	販売計画があり、ルートが安定している							3			
3.3.8	各種サービス				5						
3.3.8.1	制度が認知され、掲示がある							1			
3.3.8.2	観客のための荷物預かりがある							2			
3.3.8.3	観客に資料調査、収蔵品修復保護の質問と補助を提供する							2			
3.3.9	観客調査と苦情受付				1	5					

3.3.9.1	定期的に観客の調査をしている	年に6回以下は0点。サンプル調査				2				
3.3.9.2	観客の意見を集める方法					2				
	様々な方法がある	ネット調査、アンケート、伝言ノートなど				2				
	一つの方法しかない	伝言ノートのみ				1				
3.3.9.3	観客の意見をどれだけ集めたか	前年度の統計データに基づく				3				
	1000人以上					3				
	1000人以下					1				
3.3.9.4	観客の意見の処理	データの意見を分析、通達、改善措置がある				3				
	状況の分析がある						1			
	状況の通報がある						1			
	状況の改善がある						1			
3.3.9.5	観客のクレーム					5				
	クレーム処理制度が健全なものである						1			
	クレームサービスがある	クレーム対応室、電話、メールボックスがある					1			
	クレーム処理が随時、適切	処理記録のサンプル調査					3			
3.4	観客動員する	三年以内の年平均観客動員する		30						
	90万人以上				3					
	60万以上～90万人未満				0					
	30万以上～60万人未満				2					
	20万以上～30万人未満				5					
	10万以上～15万人未満				2					
	5万以上～10万人未満				1					
	5万人以下				0					
総合得点	自己採点	推薦単位採点								評価単位採点欄

前掲「評分細則計分表（修訂） 下載」（博物館評価基準点数表）所載

（翻訳：西川 芳樹）

### 3 ICOM 関係機関一覧

名称（日本語）	略称	正式名称
国際博物館会議	<b>ICOM</b>	The International Council of Museums

#### ICOM 国際委員会 : The International Committees of ICOM

名称（日本語）	略称	正式名称
視聴覚と新技術国際委員会	<b>AVICOM</b>	International Committee for Audiovisual & Image & Sound New Technology
教育と文化活動国際委員会	<b>CECA</b>	International Committee for Education & Cultural Action
ドキュメンテーション国際委員会	<b>CIDOC</b>	International Committee for Documentation
現代美術の博物館とコレクション国際委員会	<b>CIMAM</b>	International Committee for Museums & Collections of Modern Art
楽器の博物館とコレクション国際委員会	<b>CIMCIM</b>	International Committee for Museums & Collections of Musical Instruments
科学技術の博物館とコレクション国際委員会	<b>CIMUSET</b>	International Committee for Museums & Collections of Science & Technology
エジプト学国際委員会	<b>CIPEG</b>	International Committee for Egyptology
衣装の博物館とコレクション国際委員会	<b>COSTUME</b>	International Committee for Museums & Collections of Costume
伝統建築物に関する博物館国際委員会	<b>DEMIST</b>	International Committee for Historical House Museums
ガラスの博物館・コレクション国際委員会	<b>GLASS</b>	International Committee for Museums & Collections of Glass
建築と博物館技術国際委員会	<b>ICAMT</b>	International Committee for Architecture & Museums Techniques
応用美術の博物館・コレクション国際委員会	<b>ICDAD</b>	International Committee for Museums & Collections of Decorative Arts & Design
展示交流委員会	<b>ICEE</b>	International Committee on Exhibition Exchange

美術の博物館・コレクション国際委員会	<b>ICFA</b>	International Committee for Museums & Collections of Fine Arts
文学博物館国際委員会	<b>ICLM</b>	International Committee for Literary Museums
考古学と歴史の博物館とコレクション国際委員会	<b>ICMAH</b>	International Committee for Museums & Collections of Archaeology & History
民族学の博物館・コレクション国際委員会	<b>ICME</b>	International Committee for Museums & Collections of Ethnography
公共に対する犯罪犠牲者追憶のための記念博物館国際委員会	<b>ICMEMO</b>	International Committee of Memorial Museums in Remembrance of Victims of Public Crimes
博物館保安国際委員会	<b>ICMS</b>	International Committee for Museum Security
博物館学国際委員会	<b>ICOFOM</b>	International Committee for Museology
武器・軍事に係わる博物館国際委員会	<b>ICOMAM</b>	International Committee for Museums of Arms & Military History
保存国際委員会	<b>ICOM-CC</b>	International Committee for Conservation
貨幣博物館国際委員会	<b>ICOMON</b>	International Committee for Money & Banking Museums
地方博物館国際委員会	<b>ICR</b>	International Committee for Regional Museums
研修国際委員会	<b>ICTOP</b>	International Committee for the Training of Personnel
運営管理国際委員会	<b>INTERCOM</b>	International Committee on Management
博物館マーケティング・PR国際委員会	<b>MPR</b>	International Committee for Marketing & Public Relations
自然史の博物館・コレクション国際委員会	<b>NATHIST</b>	International Committee for Museums & Collections of Natural History
大学付属の博物館とコレクション国際委員会	<b>UMAC</b>	International Committee for University Museums & Collections

出典 : ICOM 日本委員会 ホームページ 「ICOM 関係国際委員会の紹介」

<http://www.museum.or.jp/icom-japan/hp/international.html>

(ホームページ上には、上記の仕事内容に関する詳細説明も掲載)

## ICOM 地方機関 : Regional Organization of ICOM

名称 (日本語)	略称	正式名称
ICOM アジア太平洋委員会	<b>ASPAC</b>	International Council of Museums, Asia & Pacific
ICOM 西アフリカ委員会	<b>CIAO</b>	International Council of Museums, West Africa
ICOM 中央アフリカ委員会	<b>ICOMAC</b>	International Council of Museums, Central Africa
ICOM アラブ委員会	<b>ICOM-ARAB</b>	International Council of Museums, Arab
ICOM ヨーロッパ委員会	<b>ICOM-EUROPE</b>	International Council of Museums, Europe
ICOM ラテンアメリカ・カリブ海委員会	<b>LAC</b>	International Council of Museums, Latin America & Caribbean

出典: ICOM ホームページ “Regional Organisations of ICOM”

<http://www.museum.or.jp/icom-J/regionals.html>

## 国際支部機関 : The International Affiliated Organisations

名称 (日本語)	略称	正式名称
ヨーロッパ野外博物館協会	<b>AEOM</b>	Association of European Open-Air Museums
アフリカ博物館国際会議	<b>AFRICOM</b>	International Council of African Museums
農業博物館国際協会	<b>AIMA</b>	International Association of Agricultural Museums
インド洋博物館協会	<b>AMOI</b>	Association of Museums of the Indian Ocean
大英連邦博物館協会	<b>CAM</b>	Commonwealth Association of Museums
税関博物館国際協会	<b>IACM</b>	International Association of Custom Museums
歴史博物館国際協会	<b>IAMH</b>	International Association of Museums of History

運輸通信博物館協会	<b>IATM</b>	Association of Transports & Communication Museums
建築博物館国際連合	<b>ICAM</b>	International Confederation of Architectural Museums
海事博物館国際会議	<b>ICMM</b>	International Congress of Maritime Museums
カリブ海博物館国際協会	<b>MAC</b>	Museums Association of Caribbean
新博物館学国際運動	<b>MINOM</b>	International Movement for a New Museology
太平洋諸島博物館協会	<b>PIMA</b>	Pacific Islands Museums Association
博物館遺跡南部アフリカ開発共同体	<b>SEDCAMM</b>	Southern Africa Development Community Association of Museums and Monuments
芸術活動に係わる図書館・博物館国際協会	<b>SIBMAS</b>	International Association of Libraries and Museums of the Performing Arts

出典： ICOM ホームページ “The International Affiliated Organisations”

<http://www.museum.or.jp/icom-j/affiliates.html>

### <参考>

#### 国際ネットワーク : International Networks

名称 (日本語)	略称	正式名称
アジア・ヨーロッパ・ミュージアムネットワーク	<b>ASEMUS</b>	Asia-Europe Museum Network
文化行政研修センター欧州ネットワーク	<b>ENTAC</b>	European Network of Cultural Administration Training Centres

#### 4 ICOM アジア太平洋委員会 (ICOM-ASPAC) 国内委員会一覧

##### The National Committees of ICOM in Asia and Pacific





2009年3月現在

1. Afghanistan (アフガニスタン)
2. Australia (オーストラリア)
3. Azerbaijan (アゼルバイジャン)
4. Bangladesh (バングラデシュ)
5. Cambodia (カンボジア)
6. China People's Republic (中国)
7. India (インド)
8. Indonesia (インドネシア)
9. Iran (イラン)
10. Japan (日本)
11. Kazakhstan (カザフスタン)
12. Republic of Korea (韓国)
13. Kyrgyzstan (キルギスタン)
14. Lao (ラオス)
15. Malaysia (マレーシア)
16. Mongolia (モンゴル)
17. Nepal (ネパール)
18. New Zealand (ニュージーランド)
19. Philippines (フィリピン)
20. Singapore (シンガポール)
21. Sri Lanka (スリランカ)
22. Thailand (タイ)
23. Uzbekistan (ウズベキスタン)
24. Viet Nam (ベトナム)

アルファベット順





出典: ICOM-ASPAC International Council of Museums Asia-Pacific Alliance  
<http://aspac.icom.museum/board02.htm>



National	President	Membership Secretary
1  Afghanistan	<b>(Mr.) Omara Khan Masoudi</b> <i>Director General</i> Kabul National Museum Email : jim.williams@undp.org	<b>(Mr.) Mohammad Yayha Mohibzada</b> <i>Deputy Director</i> National Museums (c/o Unesco Office, Kabul )
	• Visit to Website : Afghanistan Online: Kabul Museum	
2  Australia	<b>Craddock Morton</b> <i>Director</i> National Museum of Australia Email : c.morton@nma.gov.au or icomaustralia@mac.com	<b>(Dr.) Joanna Wills</b> <i>Heritage Officer</i> Cultural Heritage Branch, Cairns Planning Division, Environmental Protection Agency Email : jwills@ihug.com.au or icomaustralia@mac.com
	• Visit to Website : ICOM-AUSTRALIA	
3  Azerbaijan	<b>(Mrs.) Roya Taghiyeva</b> <i>Director</i> State Museum of Azerbaijan Carpets and Applied Art Latif Kerimov Email : tagiyeva_r@rambler.ru	<b>(Mrs.) Leyla Hamidova</b> <i>Associate Professor</i> Azerbaijan Carpet and People Applied Art State Museum
	• Visit to Website : ICOM-AZERBAIJAN	
4  Bangladesh	<b>(Prof.) Mahmudul Haque</b> <i>Chairperson</i> Institute of Fine Arts Dhaka University Email : haque1945@yahoo.com	<b>(Mr. Md.) Nazrul Haque</b> <i>Secretary</i> Keeper and Head Dept. of Natural History Bangladesh National Museum Email : naz1953@yahoo.com
	• Visit to Website : National Museum of Bangladesh	

National	President	Membership Secretary
5  Cambodia	<b>(Mr.) Vann Molyvann</b> <i>Conseiller spécial du Roi</i> Présidence du Conseil des Ministres, Phnom-Penh Email : adm@autoriteapsara.org	<b>Mme Kerya Chau Sun</b> <i>Directrice du Département de Développement Touristique</i> Email : apsara.ddta@online.com.kh
	• Visit to Website : National Museum of Cambodia	
6  China	<b>(Mr.) Zhang Wenbin</b> <i>President</i> Chinese Society of Museums Email : icomzhwb@sina.com	<b>(Mr.) Yuan Nanzheng or Mr Wang Dan</b> <i>Secretary in charge of International Affairs</i> ICOM-China and Curator, Coins of the Silk Road China Numismatic Museum (Zhongguo Qianbi Bowuguan) Email : danenough@yahoo.com.cn or chinumis@public2.bta.net.cn
	• Visit to Website : National Museum of China	
7  India	<b>(Dr.) Arun Kumar Chatterjee</b> <i>Keeper of Anthropology</i> Indian Museum Kolkata, c/o Indian National Committee of the International Council of Museums (INC-ICOM) Email : akc.22@rediffmail.com	<b>(Dr.) Chandrabhanu Patel</b> Orissa State Museum , Bhubaneswar Email : cbpatelosm@yahoo.co.in
	• Visit to Website : National Museum of India	
8  Indonesia	<b>(Dr.) Hari Untoro Dradjat</b> <i>MA Director General</i> History and Archaeology Department of Culture and Tourism Email : untoro@budpar.go.id	<b>KRT. Thomas Haryonagoro</b> ICOM - INDONESIA Email : info@ullensentalu.com or thomasharyono@yahoo.com
	• Visit to Website : National Museum of Indonesia	

National	President	Membership Secretary
9  Iran	<b>(Mr.) Mir Seyyed Ahmad Mohit-Tabatabaie</b> Presentation and Education, Iranian Cultural Heritage Organization Email : Ah-tabatabaye@icom.ir	<b>(Mrs.) Mahdokht Mohit-Tabatabaie</b> <i>Advisor</i> Iranian Cultural Heritage Organization
	• Visit to Website : ICOM-IRAN / National Museum of Iran	
10  Japan	<b>Masamine Sasaki</b> <i>Director General</i> National Science Museum Email : icom@j-muse.or.jp	<b>(Ms.) Yoko Niizuma</b> <i>Secretary</i> Japanese National Committee for ICOM Email : icom@j-muse.or.jp or webmaster@j-muse.or.jp
	• Visit to Website : ICOM-JAPAN	
11  Kazakhstan	<b>(c/o) (Mr.) Amir Jadaibayev</b> <i>Deputy Director</i> The A. Kazteev State Museum of Arts Email : kazart@nursat.kz	<b>(Mr.) Amir Jadaibayev</b> <i>Deputy Director</i> The A. Kazteev State Museum of Arts Email : kazart@nursat.kz
	• Visit to Website : Central State Museum of Kazakhstan	
12  Korea	<b>(Prof.) Chong-pil Choe</b> <i>Professor</i> Museum of Sejong University Email : choecp@sejong.ac.kr	<b>(Attn) (Ms.) Bo-young Woo</b> ICOM KOREA / THE KOREAN MUSEUM ASSOCIATION C/O National Museum of Korea Email : icomkorea@dreamwiz.com
	• Visit to Website : ICOM-KOREA	

National	President	Membership Secretary
13  Kyrgyzstan	<p><b>(Mrs.) Mairam Ajibekovna Yusupova</b> <i>Director</i> Kyrgyz National Museum of Fine Arts Email : knmii@mail.ru or hadicha@mail.ru</p> <p>• Visit to Website :</p>	<p><b>(Mrs.) Kadicha Mambetalieva</b> Kyrgyz National Museum of Fine Arts Email : hadicha@mail.ru</p>
14  Laos	<p><b>(Mr.) Thongsa Sayavongkhamdy</b> <i>Director General</i> Dept. of Museums and Archaeology Ministry of Information and Culture Email : thongsas@hotmail.com</p> <p>• Visit to Website :</p>	
15  Malaysia	<p><b>(Mr.) Ibrahim Ismail</b> <i>Director</i> Department of Museums Malaysia Email : ibrahim@jmm.gov.my</p> <p>• Visit to Website : National Museum of Malaysia</p>	<p><b>(Miss) Janet Tee Siew Mooi</b> <i>Setiausaha Kehormat</i> C/o Department of Museums and Antiques Email : janetsm@jma.gov.my</p>
16  Mongolia	<p><b>(Mrs.) Tsedmaa Damdinsuren</b> <i>Director</i> Mongolian Theatre Museum E-mail : dtsedmaa@yahoo.com</p> <p>• Visit to Website : National Museum of Mongolia</p>	<p><b>(Mrs.) Oyuntegsh Norovtseren</b> <i>Curator</i> Zanabazar Museum of Fine Arts E-mail : tegshee5@yahoo.com</p>

National	President	Membership Secretary
----------	-----------	----------------------

17

**(Mr.) Jal Krishna Shrestha**

*Joint-Secretary*

Department of Culture, Ministry of  
Culture, Tourism and Civil

Aviation

c/o Rastriya Sangrahalaya

(National Museum of Nepal),

Museum Road , Chhauni

Email : [icomnepal@wlink.com.np](mailto:icomnepal@wlink.com.np)

• Visit to Website :



Nepal

**(Mr.) Bharat Raj Rawat**

*Senior Curator*

National Museum of Nepal

Email : [drrawat@wlink.com.np](mailto:drrawat@wlink.com.np)

18

**Greg McManus**

*Director*

Rotorua Museum of Art & History

Email :

New Zealand [greg.mcmanus@rdc.govt.nz](mailto:greg.mcmanus@rdc.govt.nz)



19

**(Ms.) Corazon Alvina**

*Director*

National Museum of the  
Philippines

Email : [nmuseum@i-next.net](mailto:nmuseum@i-next.net) or  
[poping@info.com.ph](mailto:poping@info.com.ph)

Philippines



**(Mrs.) Nelda Isuga Sansaet**

*Secretariat*

National Committee of Museums

*Administrative Officer*

Metropolitan Museum

Central Bank Complex Roxas Blvd.

Email : [info@metmuseum.ph](mailto:info@metmuseum.ph)

**(Prof.) Marlene Socorro R.Samson**

*Curator*

University Museum, University of San Carlos

Email : [museum@usc.edu.ph](mailto:museum@usc.edu.ph)

• Visit to Website : National Museum of Philippines

National	President	Membership Secretary
20  Singapore	<b>(Mr.) Michael Koh</b> <i>Chief Executive Officer</i> National Heritage Board Email : michael_koh@nhb.gov.sg	<b>(Ms.) Eng Su</b> <i>Manager, Corporate Development</i> Corporate Services and Planning National Heritage Board Email : eng_su_yee@nhb.gov.sg
	• Visit to Website : National Museum of Singapore	
21  Sri Lanka	<b>(Mrs.) Nanda Wickramasinghe</b> <i>Director</i> Department of National Museums, Ministry of Cultural Affairs Email : nmdep@slt.lk	<b>(Mrs.) Mayuri Munasinghe</b> <i>Assistant Director</i> Botany National Museums Department Email : mayurimunasinghe@yahoo.com
	• Visit to Website : National Museum of Sri Lanka	
22  Thailand	<b>(Mr.) Veera Rojpojanarat</b> <i>Permanent Secretary of Culture</i> Ministry of Culture	<b>(Mrs.) Somlak Charoenpot</b> <i>Deputy Director General</i> The Fine Arts Department, Ministry of Culture Na Phra That Road Bangkok 10200 Email : somlakc@hotmail.com
	• Visit to Website : National Museum of Thailand	
23  Uzbekistan	<b>(Mr.) Donyolbek Boltabaev</b> Uzbekistan Council of Museums Email : doniyol@yahoo.com	
	• Visit to Website :	

**National**

**President**

**Membership Secretary**

24

**(Dr.) Dang Van Bai**

*Director*



Vietnam

Department of National Cultural  
Heritage of Viet Nam, Ministry of  
Culture and Information

Email : Nchdvn@hn.vnn.vn or  
ninh@dch.gov.vn

• Visit to Website : National Museum of Vietnam

## 5 アジア太平洋地域 博物館協会一覧

### National Museums Associations in Asia and Pacific

2009年3月現在

- 1 Australia (オーストラリア)
- 2 China People's Republic (中国)
- 3 Republic of China (台湾)
- 4 India (インド)
- 5 Japan (日本)
- 6 Korea (韓国)
- 7 New Zealand (ニュージーランド)
- 8 Pakistan (パキスタン)
- 9 Philippines (フィリピン)

アルファベット順

出典： ICOM ホームページ “National Museums Associations” (アジア太平洋地域 抜粋)

[http://www.museum.or.jp/icom-J/nat\\_as\\_mus.html](http://www.museum.or.jp/icom-J/nat_as_mus.html)



## 1 **Australia** (オーストラリア)

### **Museums Australia Incorporated** (オーストラリア博物館協会)

Mailing address: National Office, P.O. Box 266, Civic Square ACT 2608

Tel. +61 (0)2 62 08 50 44 Fax +61 (0)2 62 08 51 49

Email : natdirector@museumsaustralia.org.au

Web site : <http://www.museumsaustralia.org.au/>

## 2 **China People's Republic** (中国)

### **Chinese Society of Museums** (中国博物館協会)

No. 29, Wusi Street, Beijing 100009

Tel. +86 (0)10 65 55 1639 Fax +86 (0)10 65 55 1555

Email : museums@public3.bta.net.cn

### **Chinese Association of Natural Science Museums** (中国自然史博物館協会)

Beijing Natural History Museum, 126 Tien Chiao Street, Beijing 100050

Tel. +86 (0)10 67 05 39 97 - 67 02 44 31

Fax +86 (0)10 67 01 14 08

Email: cansm@vip.sina.com Web site: [www.cansm.org](http://www.cansm.org)

## 3 **Republic of China** (台湾)

### **Chinese Association of Museums, Taipei** (台湾 台北博物館協会)

Contact Person: James Quo-Ping Lin, Secretary-General

221 Sec. 2 Jhih-shan Road, Shihlin District, Taipei 111, Taiwan ROC

Tel. +886 2 2881 2021 (ext. 2812) , Fax +886 2 2881 2021

Email : service@cam.org.tw Web site : <http://www.cam.org.tw>

## 4 **India** (インド)

### **Museums Association of India** (インド博物館協会)

c/o National Museum

Janpath, New Delhi - 110011, India

**Indian Association for the Study of Conservation of Cultural Property**

(インド文化財保護学協会)

c/o National Museum Institute, Janpath, New Delhi – 110011

Tel. +91 (0)11 30 16 098, 37 92 217 Fax +91 (0)11 30 19 821, 30 11 901

President: Fax +91 (0)11 30 18 159 (91 011)

Secretary–Treasurer: Fax +91 (0)11 30 19 821 (91 011)

**5 Japan (日本)**

**Nihon hakubutsukan kyokai/ Japanese Association of Museums**

(日本博物館協会)

Shouyu Kaikan 3-3-1, Kasumigaseki Chiyoda-ku, Tokyo

Tel. +81 (0)3 35 91 71 90 Fax +81 (0)3 35 91 71 70

Email : webmaster@j-muse.or.jp Web site : <http://www.j-muse.or.jp>

**6 Korea (韓国)**

**The Korean Museum Association (韓国博物館協会)**

c/o National Museum of Korea, 1-57 Sejongno, Chongno-Gu, Seoul 110-050

Tel. +82 (0)2 73 50 230 or 39 85 190 Fax +82 (0)2 73 50 231

Web site: <http://museum.or.kr>

**7 New Zealand (ニュージーランド)**

**The Museums of New Zealand Inc. (ニュージーランド博物館協会)**

Museums Aotearoa

Level 8, 104 The Terrace, Wellington, New Zealand, PO Box 10 928, Wellington

Tel. +64 (0)4 49 91 313 Fax +64 (0)4 49 96 313

Email : [mail@museums-aotearoa.org.nz](mailto:mail@museums-aotearoa.org.nz)

Web site : <http://www.museums-aotearoa.org.nz/>

**Museum Directors Federation (博物館長連盟)**

PO Box 6401 Te Aro, Wellington

Tel. +64 (0)4 38 44 473 Fax +64 (0)4 38 51 198

## **7 New Zealand** (ニュージーランド)

### **Art Galleries and Museums Association of New Zealand**

(ニュージーランド博物館・美術館協会)

c/o Museum of New Zealand Te Papa Tongarewa

Cable St , Wellington 6020, POB 467

Tel. +64 (0)4 38 17 000 Fax 38 17 080

Email: mail@tepapa.govt.nz

## **8 Pakistan** (パキスタン)

### **The Museums Association of Pakistan** (パキスタン博物館協会)

c/o Bait al-Hikmah,

Hamardy University Sharae Madinat al-Hikmah

Karachi 74700

Tel. +92 (0)21 69 60 01/02 Fax +92 (0)21 63 50 574

Email : huvc@cyber.net.pk

## **9 Philippines** (フィリピン)

### **Museum Volunteers of the Philippines** (フィリピン博物館ボランティア協会)

Dasmariñas, POB 8052, 1222 Makati

Email : MVPhilippines@hotmail.com

Web site : <http://mvphilippines.hypermart.net>